

### Ⅲ 調査結果の概要



### Ⅲ 調査結果の概要

#### 1. 男女平等に関する意識について

##### (1) 男女の地位の平等感

問1 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

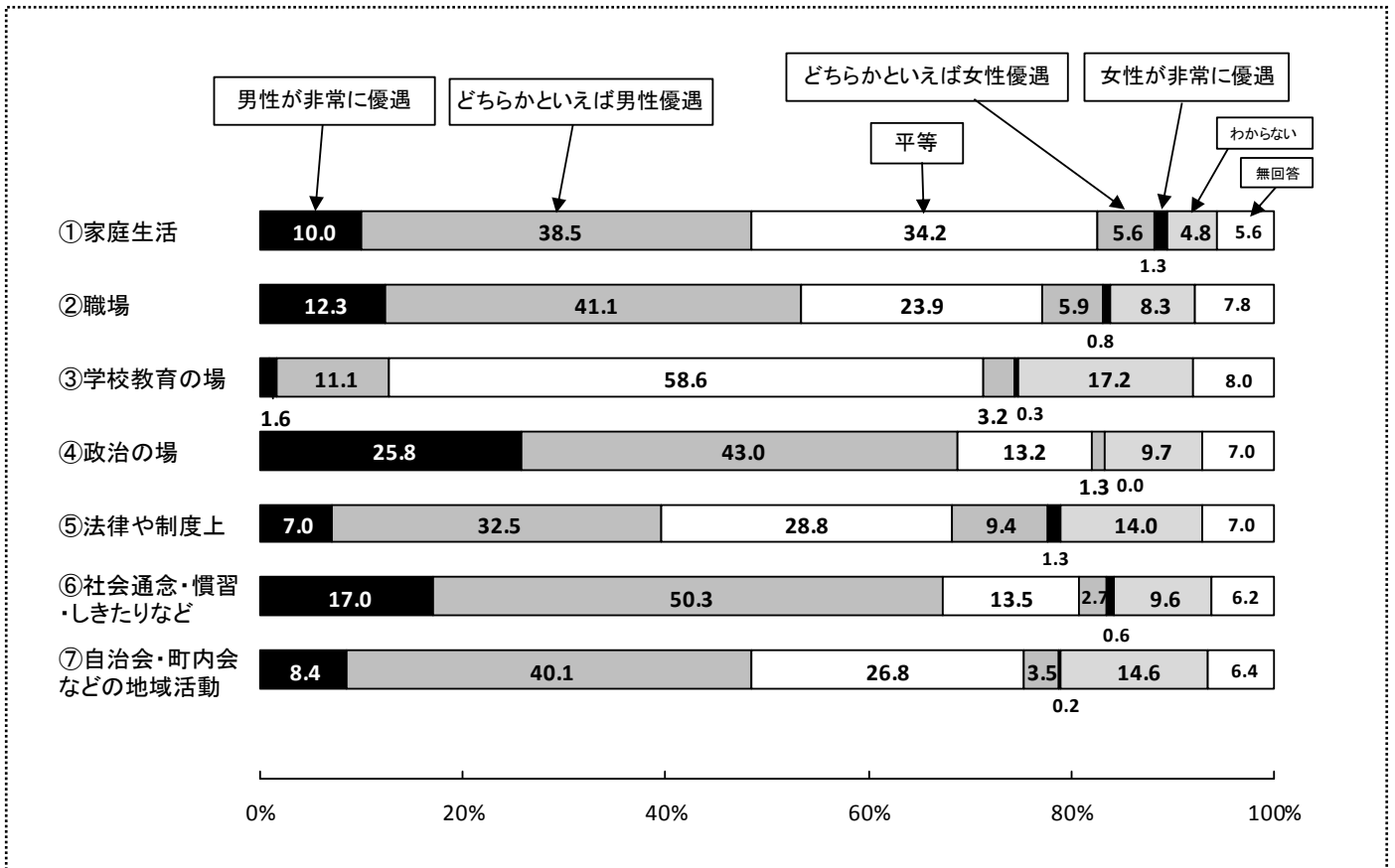
(☑はそれぞれ1つずつ)

- ①家庭生活 ②職場 ③学校教育の場 ④政治の場 ⑤法律や制度上  
⑥社会通念・慣習・しきたりなど ⑦自治会・町内会などの地域活動

7つの分野における男女の平等感を全体でみると、「平等」とした割合は「学校教育の場」が58.6%と最も多く、次いで「家庭生活」が34.2%、「法律や制度上」が28.8%、「自治会・町内会などの地域活動」が26.8%となっている。

男性優遇（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性優遇」）とした割合は、「政治の場」が68.8%、「社会通念・慣習・しきたりなど」が67.3%と7割近くを占め、「職場」が53.4%、「家庭生活」が48.5%となっており、「学校教育」を除く6つの分野で「平等」を上回っている。

図 1-1 男女の平等感



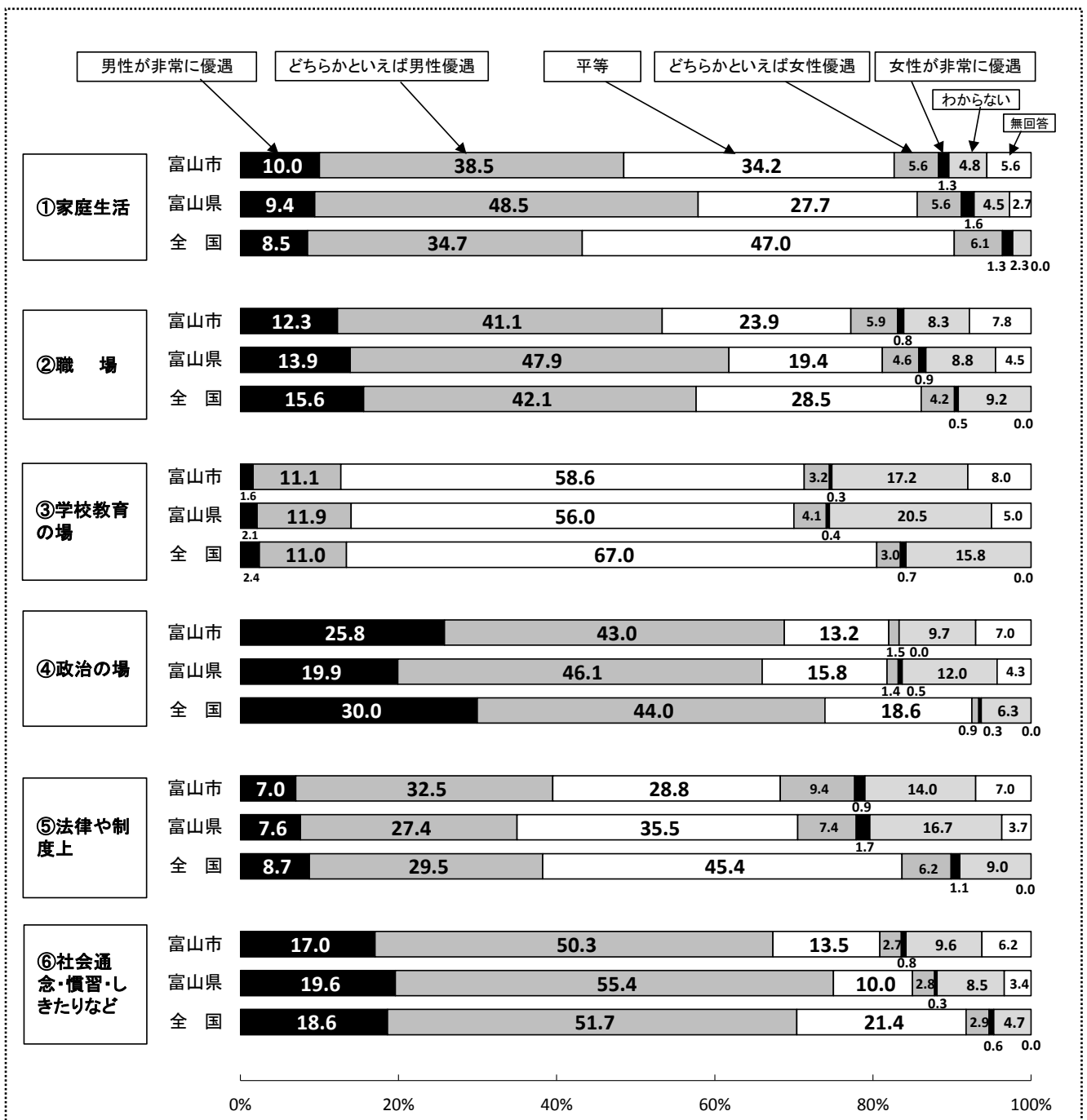
6つの分野において富山県、全国と比較してみる。

富山市において最も平等感の高かった「学校教育の場」は、全国、富山県でも「平等」が最も多くなっているが、特に全国は67.0%と、富山市（58.6%）に比べて8.4ポイント多い。

「家庭生活」では平等とした割合は、全国が47.0%と半数近くを占め、富山市（34.2%）を12.8ポイント上回っている。

「職場」では男性優遇とした割合が、富山市は53.4%と、富山県（61.8%）、全国（57.7%）と比べると少ない。「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」では、男性優遇とした割合が富山市、富山県、全国のいずれでも多く約7割となっている。「法律や制度上」では平等とした割合が、全国では45.4%を占めるが、富山市（28.8%）は16.6ポイント少ない。

図 1-2 男女の平等感（全国、富山県との比較）



※富山市：N=628 富山県（H21）：N=1,016 全国（H24）：N=3,033

次に、7つの分野ごとにみることとする。

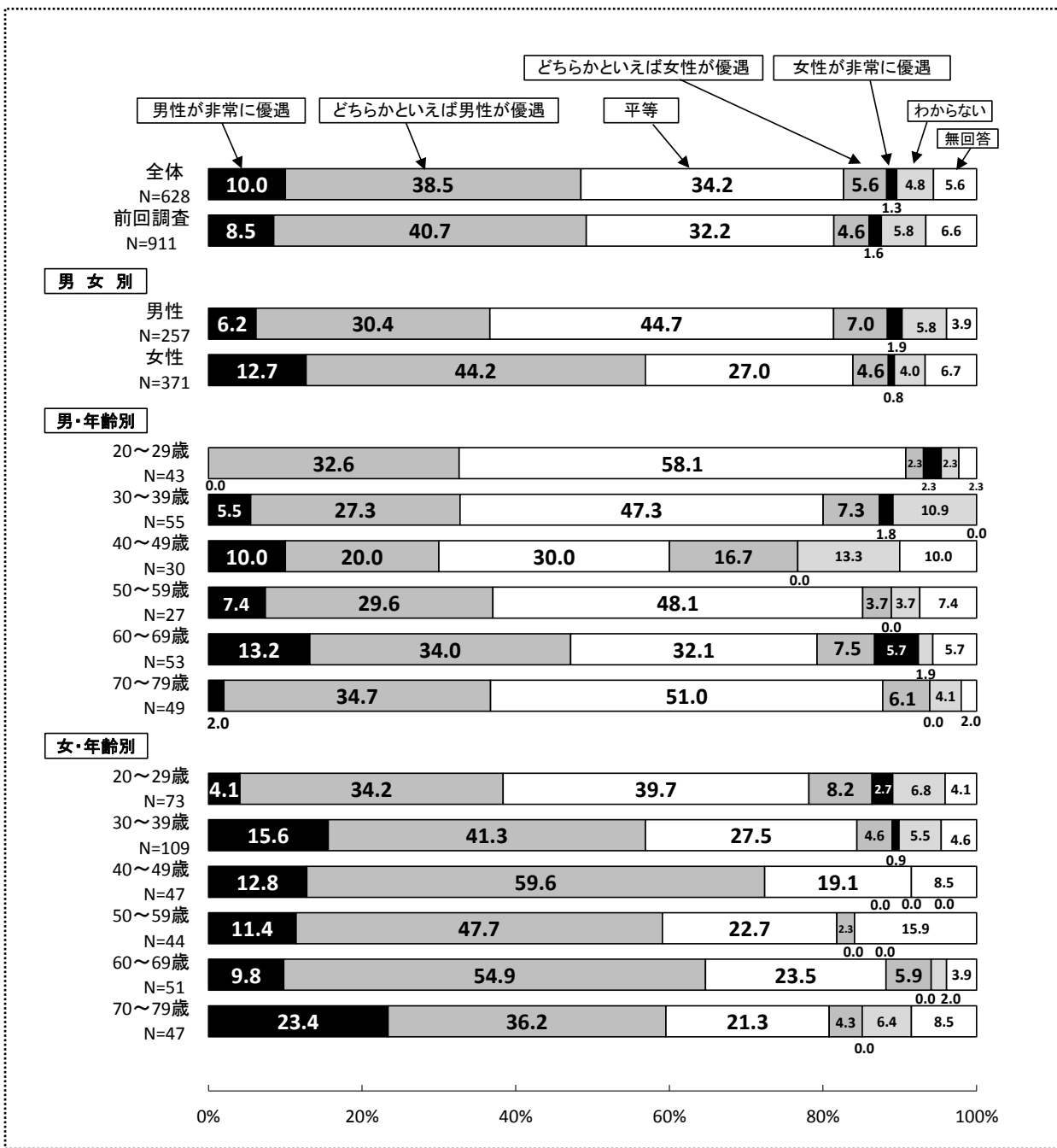
①家庭生活

家庭生活における平等感をみると、「平等」は34.2%、男性優遇（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性優遇」）とした割合が48.5%、女性優遇（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性優遇」）とした割合が6.9%となった。

前回調査（平成22年）と比較すると、「平等」が2.0ポイント増加し、男性優遇とした割合が0.7ポイント減少した。

男女別では、男性は「平等」が44.7%と女性を17.7ポイント上回っている。女性は男性優遇とした割合が56.9%と、男性に比べて20.3ポイント多い。特に女性の「40歳代」は男性優遇とした割合が72.4%と、他の年齢層に比べて多くなっている。

図 1-3 男女の平等感（家庭生活）



## ②職場

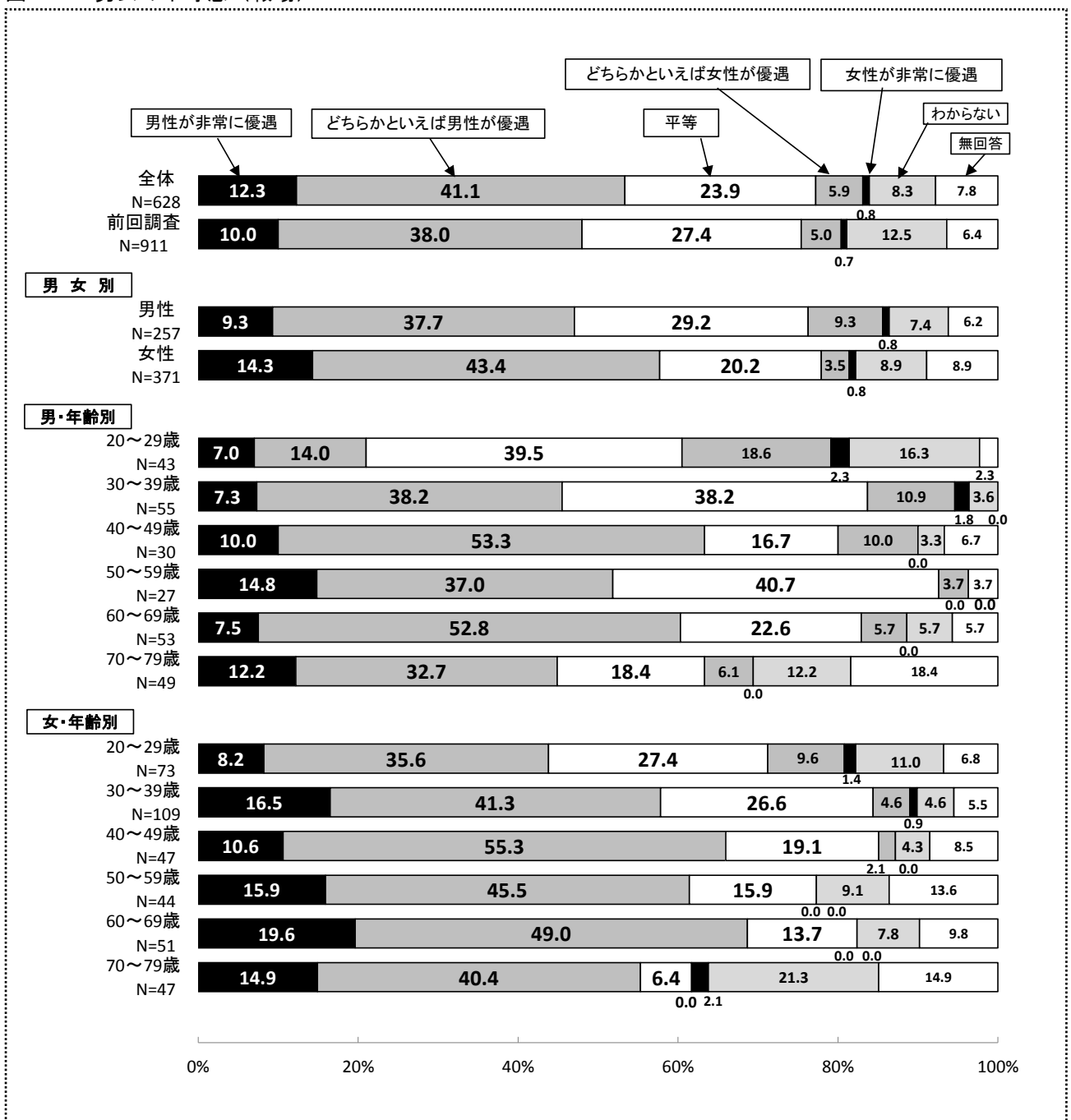
職場における平等感をみると、「平等」は23.9%、男性優遇とした割合が53.4%、女性優遇とした割合が6.7%となった。

前回調査と比較すると、「平等」が3.5ポイント減少し、男性優遇とした割合が5.4ポイント増加した。

男女別では、男性は「平等」が29.2%と女性を9.0ポイント上回っている。女性は男性優遇とした割合が57.7%と、男性に比べて10.7ポイント多い。

性別年齢別でみると、男性は「40歳代」が、女性は「60歳代」「40歳代」が、男性優遇とした割合が多い。

図 1-4 男女の平等感（職場）



### ③学校教育の場

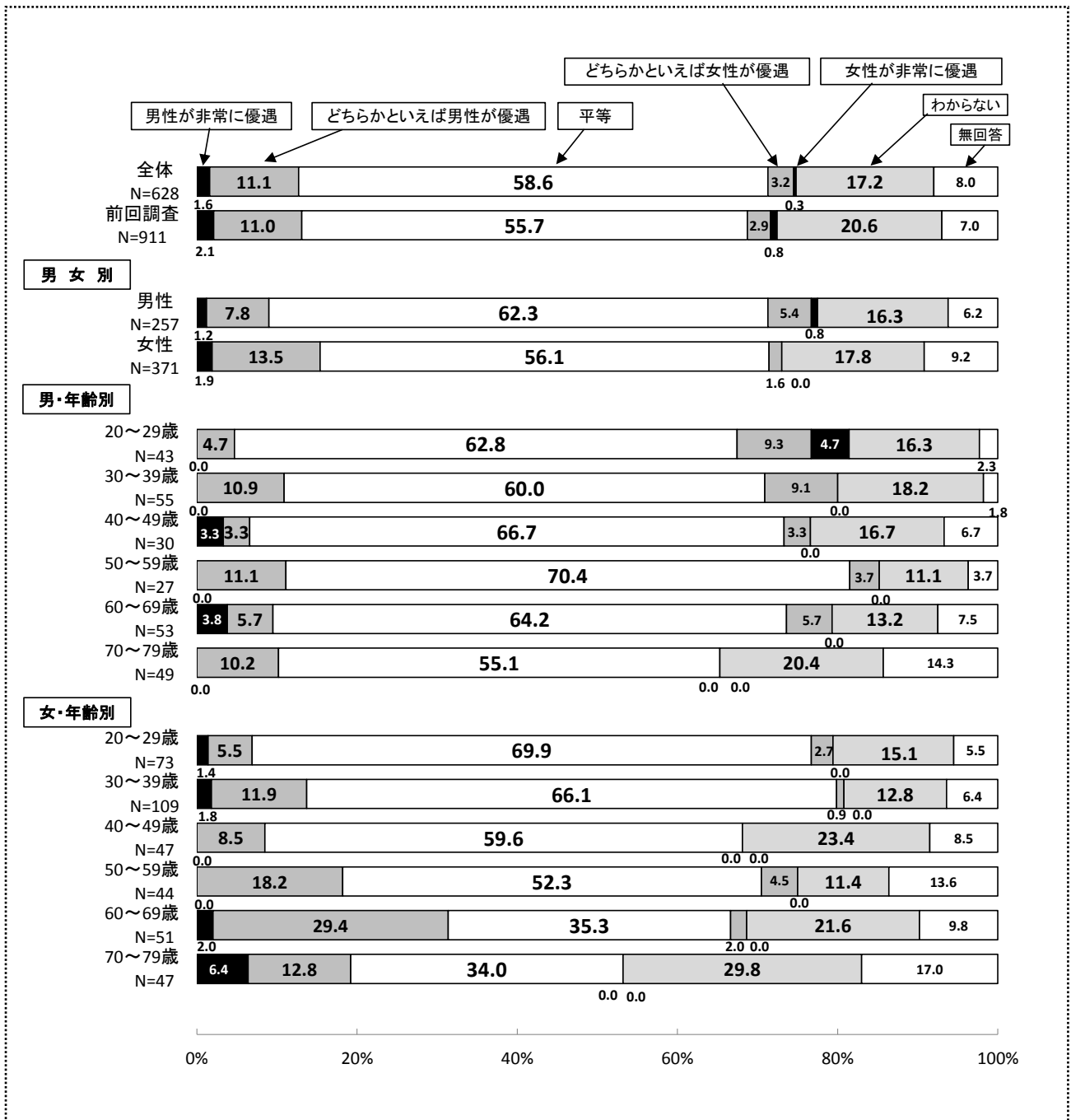
学校教育の場における平等感は7つの分野のうち、最も平等感が高い分野である。「平等」が58.6%を占め、男性優遇とした割合は12.7%、女性優遇とした割合は3.5%となった。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となった。

男女別では、男性の方が「平等」とした割合が多く62.3%と、女性を6.2ポイント上回っている。

性別年齢別でみると、男性の「50歳代」で「平等」が7割を占める。女性は年齢層が若いほど「平等」の割合が多く、「20歳代」では69.9%となっている。

図 1-5 男女の平等感（学校教育の場）



#### ④政治の場

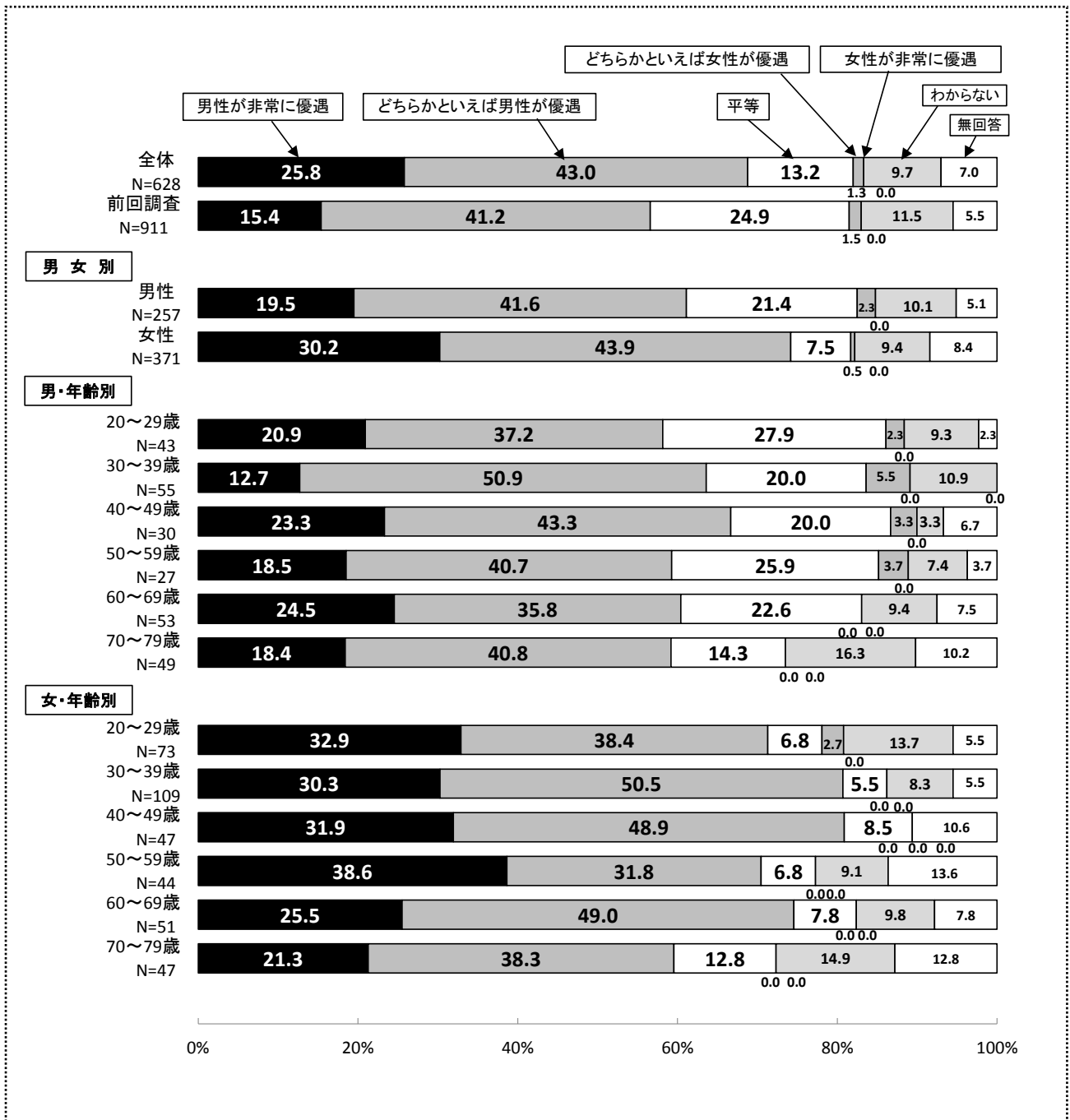
政治の場における平等感は「平等」が13.2%と、7つの分野のうち最も平等感が低い分野である。男性優遇とした割合が68.8%、女性優遇とした割合が1.3%となった。

前回調査と比較すると、男性優遇とした割合が12.2ポイント増加した。

男女別では、男性は「平等」が21.4%と女性を13.9ポイント上回っている。女性は男性優遇とした割合が74.1%と、男性に比べて13.0ポイント多い。

性別年齢別でみると、女性の「30～40歳代」は男性優遇とした割合が8割を超えている。

図 1-6 男女の平等感（政治の場）





### ⑤法律や制度上

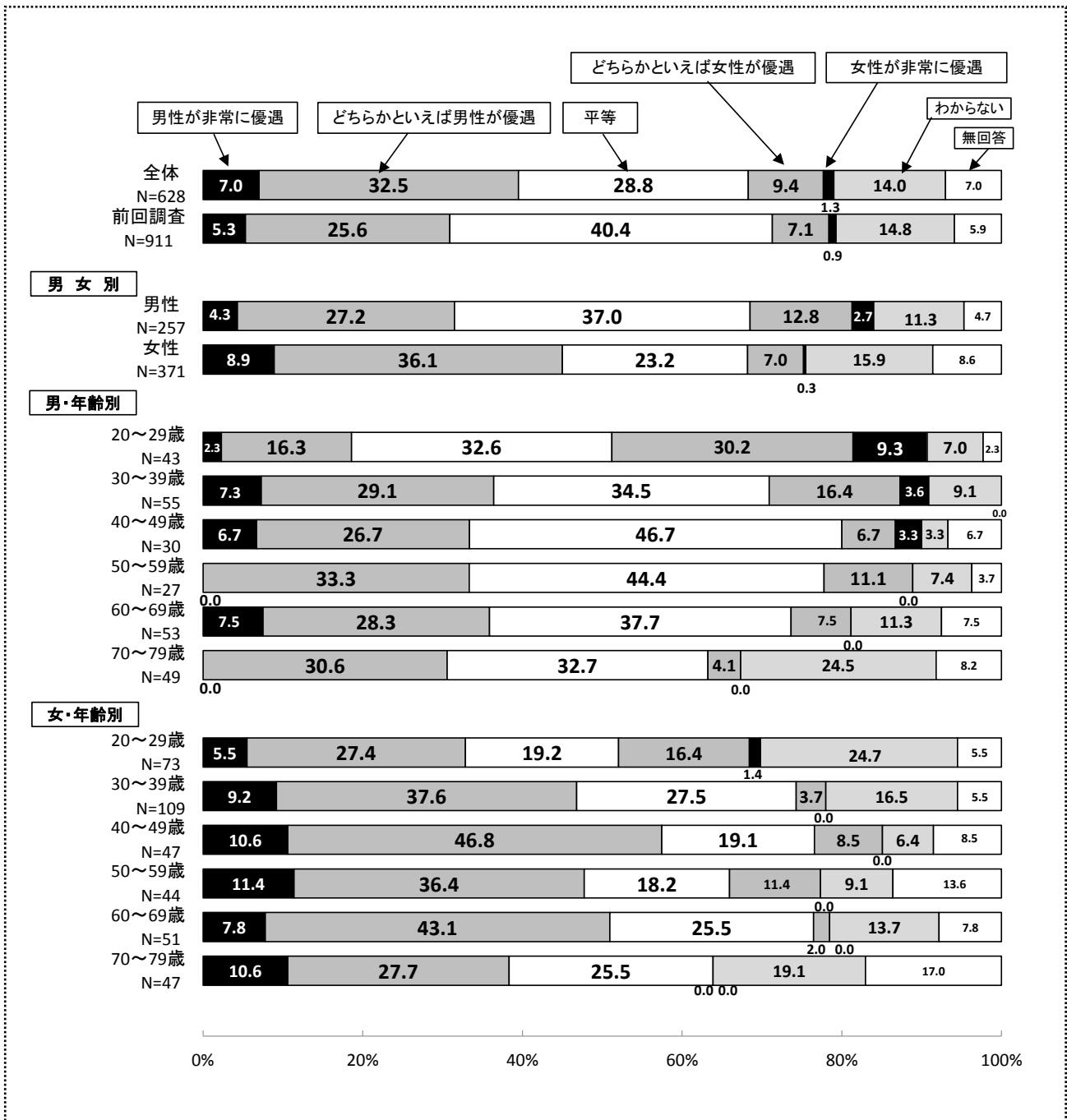
法律や制度上における平等感は「平等」が28.8%、男性優遇とした割合は39.5%、女性優遇とした割合は10.7%となった。

前回調査と比較すると、「平等」が11.6ポイント減少し、男性優遇とした割合が8.6ポイント増加した。法律・制度の変更はないものの、子育て・介護の重要性の高まりが背景にあるとみられる。

男女別では、男性は「平等」が37.0%と女性を13.8ポイント上回っている。女性は男性優遇とした割合が45.0%と、男性に比べて13.5ポイント多い。

性別年齢別でみると、女性の「40歳代」で、特に男性優遇とした割合が多く57.4%となっている。

図 1-7 男女の平等感（法律や制度上）



⑥社会通念・慣習・しきたりなど

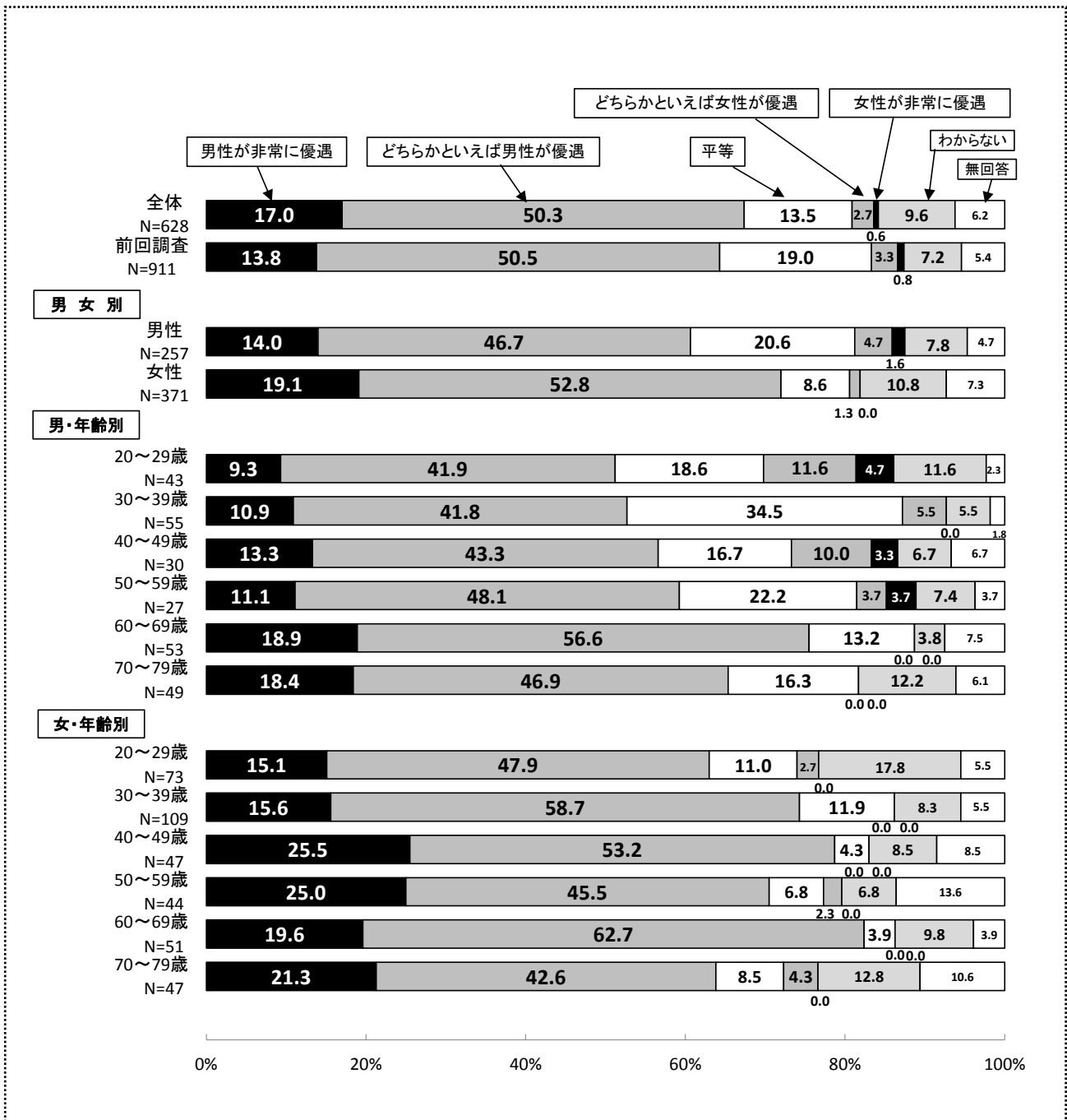
社会通念・慣習・しきたりなどにおける平等感は「平等」が13.5%と、平等感が低い分野である。男性優遇とした割合は67.3%、女性優遇とした割合は3.3%となった。

前回調査と比較すると、「平等」が5.5ポイント減少し、男性優遇とした割合が3.0ポイント増加した。

男女別では、男性は「平等」が20.6%と女性を12.0ポイント上回っている。女性は男性優遇とした割合が71.9%と7割を超え、男性に比べて11.2ポイント多い。

性別年齢別でみると、男性は年齢層が高くなるにつれ、男性優遇とした割合が多く、「60歳代」で75.5%を占める。男性の「30歳代」は「平等」が34.5%と他の年齢層に比べて多い。女性は男性優遇とした割合が「60歳代」で8割を超えて多くなっている。

図 1-8 男女の平等感（社会通念・慣習・しきたりなど）



⑦自治会・町内会などの地域活動

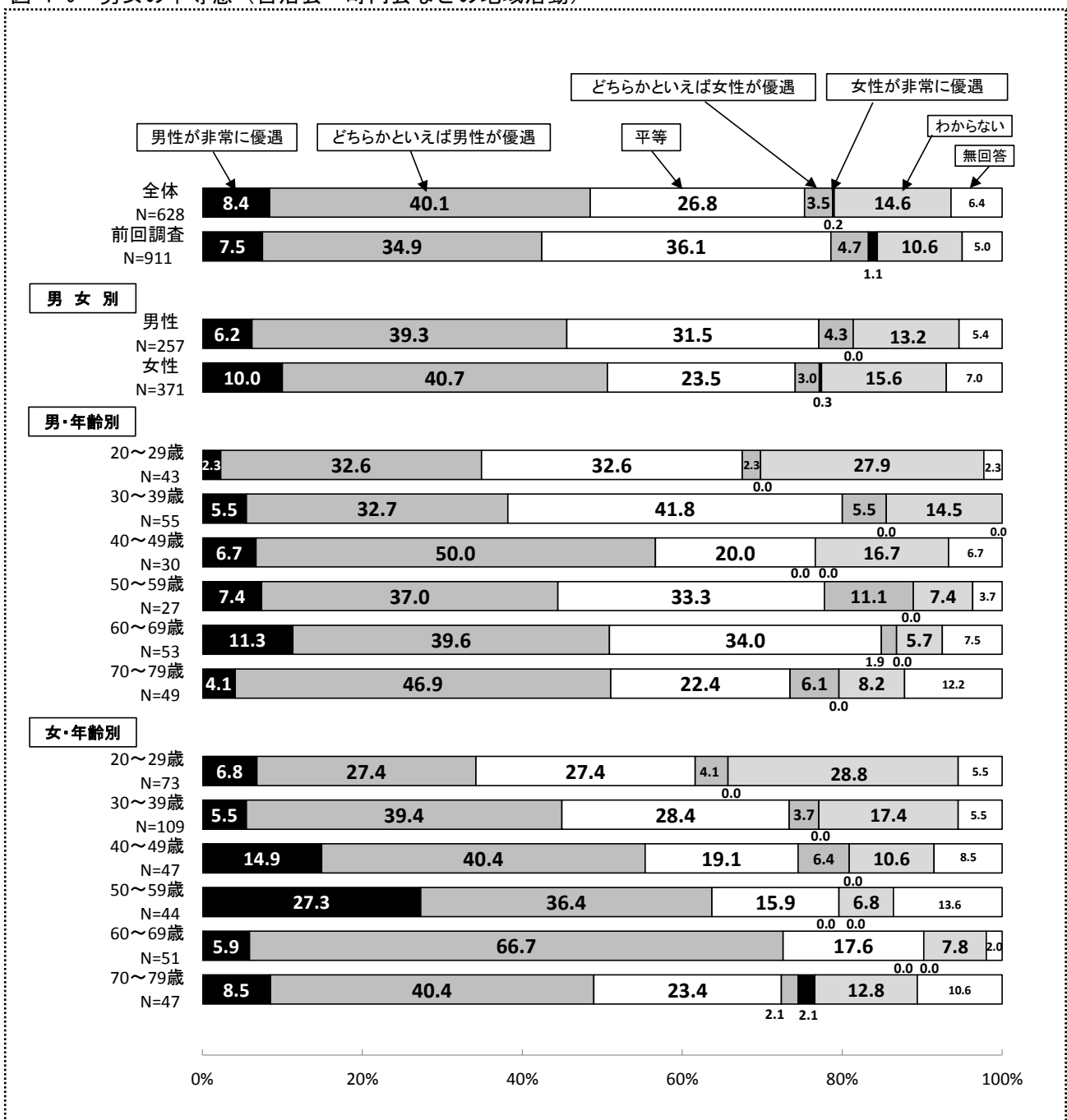
自治会・町内会などの地域活動における平等感をみると、「平等」は 26.8%、男性優遇とした割合が 48.5%、女性優遇とした割合が 3.7%となった。

前回調査と比較すると、「平等」が 9.3 ポイント減少し、男性優遇とした割合が 6.1 ポイント増加した。

男女別では、男性は「平等」が 31.5%と女性に比べて 8.0 ポイント多い。女性は男性優遇とした割合が 50.7%と、男性を 5.2 ポイント上回っている。

性別年齢別でみると、男性は「30 歳代」は「平等」が 41.8%と、男性優遇とした割合を上回っている。女性は年齢層が高くなるにつれ、男性優遇とした割合が多く、「60 歳代」では 72.6%と 7 割を超えている。

図 1-9 男女の平等感（自治会・町内会などの地域活動）



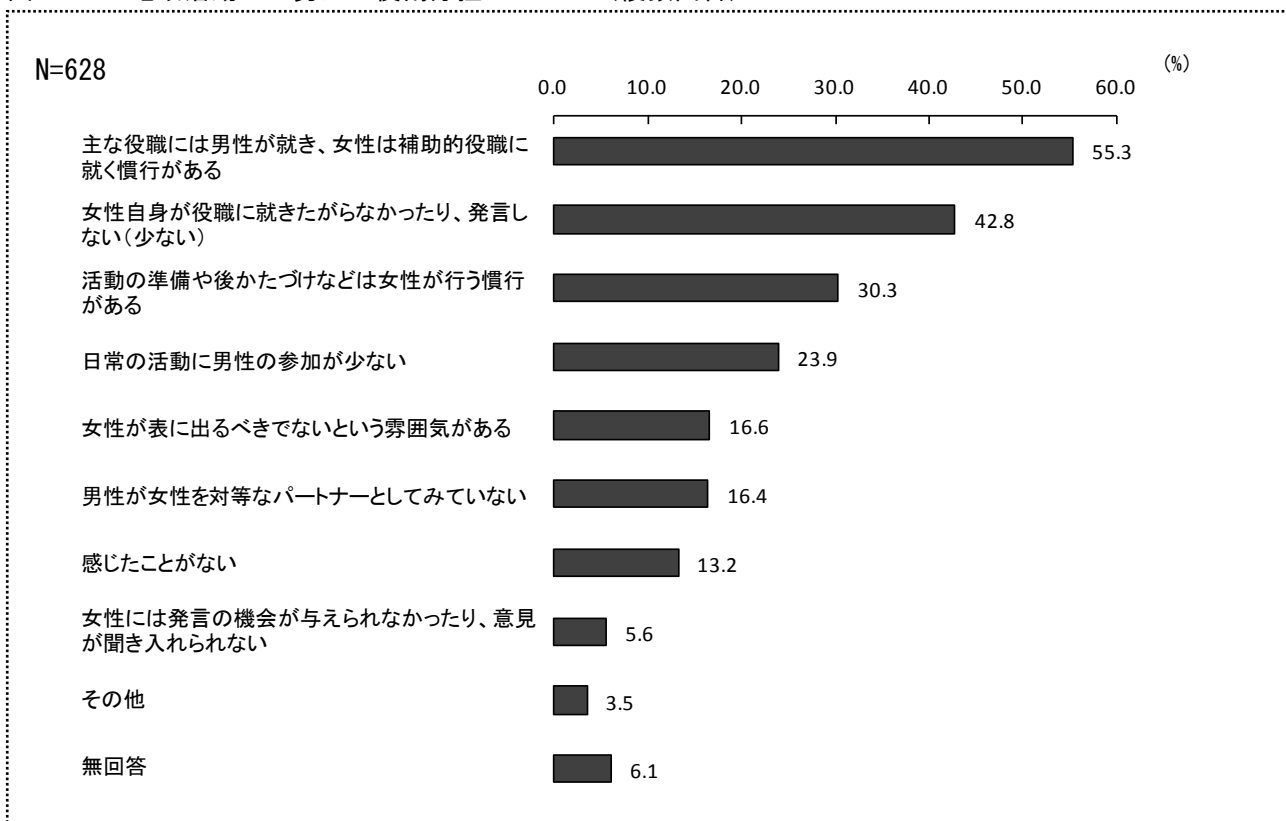
## (2) 地域活動での男女の役割分担

問2 地域の活動（自治会、町内会、PTA など）で、男女の役割分担などについて次のように感じたことがありますか。（いくつでも☑）

地域活動での男女の役割分担については、「主な役職には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が55.3%と最も多く、次いで「女性自身が役職に就きたがらなかったり、発言しない（少ない）」が42.8%、「活動の準備や後かたづけなどは女性が行う慣行がある」が30.3%となっている。

女性が地域活動に積極的に関わっていけるよう、地域全体で見直すとともに、女性自身の意識も変えていけるよう啓発をしていくことが大切であると思われる。

図 1-10 地域活動での男女の役割分担について（複数回答）



性別年齢別でみると、男女とも「50歳代以上」は「女性自身が役職に就きたがらなかったり、発言しない（少ない）」が5割を超え、とくに男性の「50歳代」は63.0%と多い。男性の「20歳代」は「感じたことがない」が32.6%と他の年齢層に比べて多くなっている。

女性の「60歳代」は「活動の準備や後かたづけなどは女性が行う慣行がある」が41.2%となっている。

表1 地域活動での男女の役割分担について（複数回答） (%)

|             |               | 行がある | 女性には補助的役職に就く慣 | 主な役職には男性が就き、(少ない) | 女性自身が役職に就きたがらなかったり、発言しない | 活動の準備や後かたづけなどは女性が行う慣行がある | 活動の準備や後かたづけが少ない | 日常の活動に男性の参加が少ない | 女性が表に出るべきでないという雰囲気がある | 男性が女性を対等なパートナーとしてみていない | 感じたことがない | 女性には発言の機会が与えられなかったり、意見が聞き入れられない | その他 | 無回答 |
|-------------|---------------|------|---------------|-------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------|-----------------|-----------------------|------------------------|----------|---------------------------------|-----|-----|
| 性別          | 男 N=257       | 58.0 | 41.6          | 26.8              | 21.8                     | 17.1                     | 13.2            | 17.1            | 5.1                   | 2.3                    | 3.9      |                                 |     |     |
|             | 女 N=371       | 53.4 | 43.7          | 32.6              | 25.3                     | 16.2                     | 18.6            | 10.5            | 5.9                   | 4.3                    | 7.5      |                                 |     |     |
| 性別年齢別       | 男:20~29歳 N=43 | 48.8 | 16.3          | 23.3              | 18.6                     | 14.0                     | 16.3            | 32.6            | 4.7                   | 4.7                    | 2.3      |                                 |     |     |
|             | 30~39歳 N=55   | 49.1 | 32.7          | 27.3              | 21.8                     | 16.4                     | 10.9            | 21.8            | 3.6                   | 3.6                    | 5.5      |                                 |     |     |
|             | 40~49歳 N=30   | 40.0 | 36.7          | 23.3              | 20.0                     | 16.7                     | 16.7            | 20.0            | 6.7                   | -                      | 6.7      |                                 |     |     |
|             | 50~59歳 N=27   | 66.7 | 63.0          | 18.5              | 22.2                     | 7.4                      | 7.4             | -               | 3.7                   | -                      | 3.7      |                                 |     |     |
|             | 60~69歳 N=53   | 71.7 | 52.8          | 28.3              | 22.6                     | 26.4                     | 22.6            | 7.5             | 7.5                   | 1.9                    | 3.8      |                                 |     |     |
|             | 70~79歳 N=49   | 67.3 | 53.1          | 34.7              | 24.5                     | 16.3                     | 4.1             | 16.3            | 4.1                   | 2.0                    | 2.0      |                                 |     |     |
|             | 女:20~29歳 N=73 | 32.9 | 35.6          | 32.9              | 30.1                     | 13.7                     | 15.1            | 20.5            | 4.1                   | 5.5                    | 5.5      |                                 |     |     |
|             | 30~39歳 N=109  | 47.7 | 33.0          | 26.6              | 25.7                     | 11.0                     | 17.4            | 14.7            | 4.6                   | 3.7                    | 7.3      |                                 |     |     |
|             | 40~49歳 N=47   | 48.9 | 46.8          | 31.9              | 23.4                     | 12.8                     | 10.6            | 6.4             | 8.5                   | 8.5                    | 10.6     |                                 |     |     |
|             | 50~59歳 N=44   | 68.2 | 56.8          | 36.4              | 20.5                     | 22.7                     | 22.7            | -               | 4.5                   | 2.3                    | 18.2     |                                 |     |     |
|             | 60~69歳 N=51   | 80.4 | 56.9          | 41.2              | 17.6                     | 29.4                     | 25.5            | 2.0             | 9.8                   | 2.0                    | 2.0      |                                 |     |     |
| 70~79歳 N=47 | 59.6          | 51.1 | 34.0          | 31.9              | 14.9                     | 23.4                     | 8.5             | 6.4             | 4.3                   | 4.3                    |          |                                 |     |     |

=最も多い数値

(3) 男女共同参画に関する言葉の周知状況

問3 あなたは、男女共同参画に関する言葉を知っていますか。(☑はそれぞれ1つずつ)

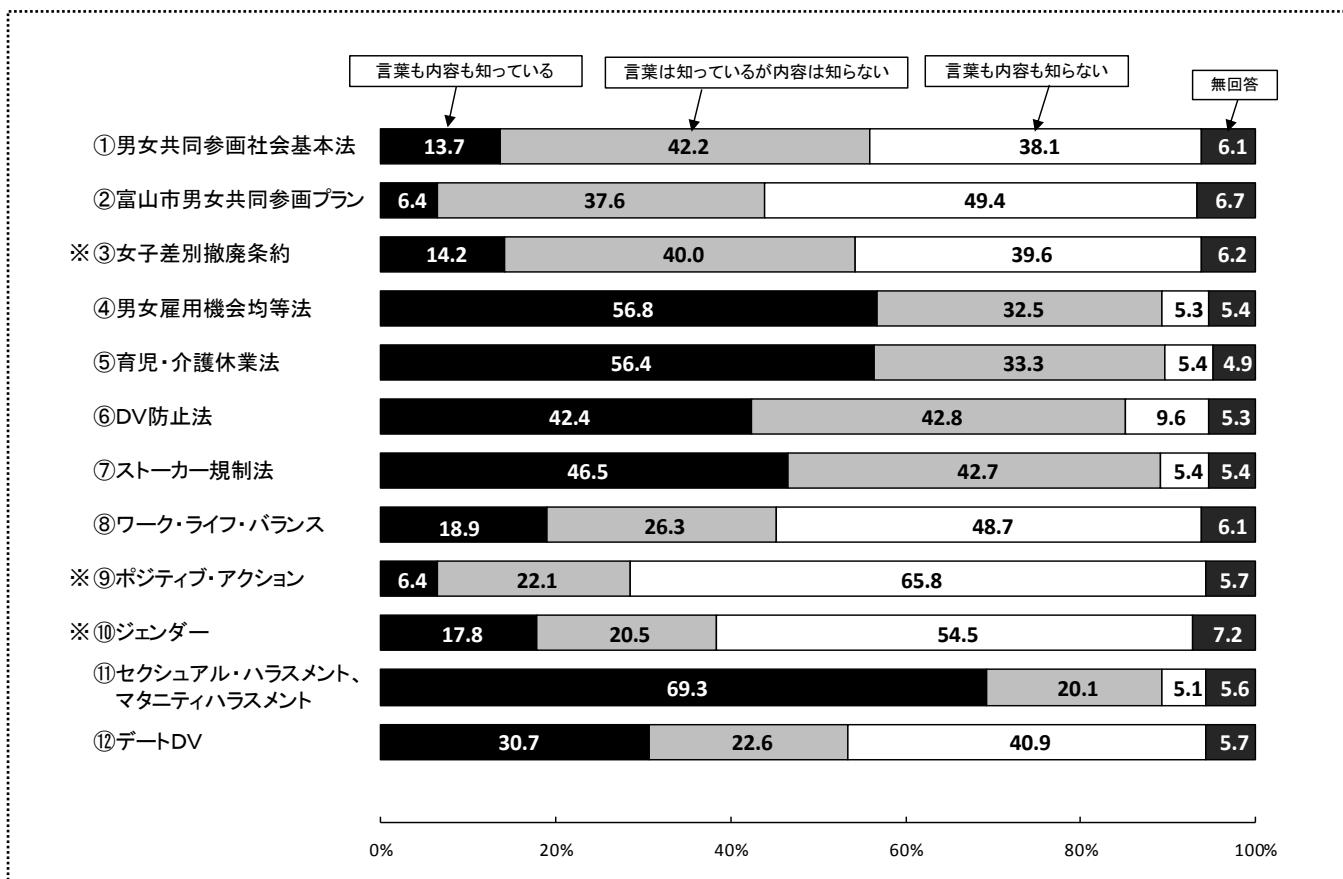
- ①男女共同参画社会基本法      ②富山市男女共同参画プラン      ③女子差別撤廃条約
- ④男女雇用機会均等法      ⑤育児・介護休業法      ⑥DV防止法
- ⑦ストーカー規制法      ⑧ワーク・ライフ・バランス      ⑨ポジティブ・アクション
- ⑩ジェンダー      ⑪セクシュアル・ハラスメント、マタニティハラスメント
- ⑫デートDV

12の言葉の認知状況を全体で見ると、「言葉も内容も知っている」とした割合は、「セクシュアル・ハラスメント、マタニティハラスメント」が最も多く69.3%、「男女雇用機会均等法」が56.8%、「育児・介護休業法」が56.4%、「ストーカー規制法」が46.5%となっている。

「言葉も内容も知らない」とした割合は「ポジティブ・アクション」が65.8%、「ジェンダー」が54.5%と多くなっている。

男女共同参画社会の形成に必要な法制度等の理解促進のために、周知を図っていく必要がある。

図 1-11 男女共同参画に関する言葉の周知状況



※ ③女子差別撤廃条約＝「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」の略称。

⑨ポジティブ・アクション＝男女間の格差を改善するために必要な範囲で、男女のいずれか一方に対し、活動参画への機会を積極的に提供すること。

⑩ジェンダー＝社会的・文化的に形成された性別

## 2. 家庭生活、育児、介護について

### (1) 一日の時間の使い方

問4 あなたの一日における時間の使い方をお尋ねします。平日は①から⑤、休日は②から⑤のそれぞれの時間について、どのくらい使っていますか。30分単位で記入してください。（たとえば、「1時間30分」の場合は「1.5」とご記入ください）。

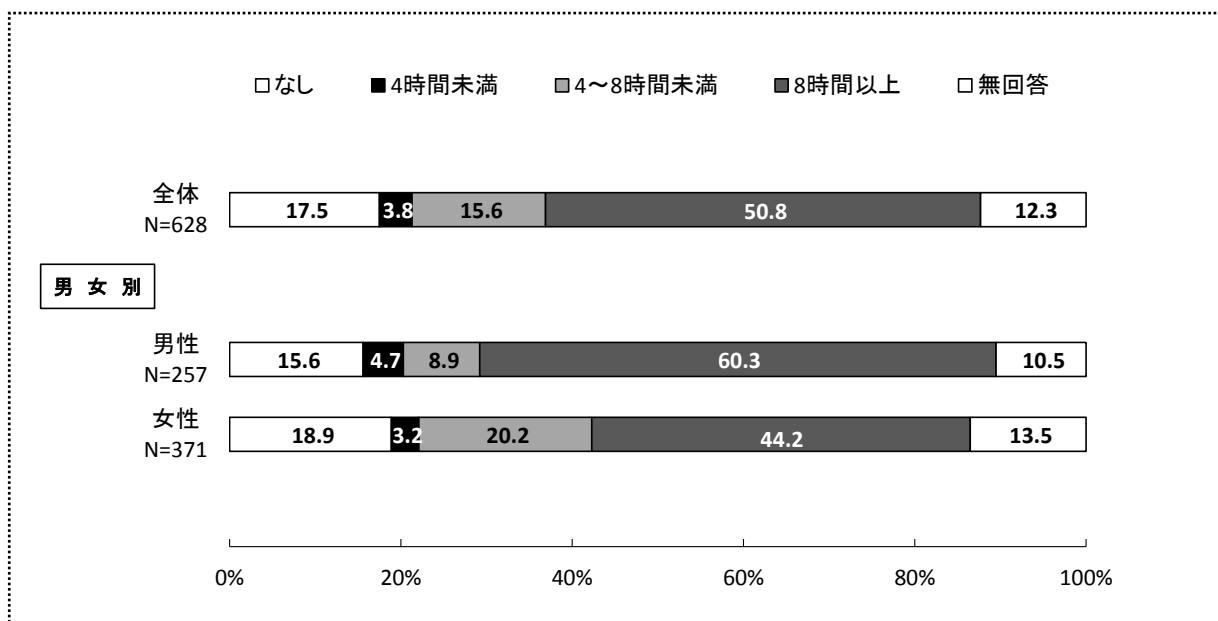
ここでは、回答者全員に、労働時間、家事時間、育児時間、介護時間、余暇時間について、平日と休日に分け、時間数を回答してもらっている。あくまでも、仕事をしている人の労働時間数、子どもを持つ人の育児時間数、介護の必要がある人がいる人の介護時間数ではない。よってそれぞれの時間の使い方において「なし」が多いが、たとえば、育児時間が「なし」としている人は子どもがいない、とは言えないため、回答者628人の全体でみることにする。

#### ①収入を得ている労働時間（通勤時間を含む）

収入を得ている労働時間については、全体で「8時間以上」が50.8%、「4～8時間未満」が15.6%、「4時間未満」が3.8%となっている。

男女別では、男性は「8時間以上」が60.3%、「4～8時間未満」が8.9%、女性は「8時間以上」が44.2%、「4～8時間未満」が20.2%となっている。

図 2-1 収入を得ている労働時間（通勤時間を含む）



## ②家事の時間

家事時間については、平日は全体で「1時間未満」が11.8%、「1～2時間未満」が18.2%、「2～4時間未満」が28.7%、「4時間以上」が21.0%となっている。

男女別では、女性は「2～4時間未満」が41.8%、「4時間以上」が34.0%と、2時間以上が75.8%となっている。男性は「なし」が26.8%、「1時間未満」が21.8%、「1～2時間未満」が26.1%と、2時間未満は74.7%となっている。

休日は全体で「1時間未満」が5.1%、「1～2時間未満」が17.4%、「2～4時間未満」が26.6%、「4時間以上」が30.3%となっており、平日に比べ家事に使う時間がやや多い。

男女別では、女性は「4時間以上」が46.9%と半数近くを占め、男性を40.7ポイント上回っている。また平日に比べて12.9ポイント多い。

図 2-2 家事の時間（平日）

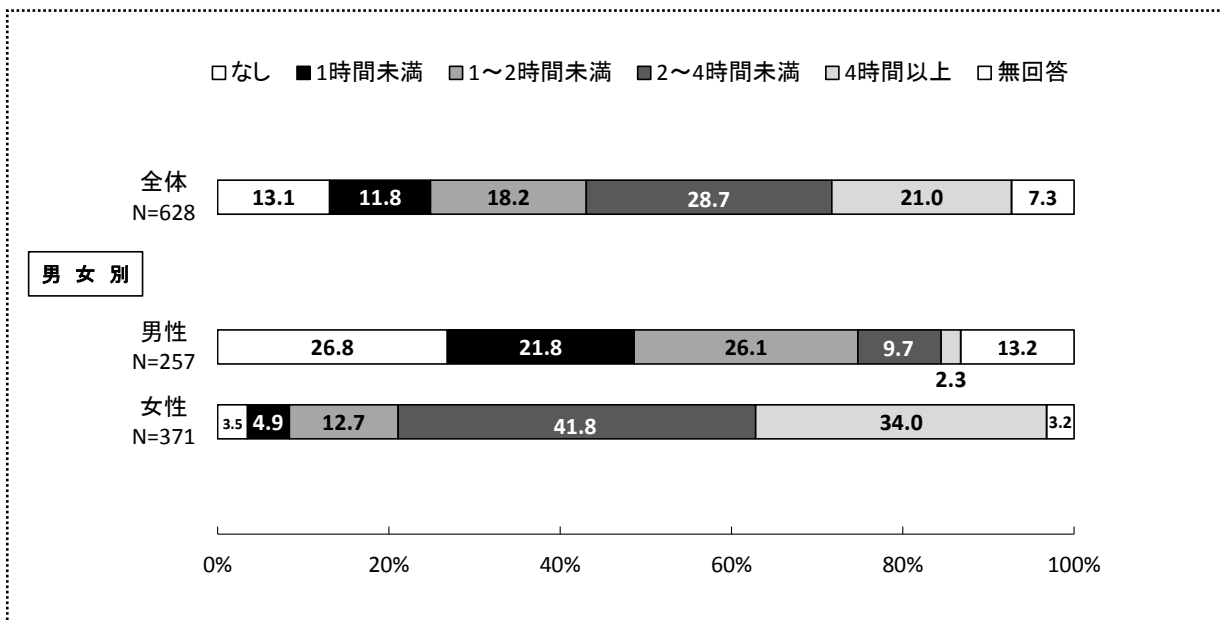
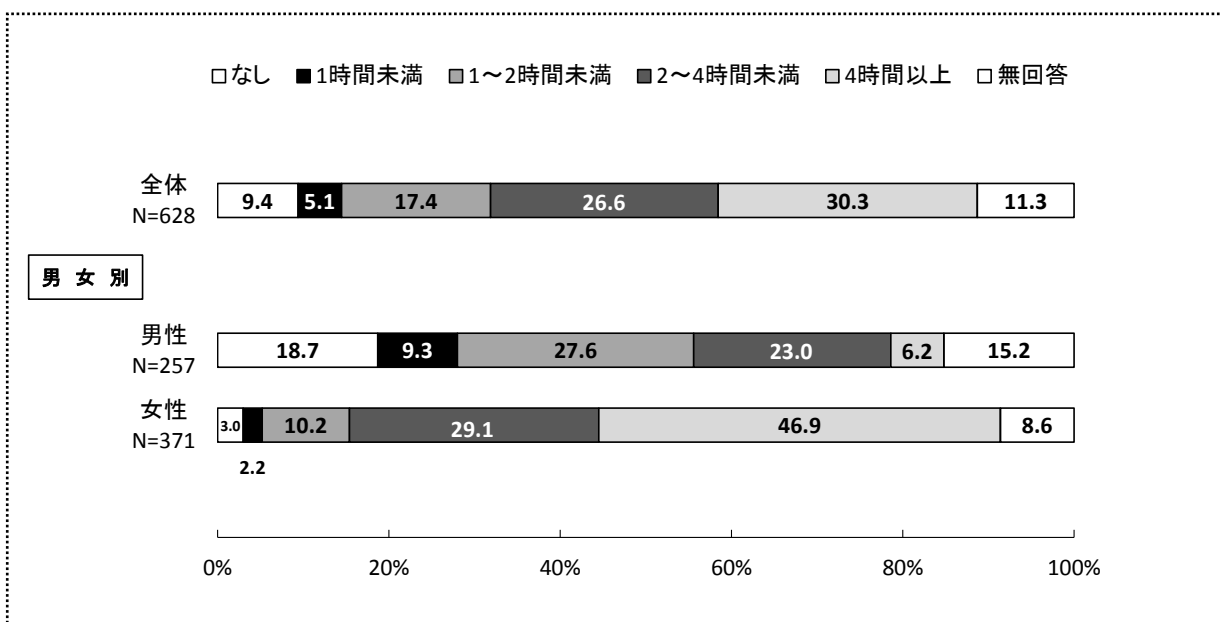


図 2-3 家事の時間（休日）





### ③育児の時間

育児時間については、平日は全体で「1時間未満」が1.8%、「1～2時間未満」が7.6%、「2～4時間未満」が6.7%、「4時間以上」が9.4%となっている。

男女別では、女性は「4時間以上」が15.1%、「2～4時間未満」が9.2%と、2時間以上が24.3%となっている。男性は「1～2時間未満」が8.6%、2時間以上は4.3%となっている。

休日は全体で「1時間未満」が1.0%、「1～2時間未満」が3.3%、「2～4時間未満」が4.5%、「4時間以上」が16.2%となっており、平日と大きな違いは見られない。

男女別では、女性は「4時間以上」が21.6%、「2～4時間未満」が4.0%と、2時間以上が25.6%と、平日を1.3ポイント上回っている。男性は「1時間未満」が1.9%、2時間以上は13.7%と、平日に比べて9.4ポイント多い。

図 2-4 育児の時間（平日）

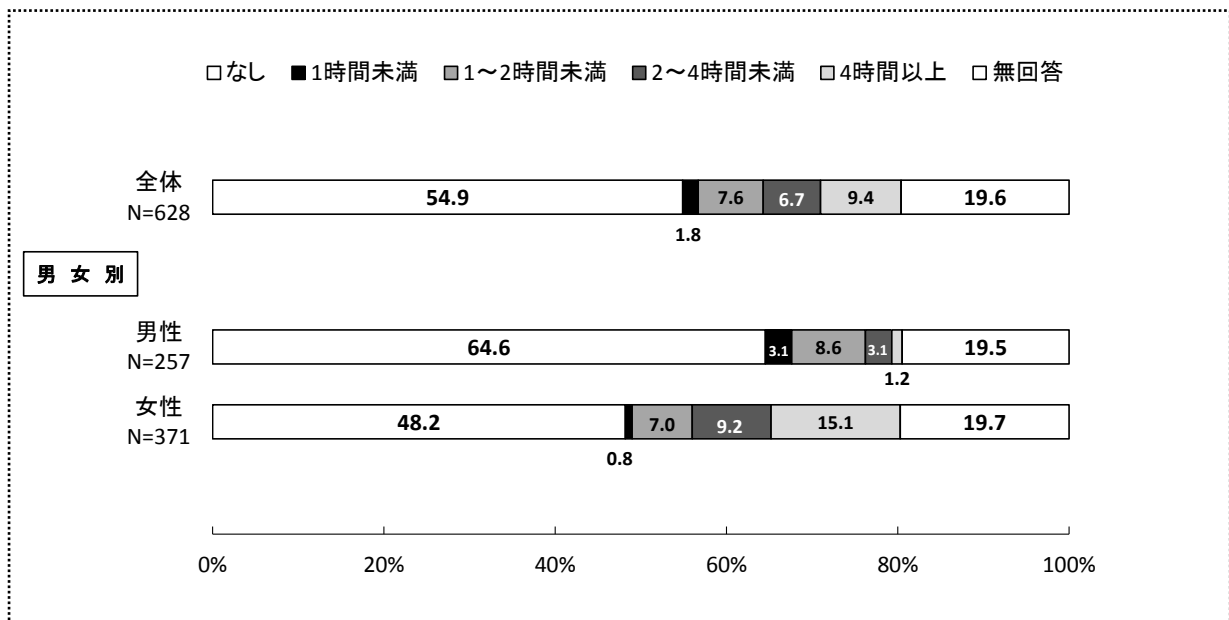
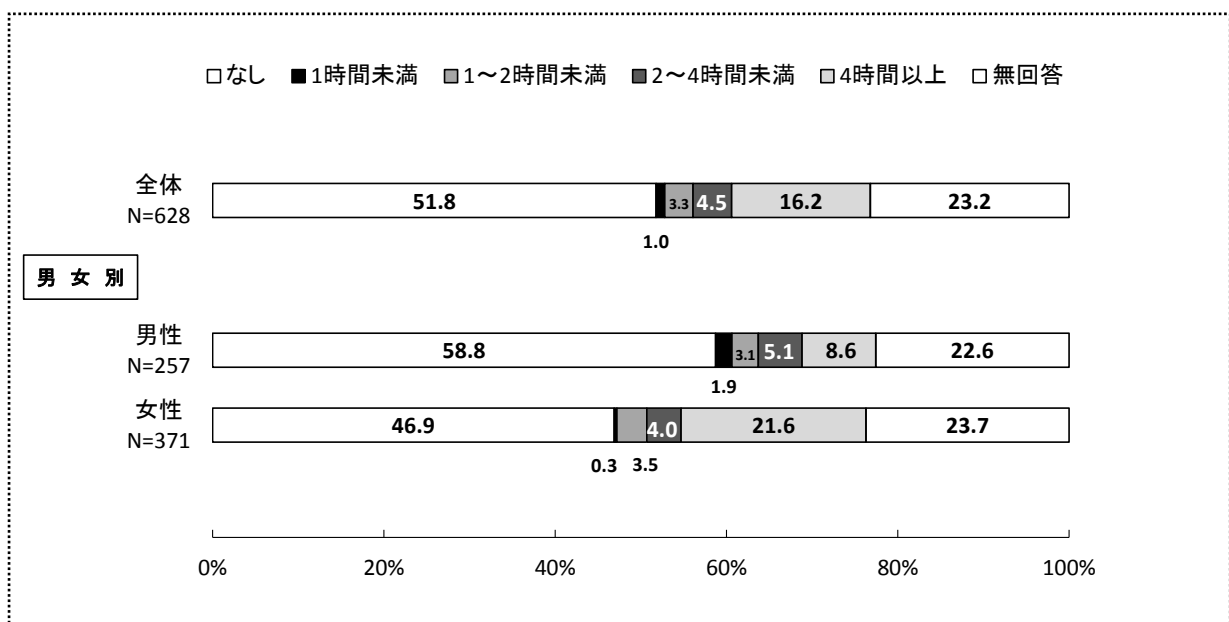


図 2-5 育児の時間（休日）



#### ④介護の時間

介護時間があるとした人の割合は、平日は全体で6.1%、男性は3.2%、女性は8.0%となり、女性の方がやや多い。

休日は全体で5.9%、男性は3.2%、女性は7.6%となっている。

図 2-6 介護の時間（平日）

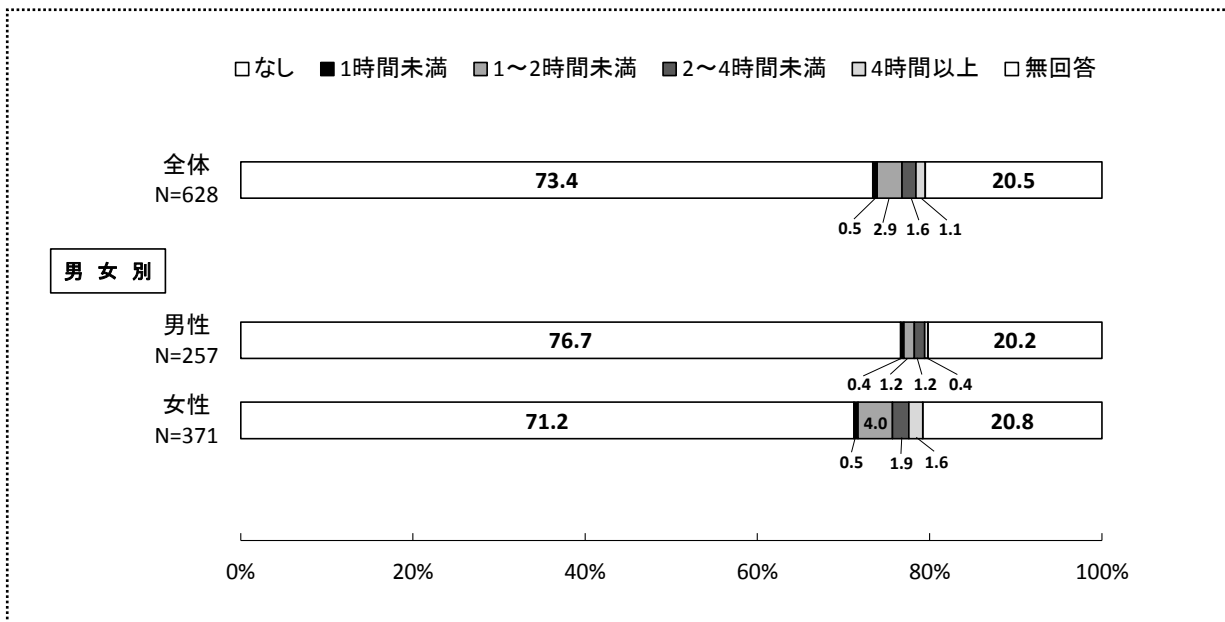
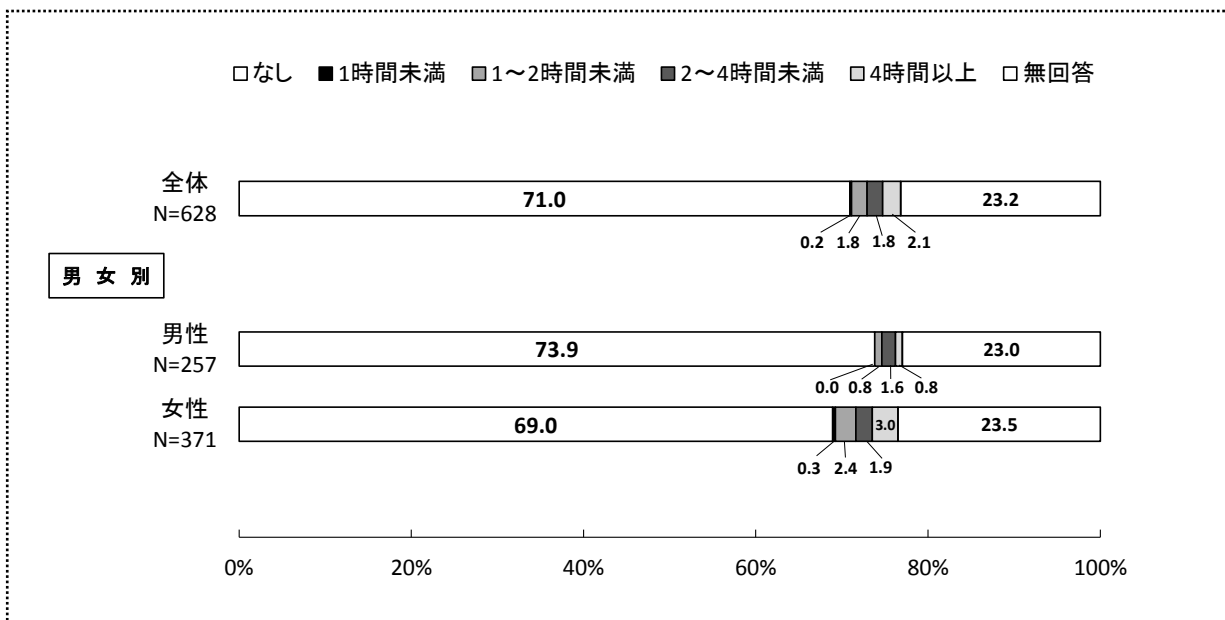


図 2-7 介護の時間（休日）



⑤余暇の時間（睡眠や食事の時間を除く）

余暇時間については、平日は全体で「1時間未満」が4.9%、「1～2時間未満」が16.2%、「2～4時間未満」が43.5%、「4時間以上」が27.9%となっている。

男女別では、男性は「2～4時間未満」が46.3%と、女性（41.5%）に比べて4.8ポイント多い。

休日は全体で「1時間未満」が1.6%、「1～2時間未満」が6.4%、「2～4時間未満」が24.8%、「4時間以上」が56.7%となっている。男女別では、男性は「4時間以上」が63.0%と女性（52.3%）に比べて10.7ポイント多い。

図 2-8 余暇の時間（平日）

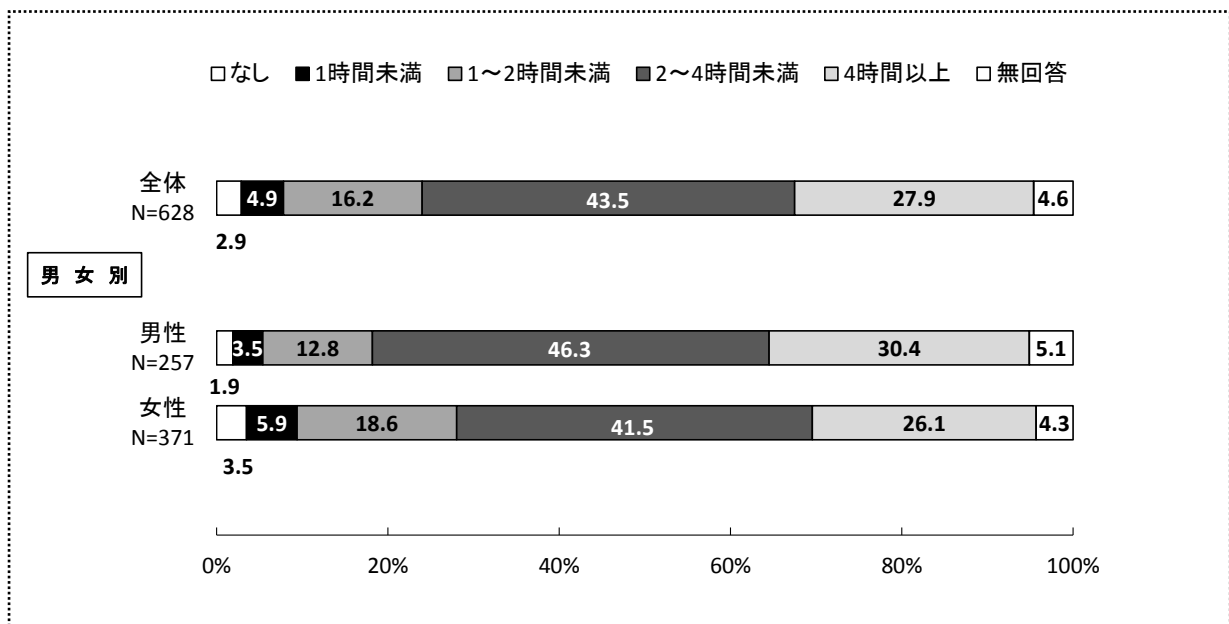
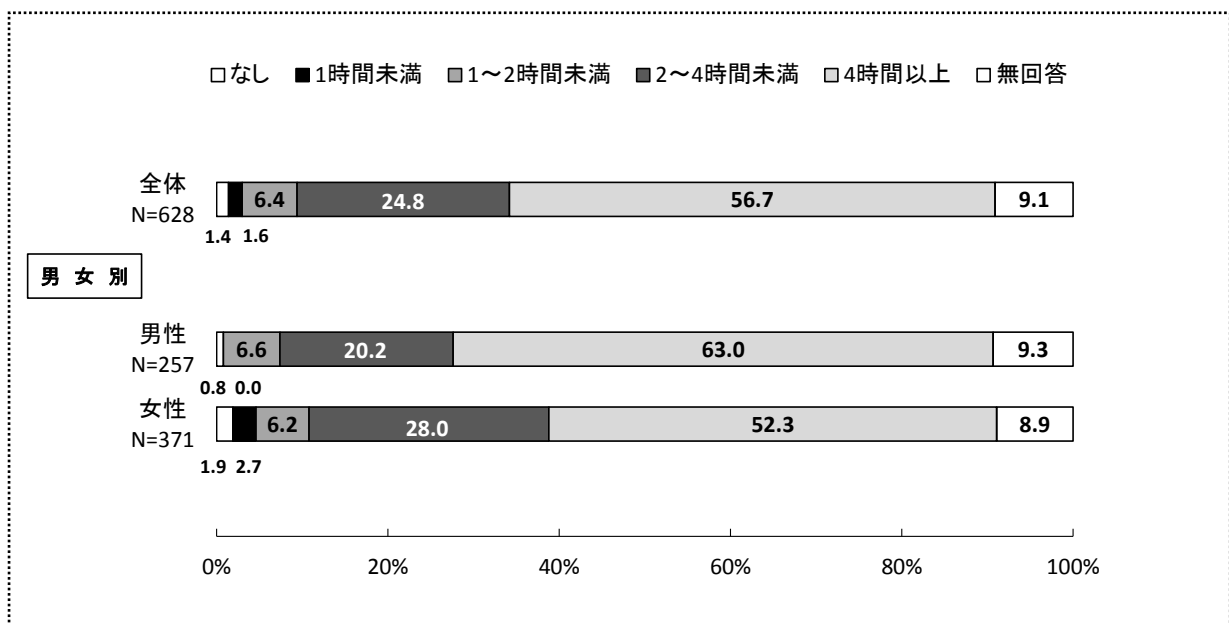


図 2-9 余暇の時間（休日）



(2) 仕事と家庭における男女の役割

問5 あなたは、次のような考え方について、どう思いますか。①②のそれぞれについて、あなたの考えに近い番号を1から5の中から選んで☑をつけてください。(☑はそれぞれ1つずつ)

- ①「男性は仕事、女性は家庭」という考え方
- ②「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方

①「男性は仕事、女性は家庭」という考え方

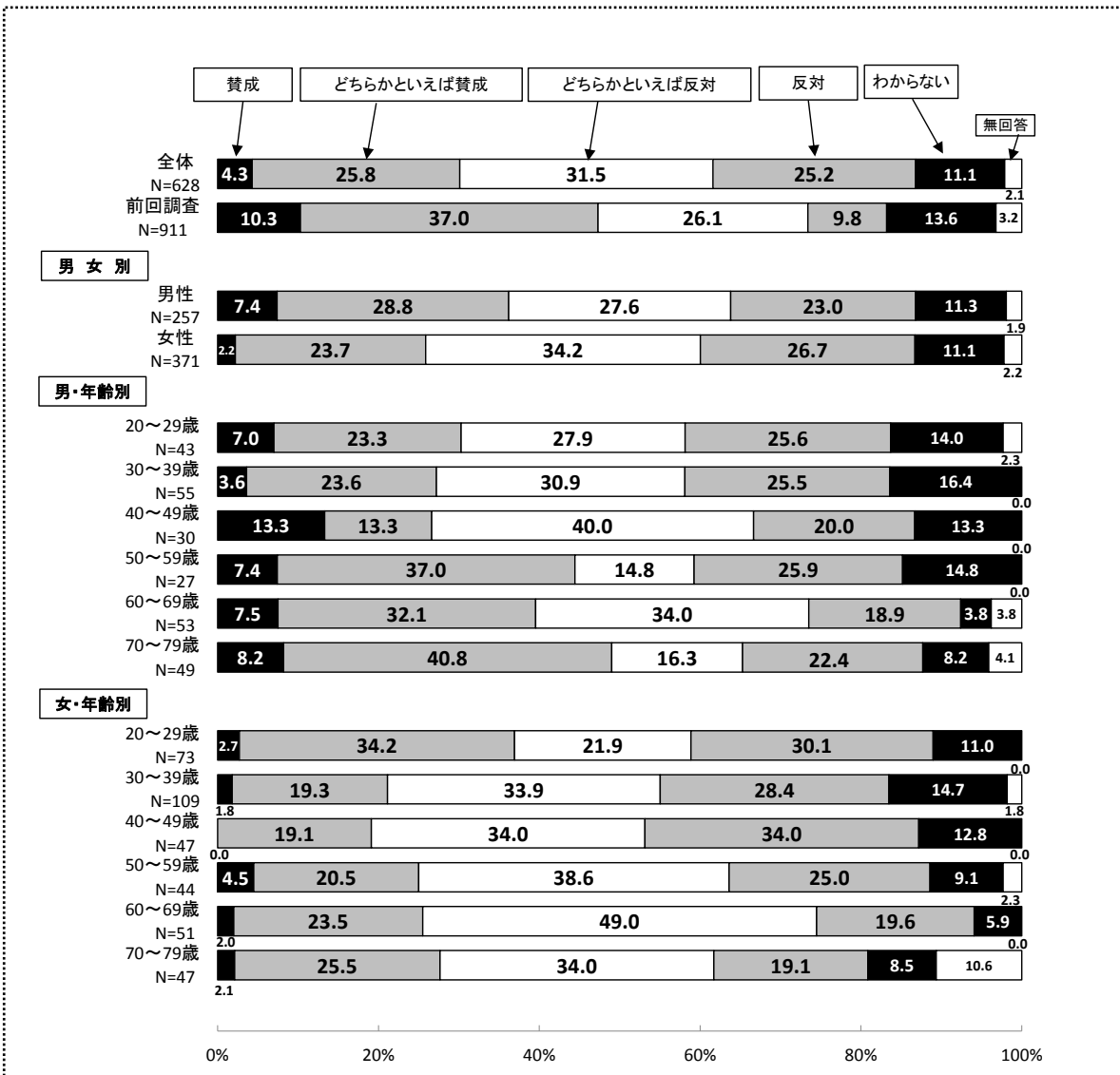
「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、反対とした割合が 56.7%（「反対」25.2%＋「どちらかといえば反対」31.5%）と、賛成とした割合 30.1%（「賛成」4.3%＋「どちらかといえば賛成」25.8%）を 26.6 ポイント上回っている。

前回調査では賛成とした割合が 47.3%であったが、今回調査では、賛成とした割合が 30.1%と、前回より 17.2 ポイント減少し、反対とした割合が 20.8 ポイント増加した。

男女別では、男性は賛成とした割合は 36.2%と、女性に比べ 10.3 ポイント多い。女性は反対が 60.9%と、男性を 10.3 ポイント上回っている。

性別年齢別でみると、男性は「50歳以上」で賛成とした割合が「49歳以下」に比べて多い。女性は「20歳代」「70歳代」を除いて「反対」が6割を超えている。

図 2-10 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方



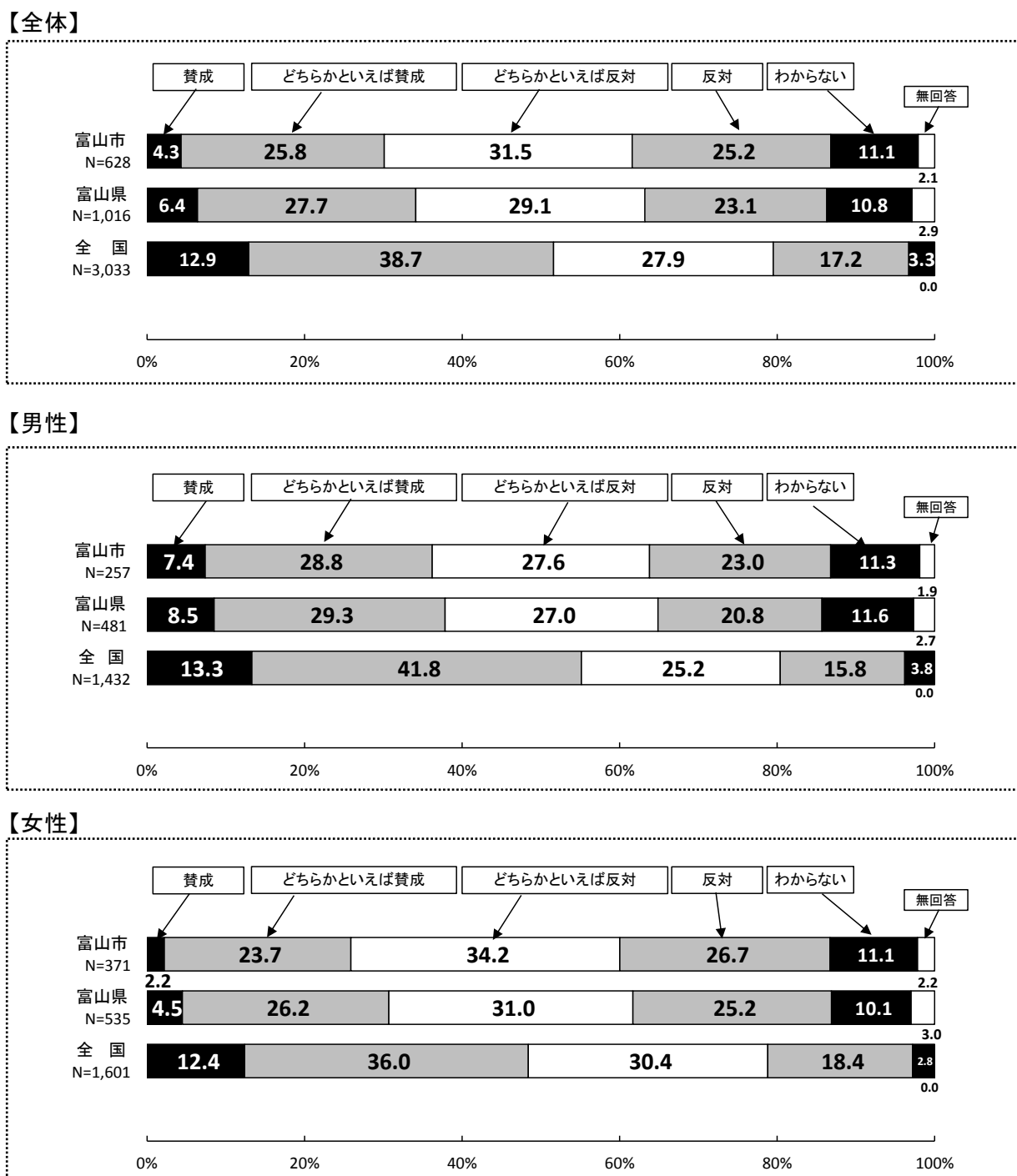
富山県、全国と比較してみることにする。

賛成とした割合は、富山市 30.1%、富山県 34.1%、全国 51.6%となり、富山市は富山県、全国に比べてそれぞれ 4.0 ポイント、21.5 ポイント少ない。

男女別でも同様な傾向にある。

前回調査では富山県、全国に比べて富山市は賛成とした割合が多く、固定的性別役割分担意識が強いと思われていたが、今回調査では、全国調査に比べ 21.5 ポイント少なくなった。

図 2-11 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方（全国、富山県との比較）



※富山県（H21）、全国（H24）の数値は、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する回答

② 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方

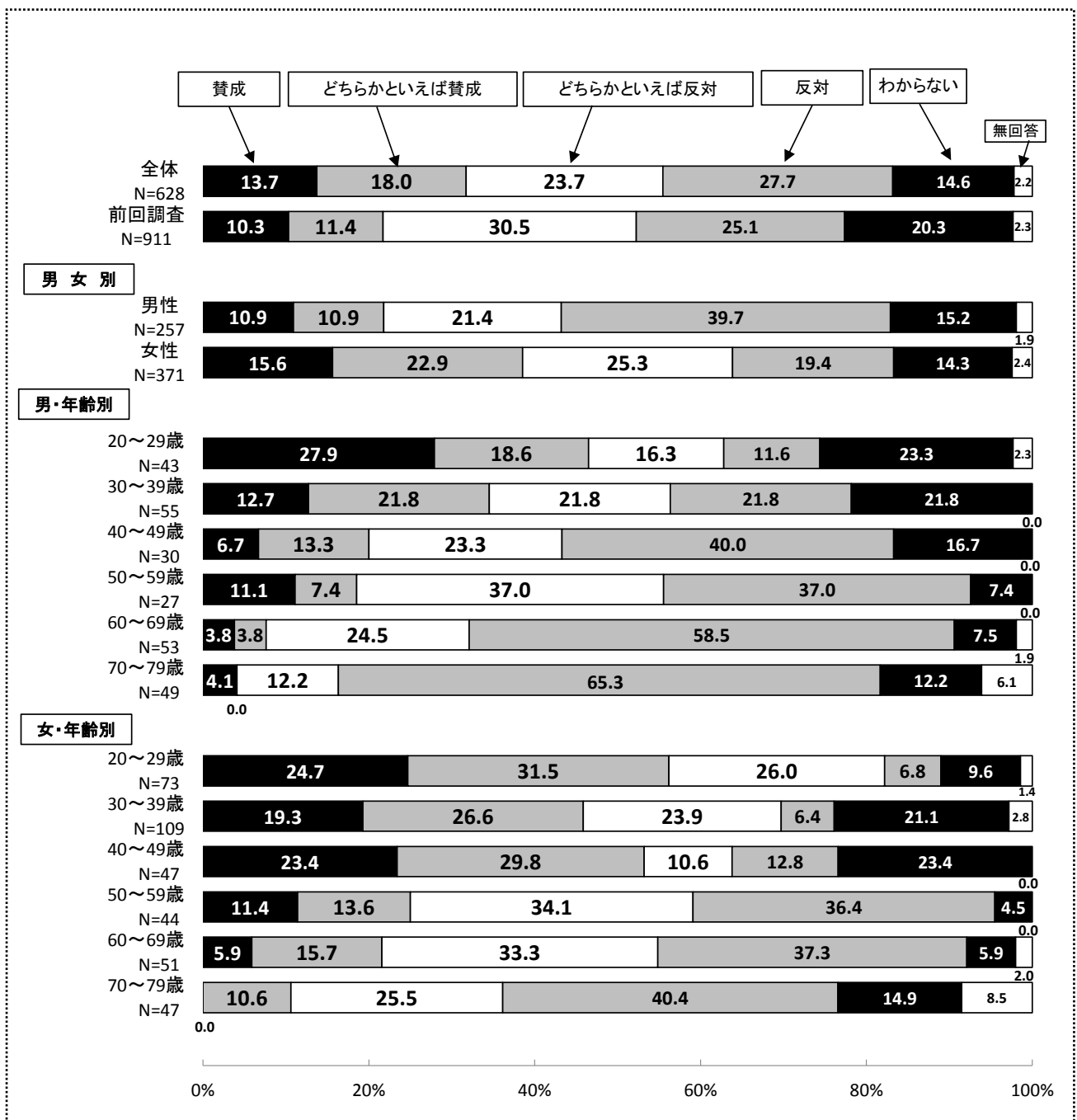
「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方については、反対とした割合が51.4%（「反対」27.7%+「どちらかといえば反対」23.7%）と、賛成とした割合31.7%（「賛成」13.7%+「どちらかといえば賛成」18.0%）を19.7ポイント上回った。

前回調査と比べると、賛成とした割合が10.0ポイント増加した。

男女別では、男性は反対とした割合が61.1%と6割を占め、女性（44.7%）を16.4ポイント上回っている。女性は賛成とした割合が38.5%と、男性（21.8%）に比べて16.7ポイント多い。

性別年齢別でみると、子どもを生み、育てる年代である女性の「40歳代以下」で賛成とした割合が多く、「50歳代以上」との間に大きな意識の相違がみられ、「50歳代以上」は反対とした割合が大きく増加した。

図 2-12 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方

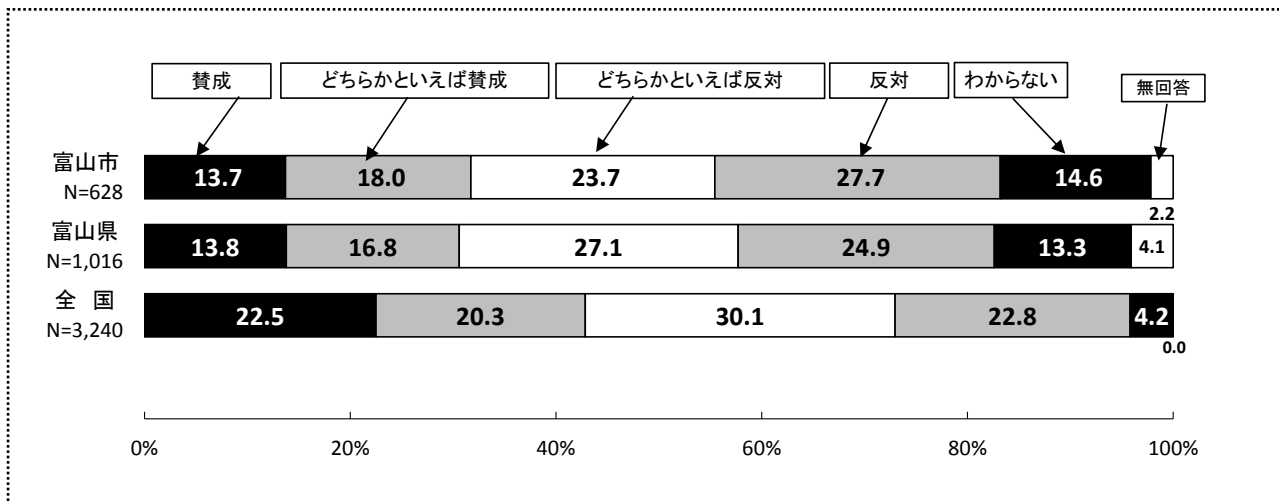


富山県、全国と比較してみることにする。

「賛成」とした割合は、富山市 31.7%、富山県 30.6%、全国 42.8%となり、富山市は全国に比べて 11.1 ポイント少ない。

「反対」とした割合は、富山市 51.4%、富山県 52.0%、全国 52.9%となり傾向はほぼ変わらない。富山市は全国に比べ、子どもを生み、育てることの重要性についての意識が高いと思われる。

図 2-13 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方（全国、富山県との比較）



※富山県（H21）、全国（H21）

全国：H24 調査では同様の設問がないためH21 データ

### (3) 理想の子どもの数

問6 あなたの理想の（もちたいと思う）子どもの数は何人ですか。また、あなたは実際には生涯に何人子どもを持つつもりですか（持ちましたか）。（☑はそれぞれ1つずつ）

- ①あなたの理想の（もちたいと思う）子どもの数
- ②実際に持つつもりの子どもの数（実際に持った子どもの数）

理想とする子どもの数は「2人」が50.0%と最も多く、「3人以上」が31.7%、「1人」が5.3%、「0人」が4.1%。実際に持つつもり（持った）の子どもの数は「2人」が47.0%、「3人以上」が14.3%、「1人」が15.1%、「0人」が11.0%となっており、理想とする子どもの数に比べて「3人以上」が17.4ポイント少なく、「1人」「0人」がそれぞれ9.8ポイント、6.9ポイント多くなっている。

前回調査と比べても、男女別で見てもほぼ同様の傾向にある。

図 2-14 子どもの数の理想と実際（前回調査との比較）

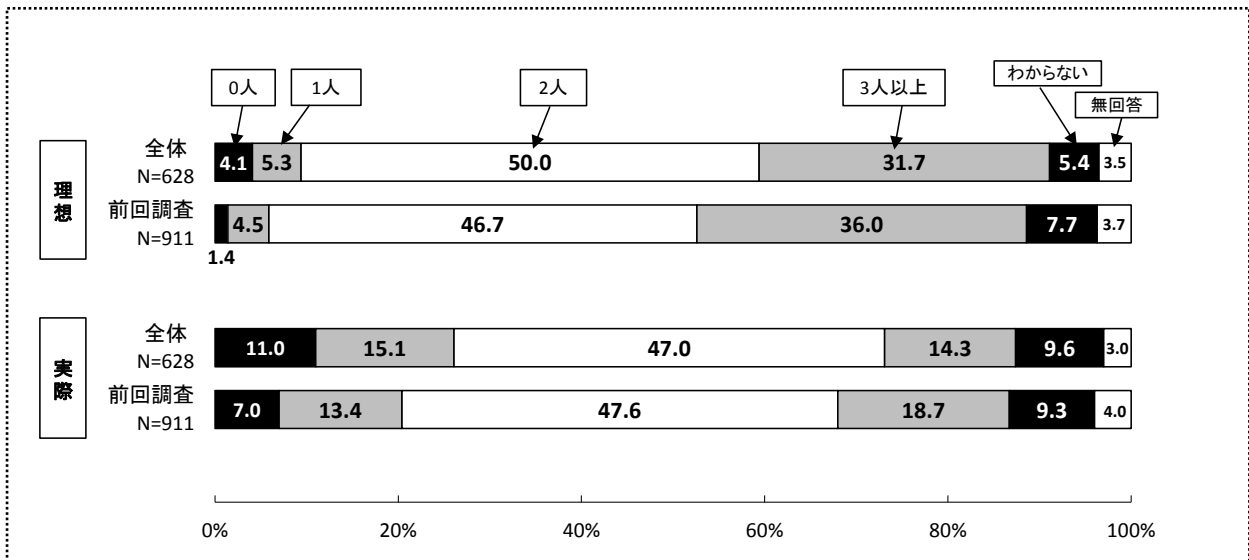
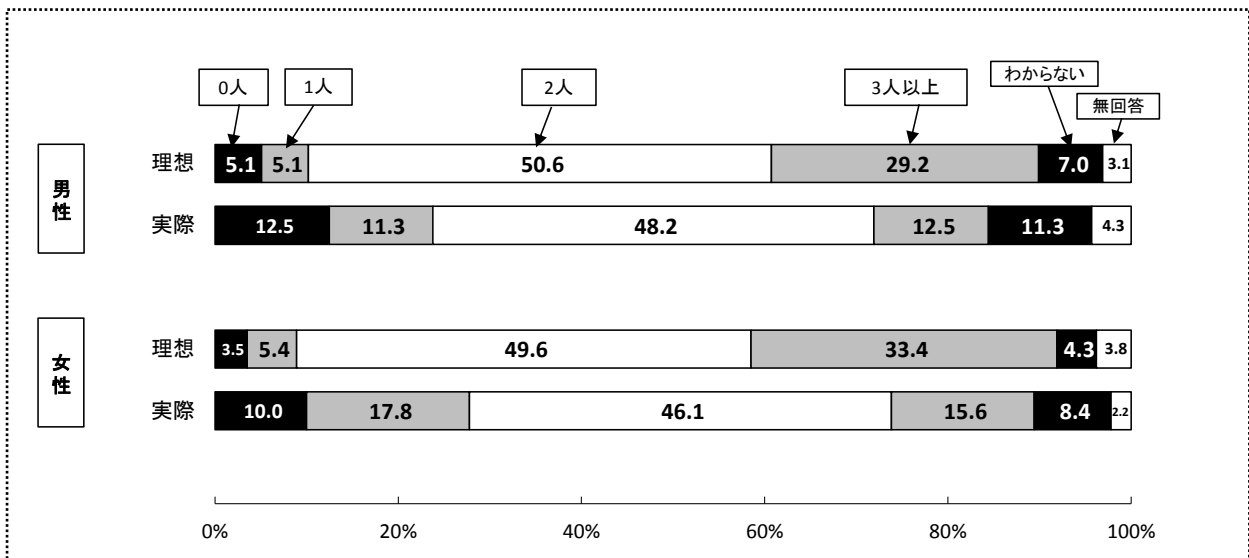


図 2-15 子どもの数の理想と実際（男女別）





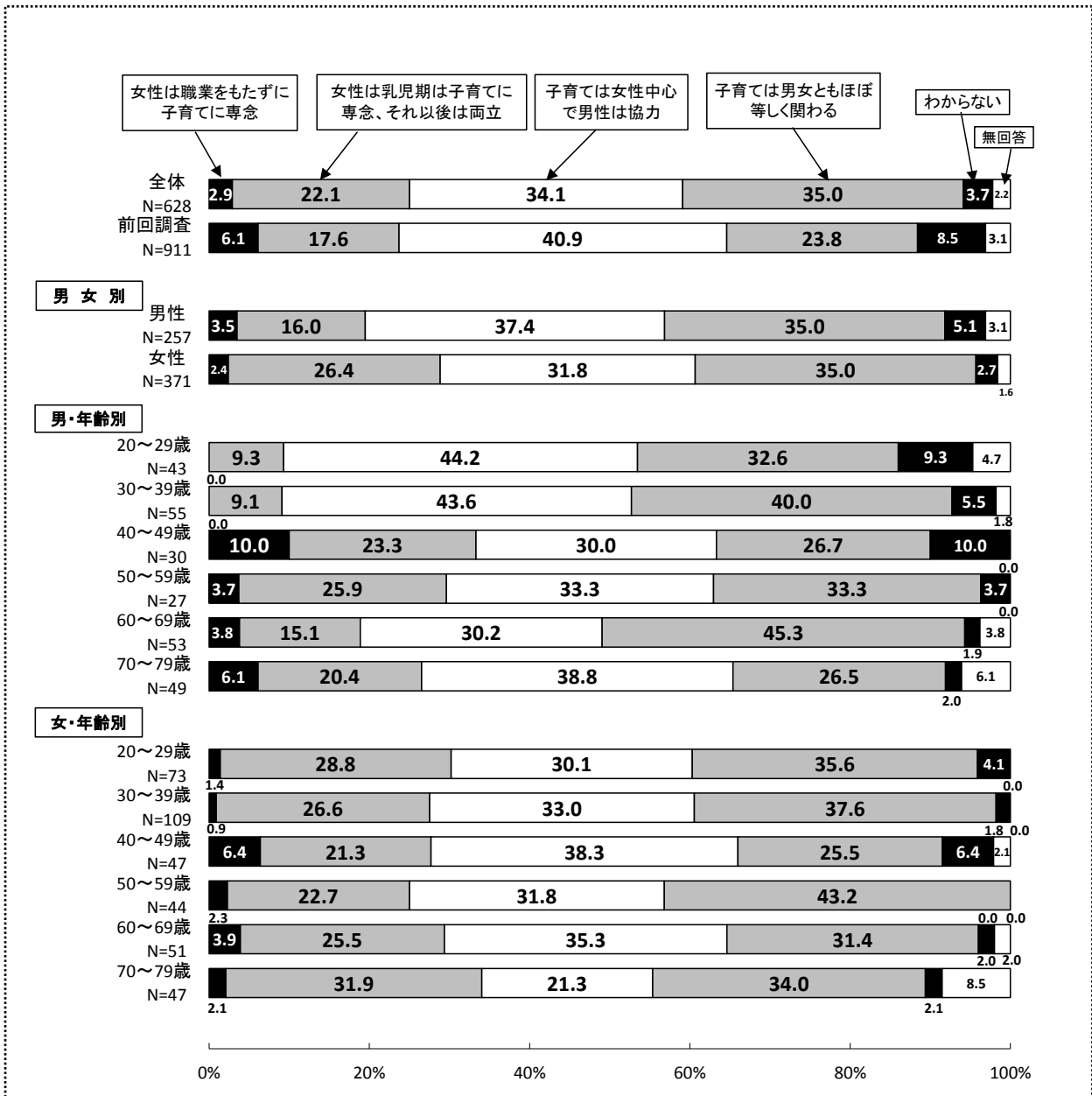
(4) 子育てと仕事

問7 あなたは、子育てと仕事についてどのように考えていますか。(1つだけに☑)

子育てと仕事については、「子育ては女性にも男性にも重要なことだから、男女ともほぼ等しく関わる」が 35.0%と最も多く、「子育ては女性中心で男性はできるだけ協力し、女性を働きやすくする」が 34.1%、「女性は育児休暇制度などを活用し、乳児期は子育てに専念し、それ以降は子育てと仕事を両立させる」が 22.1%、「子育ては女性の仕事だから、女性は職業をもたずに子育てに専念する」が 2.9%となっている。

前回調査と比べると、「子育ては女性にも男性にも重要なことだから、男女ともほぼ等しく関わる」が 11.2 ポイント増加、「女性は育児休暇制度などを活用し、乳児期は子育てに専念し、それ以降は子育てと仕事を両立させる」が 4.5 ポイント増加している。「子育ては女性中心で男性はできるだけ協力し、女性を働きやすくする」は 6.8 ポイント減少している。

図 2-16 子育てと仕事について



男女別では、男性は「子育ては女性中心で男性はできるだけ協力し、女性を働きやすくする」が37.4%と、女性（31.8%）に比べ5.6ポイント多い。女性は「女性は育児休暇制度などを活用し、乳児期は子育てに専念し、それ以降は子育てと仕事を両立させる」が26.4%と、男性（16.0%）を10.4ポイント上回っている。

性別年齢別でみると、男性の「20歳代」「30歳代」で「子育ては女性中心で男性はできるだけ協力し、女性を働きやすくする」が4割を超えている。

### (5) 育児休業の取得状況

《子どもがいる方にお聞きします。》

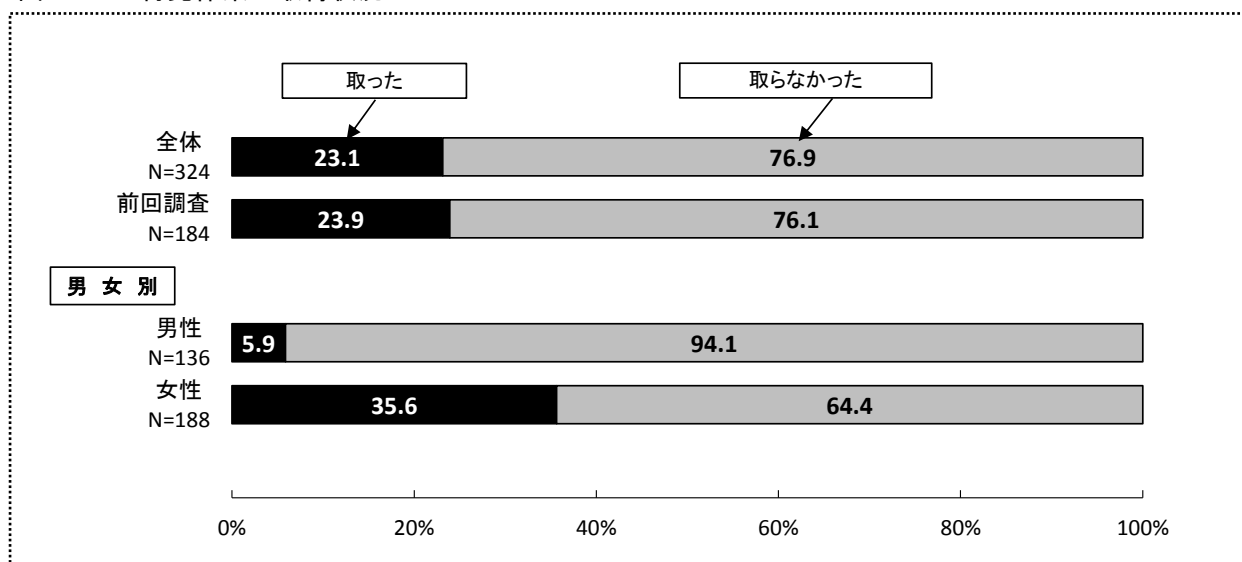
問8 あなたは育児休業を取りましたか。（1つだけに☑）

育児休業を「取った」は23.1%となっている。

前回調査とほぼ変わらない。しかし、前回調査では、「育児・介護休業法」が施行された平成4年4月以降に回答者又は配偶者が出産し、その時期に職場に在籍していた人を限定し、子どもが乳児（0歳）のとき、育児休業を取ったか、と聞いているため、単純な比較はできない。

男女別でみると、女性は「取った」が35.6%と、男性を大きく上回っている。

図 2-17 育児休業の取得状況



①育児休業を取得しなかった理由

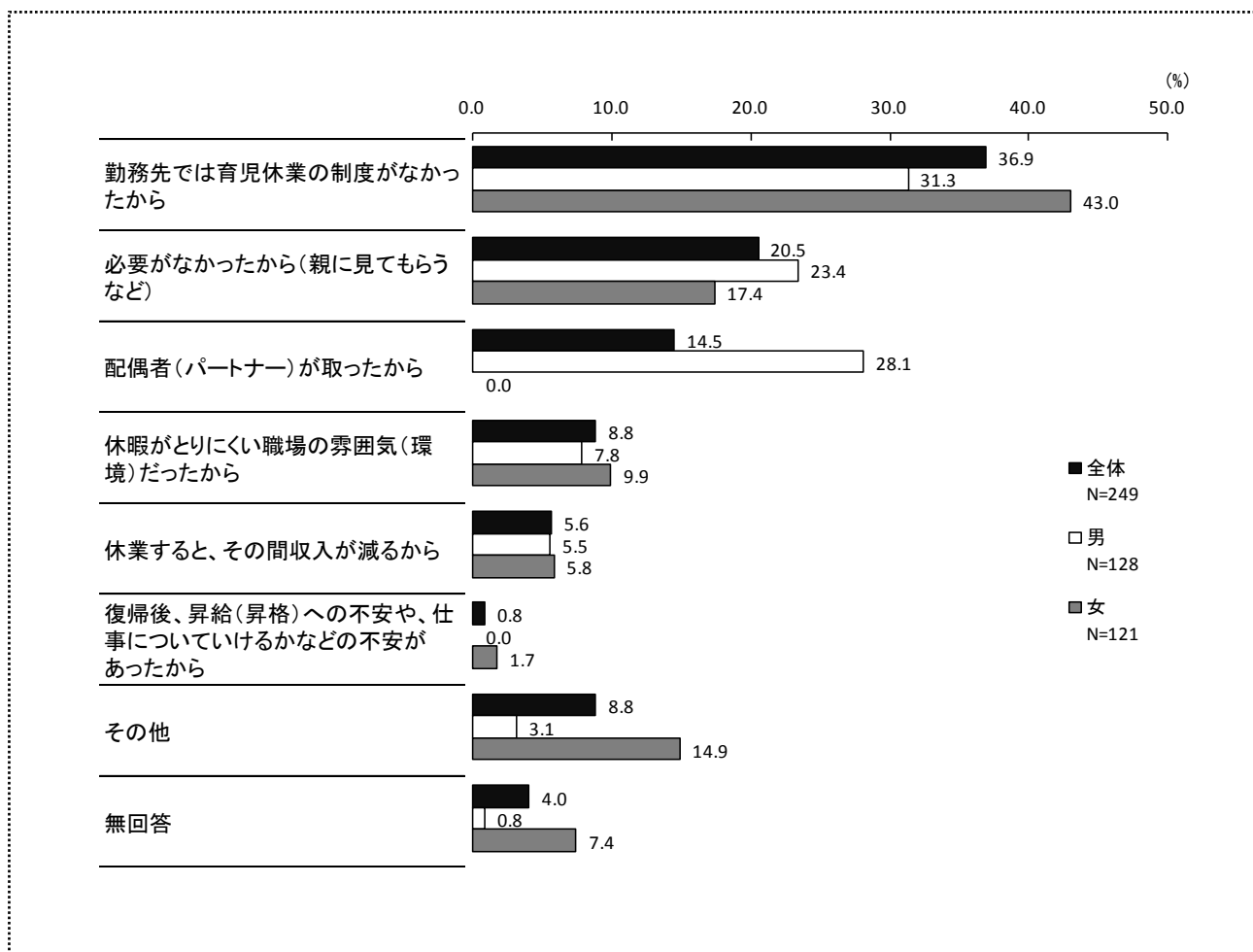
問9 問8で「2.取らなかった」と答えた方にお聞きします。  
取らなかった理由は何ですか。(1つだけに☑)

育児休業を「取らなかった」とした人の、取らなかった理由は、「勤務先では育児休業の制度がなかったから」が36.9%、「必要がなかったから(親に見てもらおうなど)」が20.5%、「配偶者(パートナー)が取ったから」が14.5%となっている。

男女別では、女性は「勤務先では育児休業の制度がなかったから」が43.0%と多い。男性は「配偶者(パートナー)が取ったから」が28.1%、「必要がなかったから(親に見てもらおうなど)」が23.4%となっている。

今後も事業主に対して社内制度の整備を促すとともに、子育てしている人への制度の周知や情報提供を行っていくことは必要と思われる。

図 2-18 育児休業を取得しなかった理由



## ②男性の育児休業

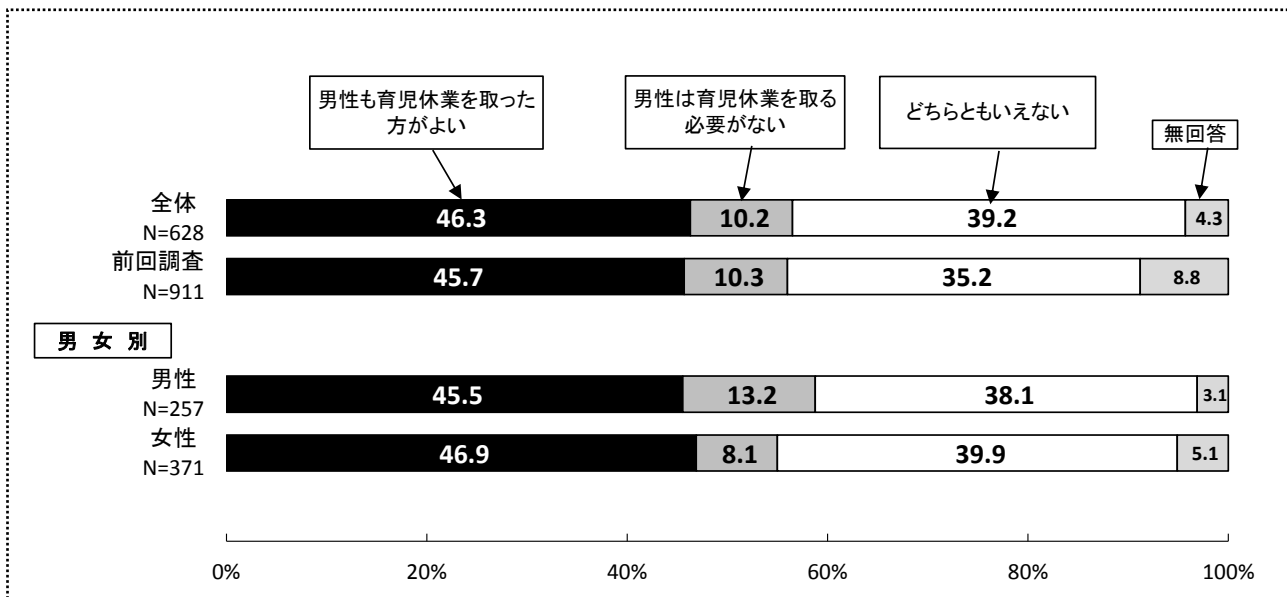
問 10 育児休業は男性も取ることができます。職場で男性が、取ることについて、どう思われますか。(1つだけに☑)

男性が育児休業を取ることに、「取った方がよい」は46.3%、「取る必要がない」は10.2%、「どちらともいえない」が39.2%となっている。

前回調査とほとんど変わらない。

男女別でも大きな違いはみられない。

図 2-19 男性の育児休業



(6) 高齢者介護の担い手

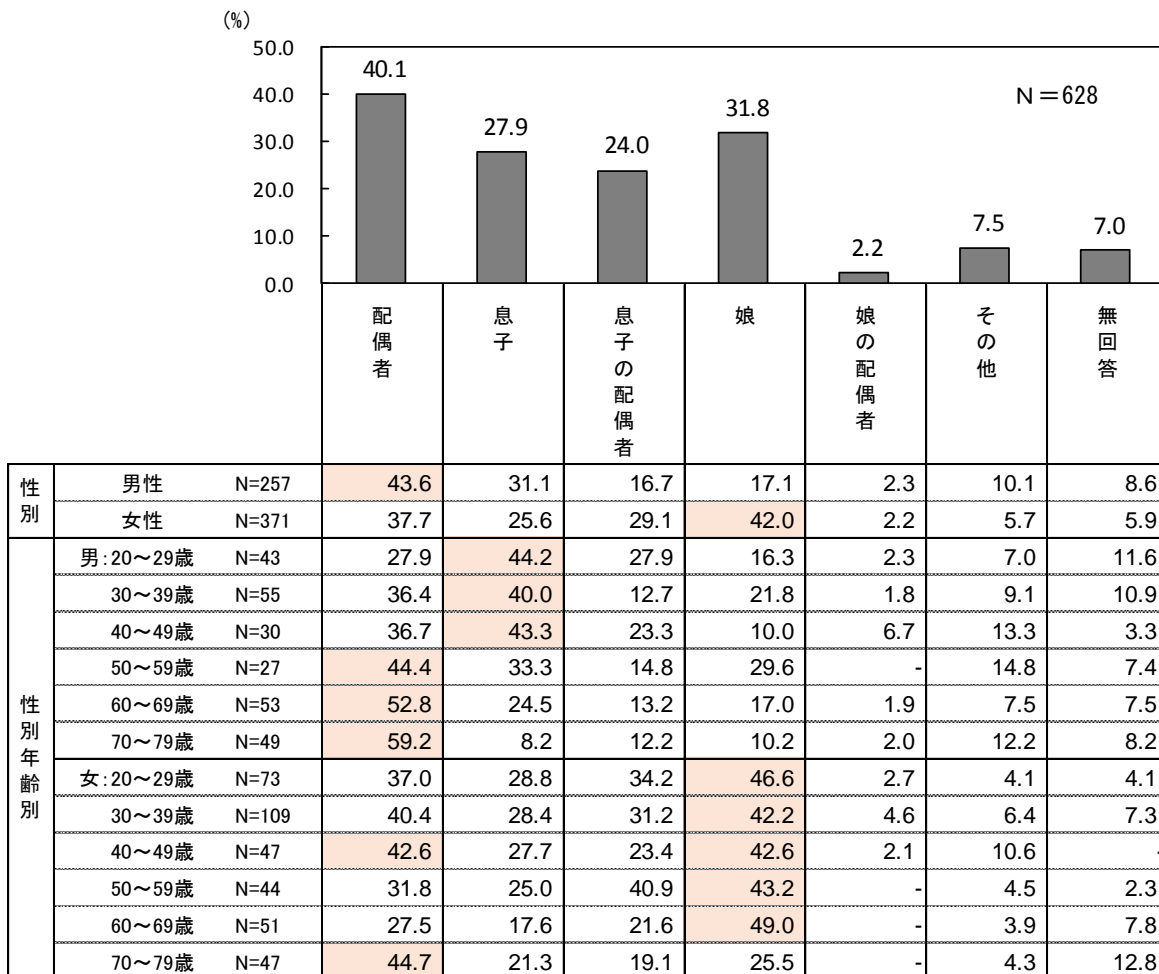
問 11 あなたの家庭では、高齢者介護の担い手は誰ですか。現在介護を受ける人がいない場合は将来誰が中心になると思いますか。介護を受ける人から見た続柄で回答してください。  
(いくつでも☑)

高齢者介護の担い手は、「配偶者」が40.1%と最も多く、次いで「娘」が31.8%、「息子」が27.9%となっている。

男女別では、男性は「配偶者」が43.6%と、女性に比べて5.9ポイント多い。特に、男性の「60歳代以上」では「配偶者」が5割を超えて多くなっている。「40歳代以下」では「息子」が「配偶者」を上回り、4割を超え、「娘」を大きく上回っている。

女性は「娘」が42.0%と男性を24.9ポイント上回っている。女性の「70歳代」を除いて、「娘」が多く4割を超えている。

図 2-20 高齢者介護の担い手(複数回答)



=最も多い数値

### 3. 仕事について

#### (1) 職場の実態

《現在、働いている方全員にお聞きします。》

問 12 次の①～⑧について、職場の実態またはあなたの感じ方に近いものを1～4の中から選んで☑をつけてください。(☑はそれぞれ1つずつ)

- ①採用や退職について、男女に差がなくなっている
- ②仕事の分担は、男女関係なく個人の適性に合った形になっている
- ③同じ仕事の場合、男女同じように昇給・昇格している
- ④男女は、同じように研修や訓練を受けている
- ⑤育児休業制度が活用されるなど、妊娠・出産・育児などを支える制度、雰囲気がある
- ⑥女性は責任が重くなるのを敬遠しているように思われる
- ⑦女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっている
- ⑧出産などにより一旦退職した女性が同じ職場に再雇用されている

働いている439人の、職場での男女差に関する意識をみることとする。

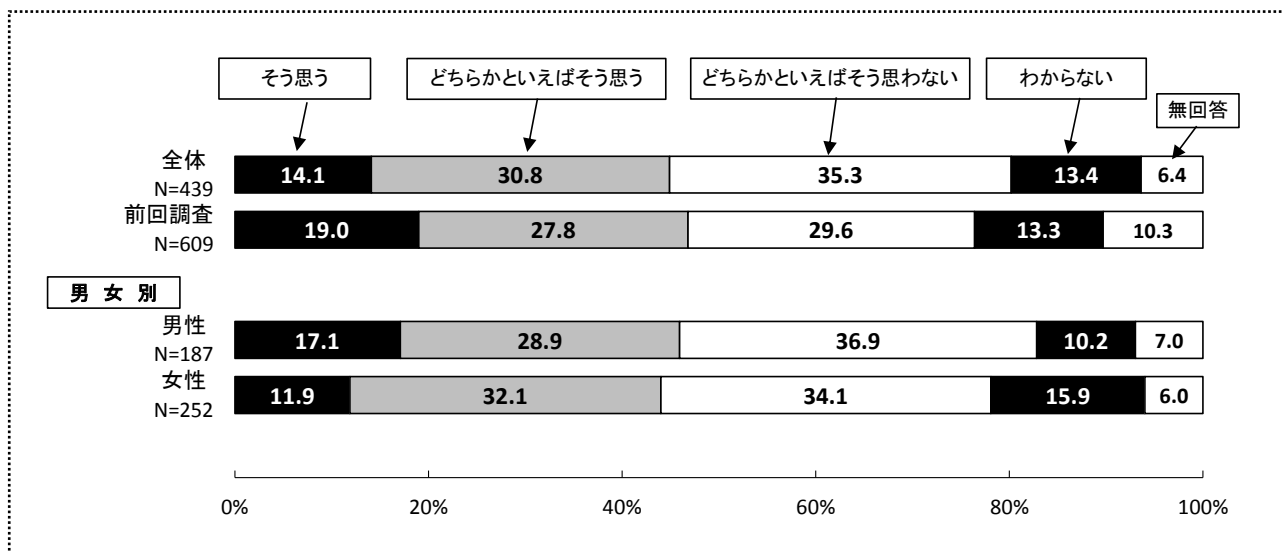
#### ①「採用や退職について、男女に差がなくなっている」

採用や退職に関する男女差がなくなっていることについて、肯定した割合（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は44.9%、否定した割合（「どちらかといえばそう思わない」）は35.3%となっている。

前回調査と比べると、否定した割合が5.7ポイント増加した。

男女別でみると、男性は肯定した割合が46.0%と、女性に比べて2.0ポイント多い。

図 3-1 採用や退職について、男女に差がなくなっている



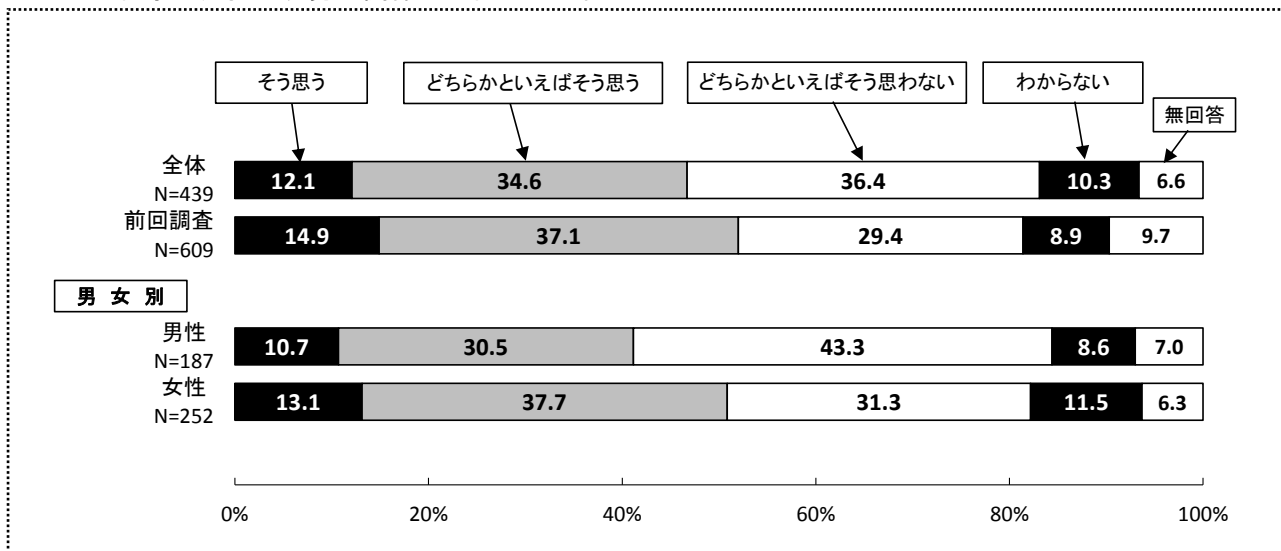
### ② 「仕事の分担は、男女関係なく個人の適性に応じた形になっている」

男女関係なく仕事の分担が行われているかについて、肯定した割合は 46.7%、否定した割合は 36.4%となっている。

前回調査と比べると、否定した割合が 7.0 ポイント増加した。

男女別でみると、女性は肯定した割合が 50.8%と半数を占め、男性に比べて 9.6 ポイント多い。男性は否定した割合が 43.3%と女性を 12.0 ポイント上回っている。

図 3-2 仕事の分担は、男女関係なく個人の適性に応じた形になっている



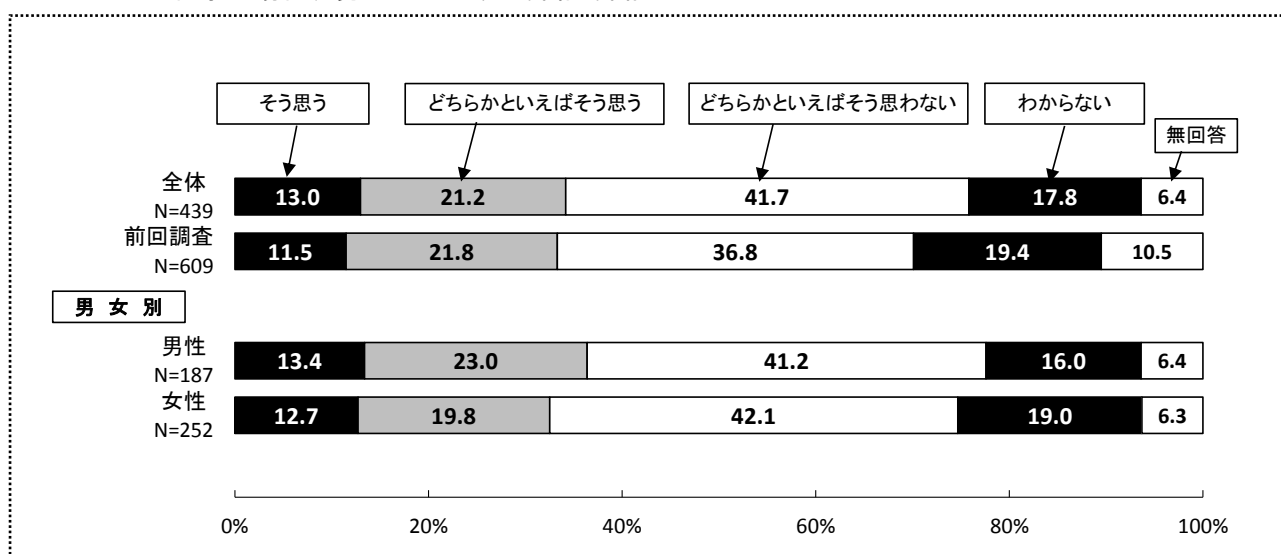
### ③ 「同じ仕事の場合、男女同じように昇給・昇格している」

男女差のない昇給・昇進について、否定した割合が 41.7%と、肯定した割合(34.2%)を上回っている。

前回調査と比べると、否定した割合が 4.9 ポイント増加した。

男女別でみると、男性は肯定した割合が 36.4%と、女性に比べて 3.9 ポイント多い。

図 3-3 同じ仕事の場合、男女同じように昇給・昇格している



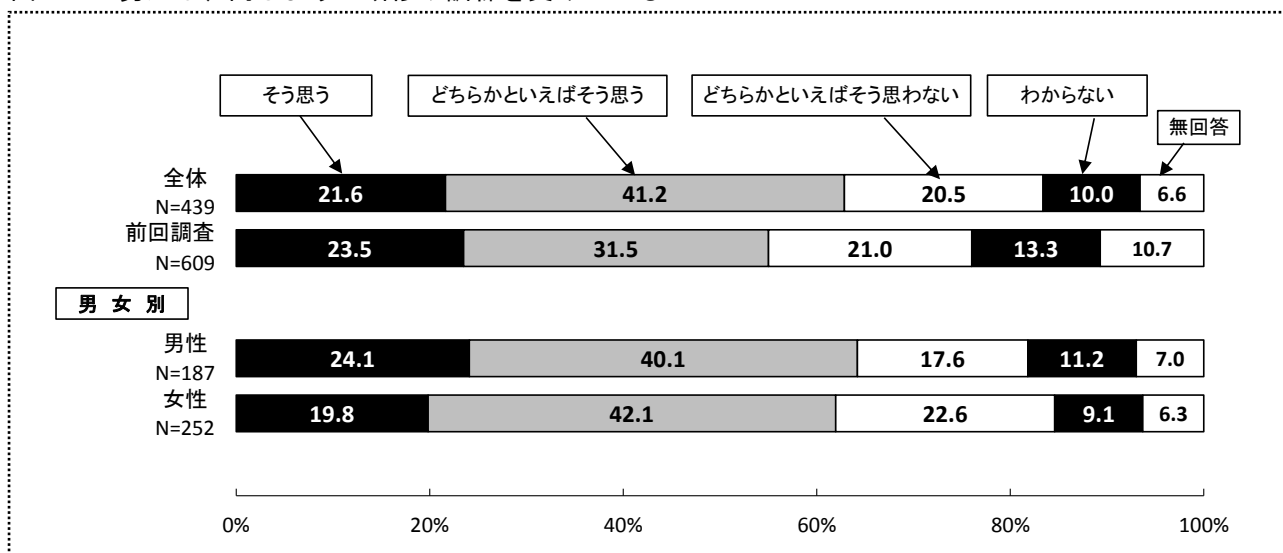
#### ④「男女は、同じように研修や訓練を受けている」

男女差のない研修や教育訓練について、肯定した割合は 62.8%、否定した割合は 20.5%となっている。

前回調査と比べると、肯定した割合が 7.8 ポイント増加した。

男女別でみると、男性は肯定した割合が 64.2%と、女性に比べて 2.3 ポイント多い。女性は否定した割合が 22.6%と男性を 5.0 ポイント上回っている。

図 3-4 男女は、同じように研修や訓練を受けている



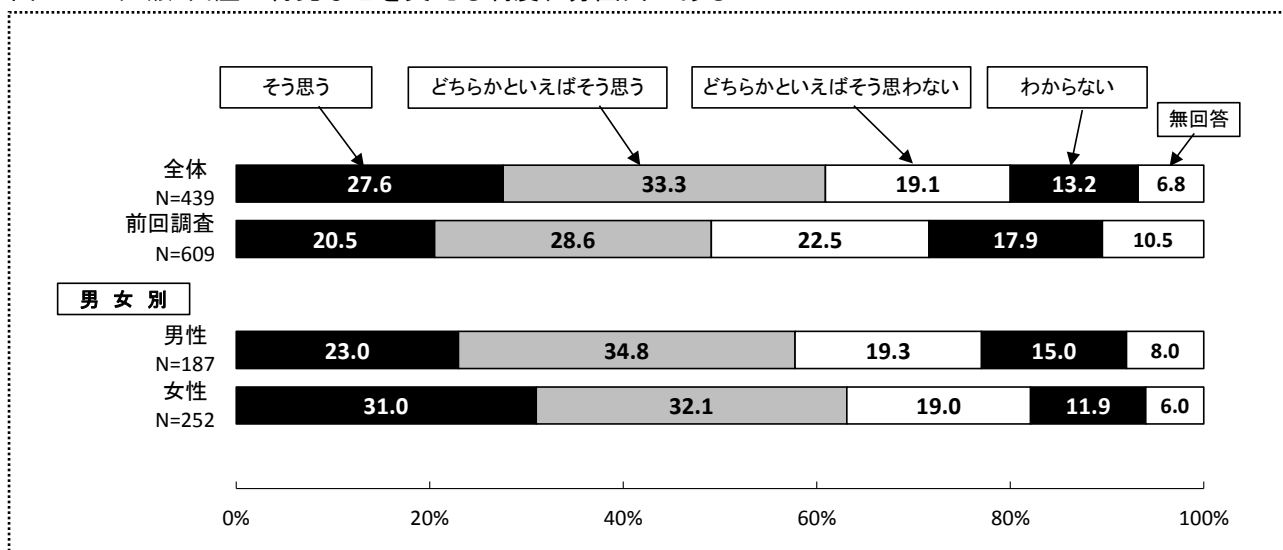
#### ⑤「育児休業制度が活用されるなど、妊娠・出産・育児などを支える制度、雰囲気がある」

育児などを支える制度があるかについて、肯定した割合は 60.9%、否定した割合は 19.1%となっている。

前回調査と比べると、肯定した割合が 11.8 ポイント増加、否定した割合が 3.4 ポイント減少した。

男女別でみると、女性は肯定した割合が 63.1%と、男性に比べて 5.3 ポイント多い。

図 3-5 妊娠・出産・育児などを支える制度、雰囲気がある





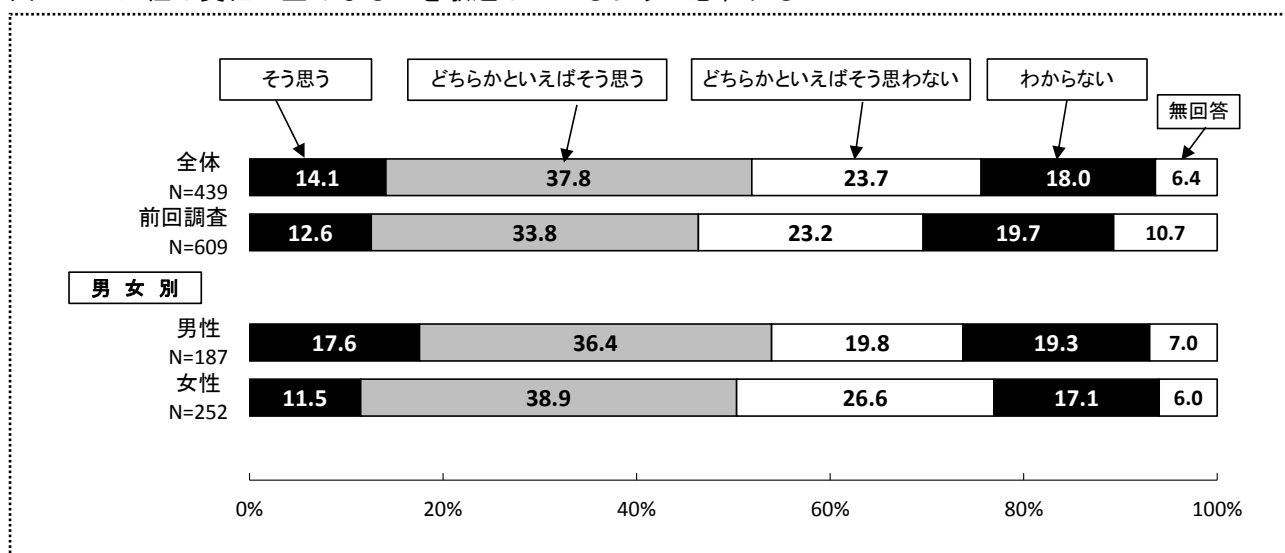
⑥「女性は責任が重くなるのを敬遠しているように思われる」

女性は責任が重くなるのを敬遠しているかについて、肯定した割合は 51.9%、否定した割合は 23.7%となっている。

前回調査と比べると、肯定した割合が 5.5 ポイント増加した。

男女別でみると、男性は肯定した割合が 54.0%と、女性に比べて 3.6 ポイント多い。女性は否定した割合が 26.6%と男性を 6.8 ポイント上回っている。

図 3-6 女性は責任が重くなるのを敬遠しているように思われる



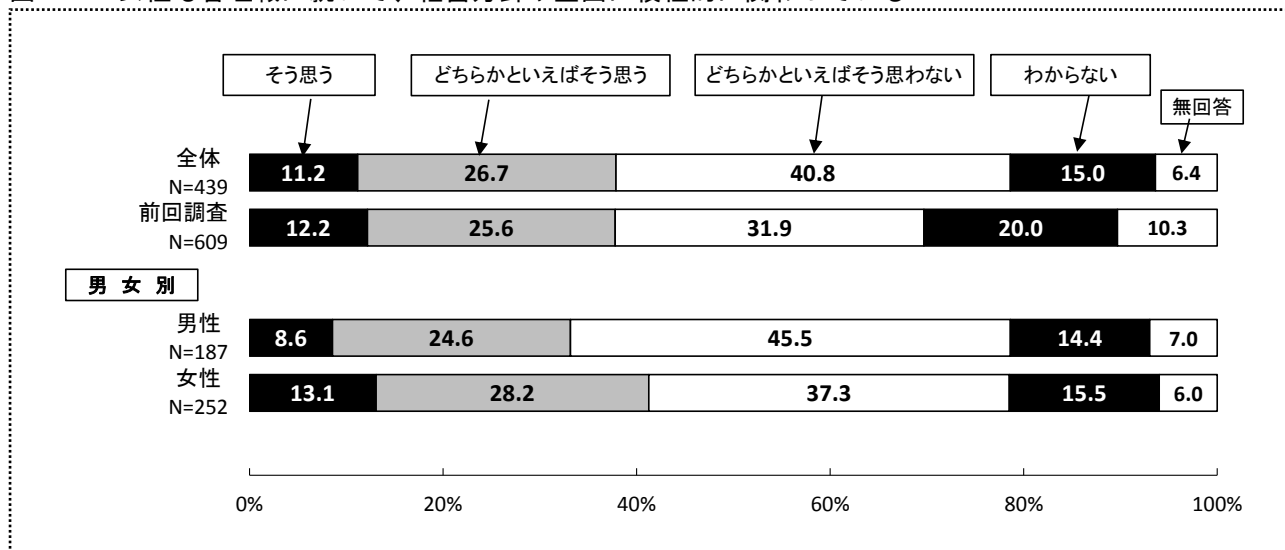
⑦「女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっている」

女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっているかについて、否定した割合が 40.8%と、肯定した割合 (37.9%) を若干上回っている。

前回調査と比べると、否定した割合は 8.9 ポイント増加した。

男女別でみると、男性は否定した割合が 45.5%と、女性に比べて 8.2 ポイント多い。女性は肯定した割合が 41.3%と、男性を 8.1 ポイント上回っている。

図 3-7 女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっている



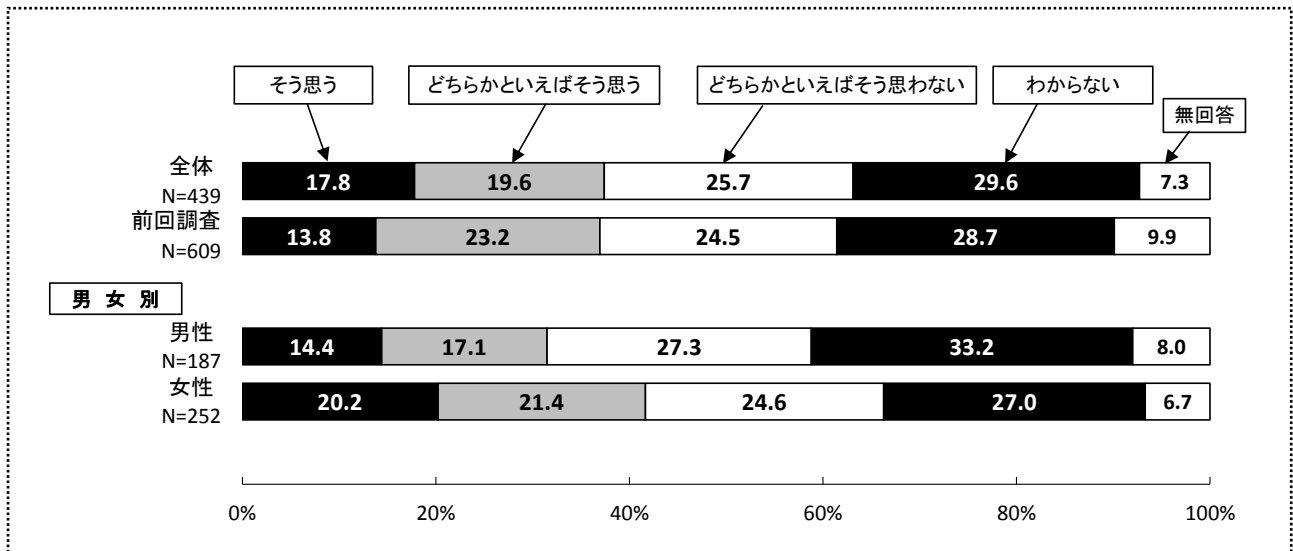
⑧「出産などにより一旦退職した女性が同じ職場に再雇用されている」

再雇用について、肯定した割合は 37.4%、否定した割合は 25.7%となっている。

前回調査と比べると、ほぼ同じ傾向にある。

男女別で見ると、女性は肯定した割合が 41.6%と、男性に比べて 10.1 ポイント多い。

図 3-8 出産などにより一旦退職した女性が同じ職場に再雇用されている



以上、8つの項目で見ると、「研修や訓練」「仕事の分担」では職場での男女差がなくなっている意識している割合は多く、また、妊娠・出産・育児などを支える制度も充実してきていると思われる。一方、回答者の半数は「女性は責任が重くなるのを敬遠している」ように思っており、「昇給・昇格」や「管理職への登用・経営方針や企画への関与」においては、男女格差があると意識している傾向にある。

#### 4. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

##### (1) 仕事と、家庭生活や地域活動の望ましいあり方

問 13 仕事と家庭生活等について、あなたが望ましいと思うのはどれですか。また、あなたご自身の実際の生活はいかがですか。（☑はそれぞれ1つずつ）

- ①望ましい男性のあり方    ②望ましい女性のあり方    ③あなたの実際の生活

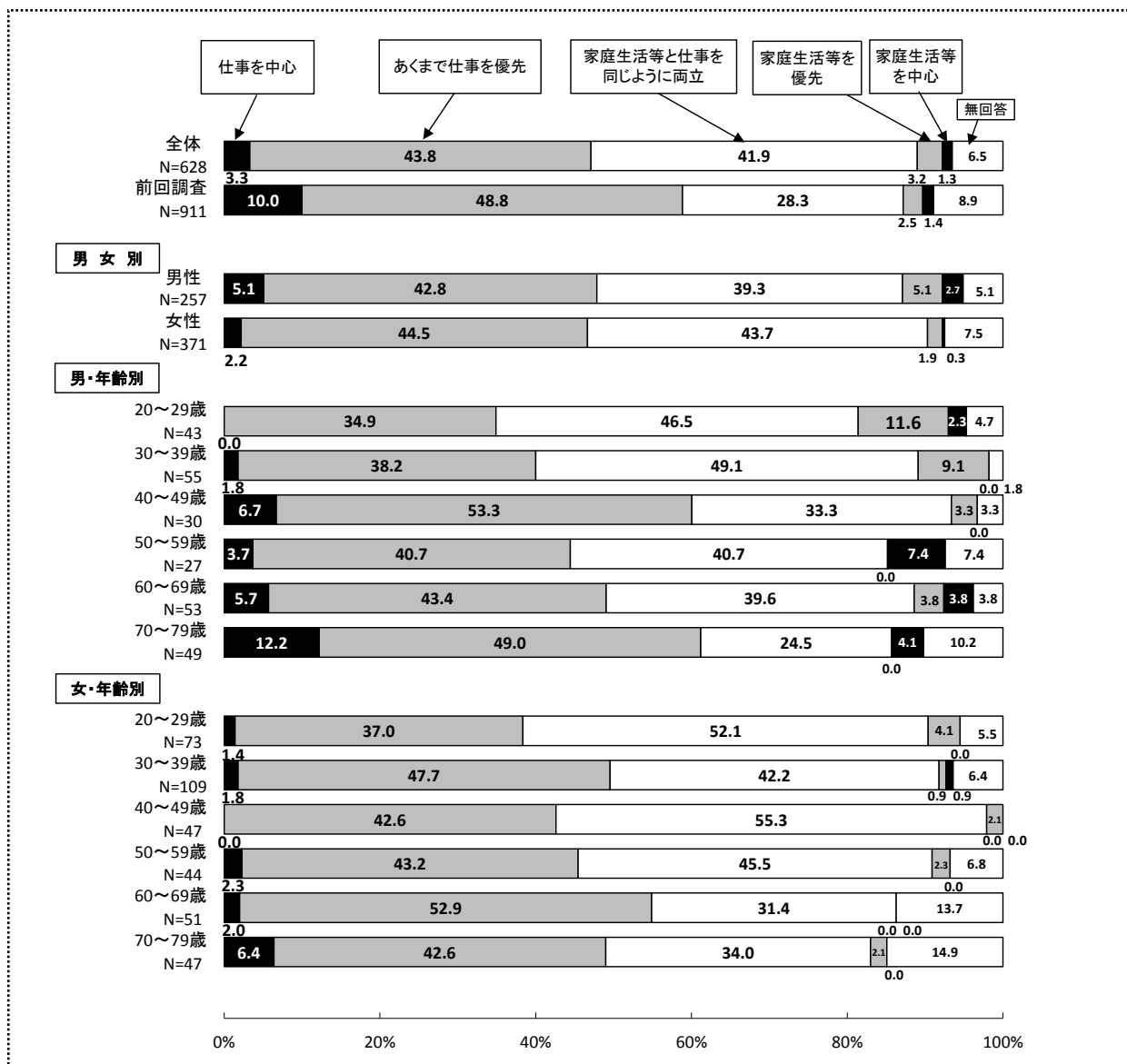
##### ①望ましい男性のあり方

望ましい男性のあり方は、仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「あくまで仕事を優先」）は47.1%、「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が41.9%、「家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活等を中心にする」＋「仕事には携わるが家庭生活等を優先させる」）は4.5%となっている。

前回調査と比べると、「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が13.6ポイント増加した。

男性の「40歳代」「70歳代」は、「男性は仕事を優先とする割合」が6割を超えている。

図 4-1 望ましい男性のあり方



## ②望ましい女性のあり方

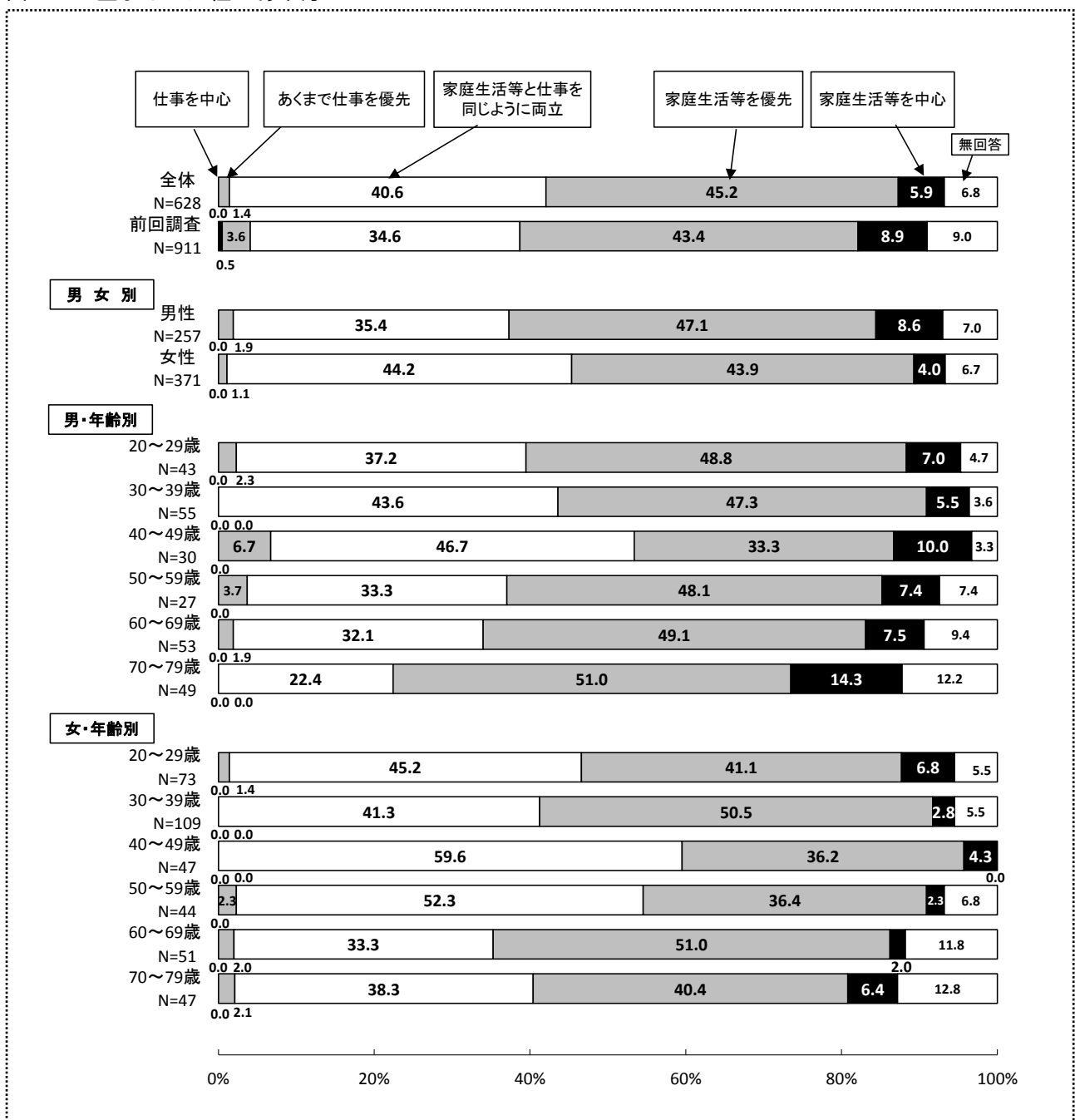
望ましい女性のあり方は、家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活等を中心」＋「家庭生活等を優先」）が51.1%と半数を占める。「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が40.6%、「仕事を優先とする割合は1.4%となっている。

前回調査と比べると、ほぼ同じ傾向にある。

男女別では、男性は、女性は家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活等を中心」＋「家庭生活等を優先」）が55.7%と、女性に比べて7.8ポイント多い。女性は「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が44.2%と、男性を8.8ポイント上回っている。

性別年齢別でみると、女性の「40歳代」「50歳代」は、「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」がそれぞれ59.6%、52.3%となっている。女性の「60歳代以上」になると「家庭生活等を優先とする割合」が多くなる。

図 4-2 望ましい女性のあり方



### ③実際の生活

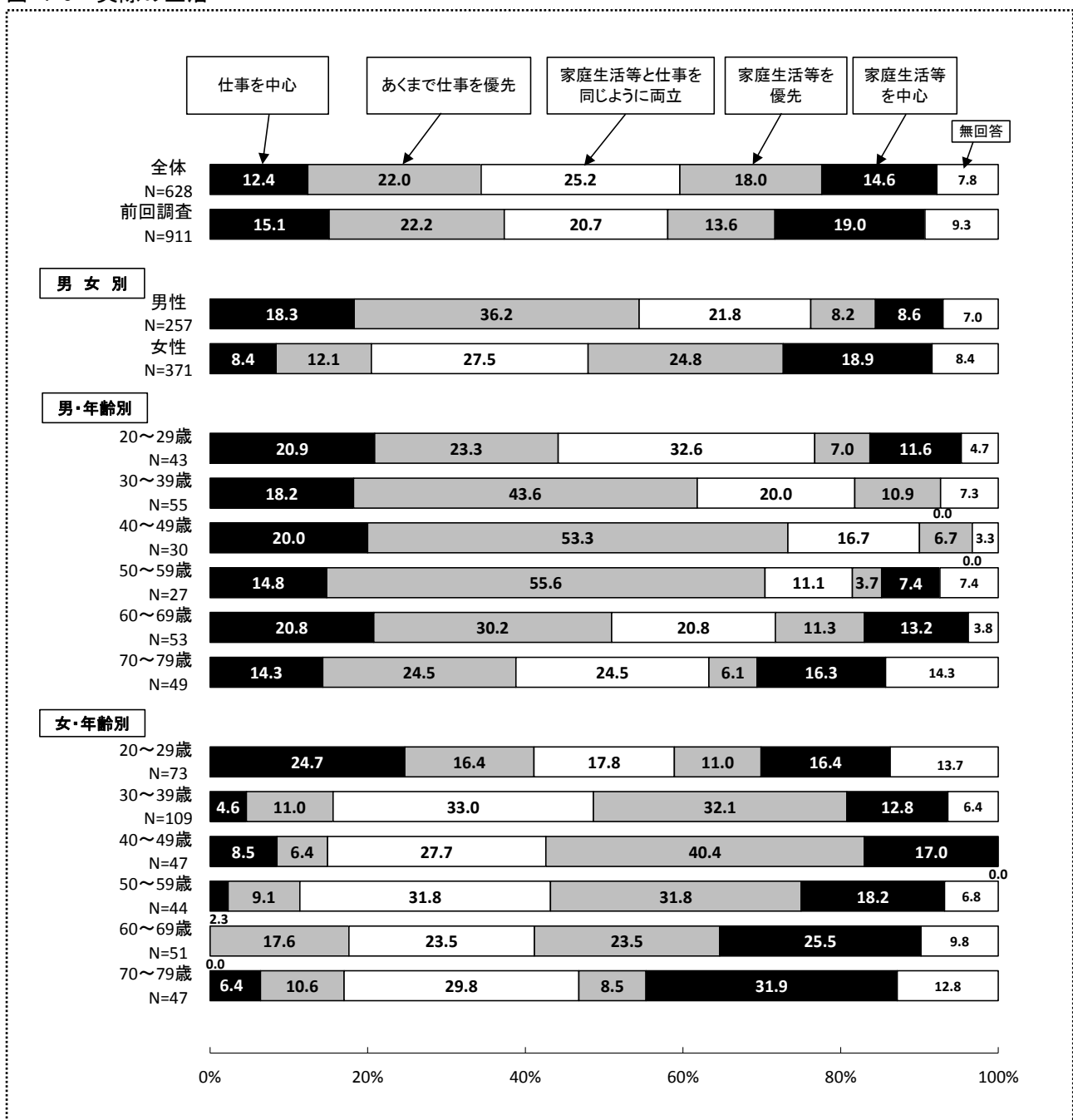
実際の生活は、仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「あくまで仕事を優先」）が34.4%、家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活等を中心」＋「家庭生活等を優先」）が32.6%、「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が25.2%となっている。

前回調査と比べると、「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が4.5ポイント増加した。

男女別では、男性は仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「あくまで仕事を優先」）が54.5%、女性は家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活等を中心」＋「家庭生活等を優先」）が43.7%となっている。

性別年齢別でみると、男性の「40歳代」「50歳代」は仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「あくまで仕事を優先」）が7割を超えている。女性の「40歳代」は、家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活等を中心」＋「家庭生活等を優先」）が57.4%と多い。

図 4-3 実際の生活



#### ④理想と現実

男性が考える「望ましい男性のあり方」と男性の実際の生活、女性が考える「望ましい女性のあり方」と女性の実際の生活をそれぞれ比較してみる。

男性は、仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「あくまで仕事を優先」）が理想では47.9%となり、現実よりも6.6ポイント多い。「家庭生活等と仕事の両立」が理想では39.3%、現実には21.8%と17.5ポイント少ない。家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活等を中心」＋「家庭生活等を優先」）は理想では7.8%で、現実には16.8%と9.0ポイント多い。

女性は、「家庭生活等と仕事の両立」が理想では44.2%、現実には27.5%と16.7ポイント少ない。「仕事を優先とする割合」は理想では1.1%、現実には20.5%と19.4ポイント多くなっている。

現在就業し、かつ結婚して家庭を持っている人の理想と現実は、同様の傾向にある。

図 4-4-① 理想と現実

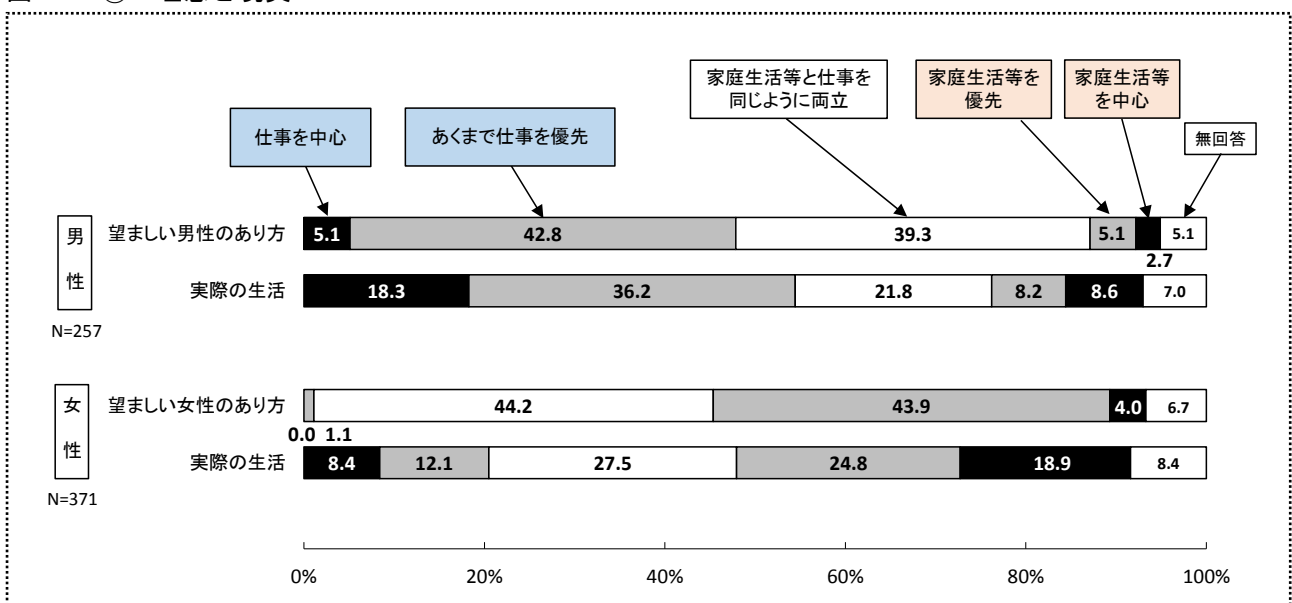
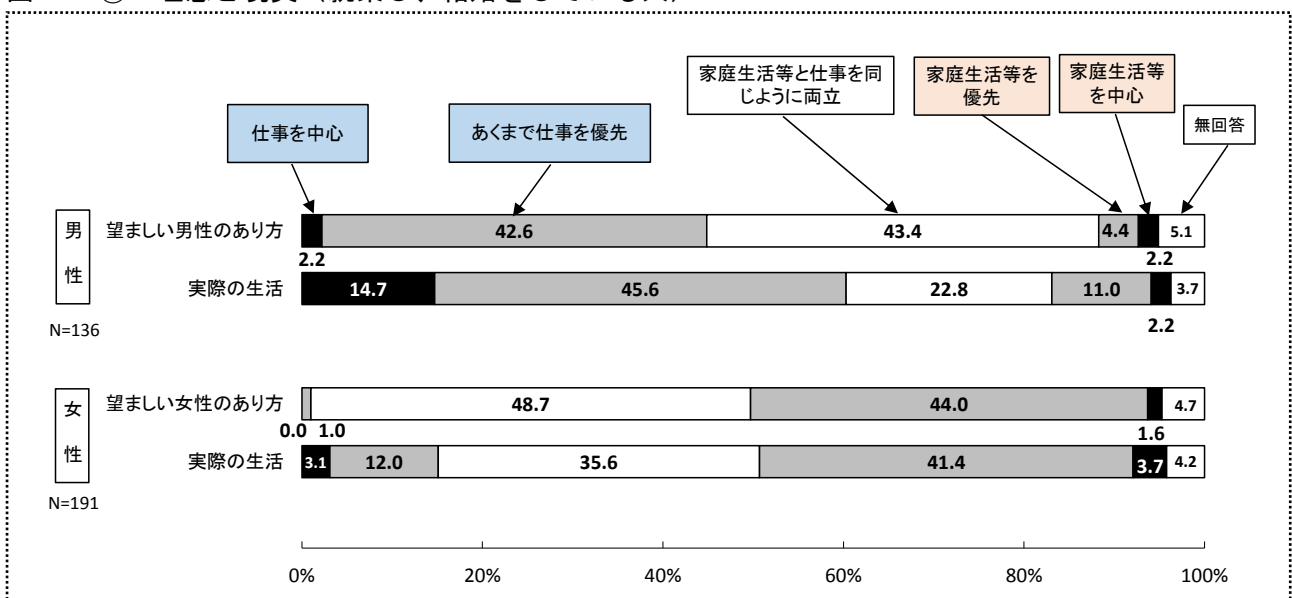


図 4-4-② 理想と現実（就業し、結婚をしている人）



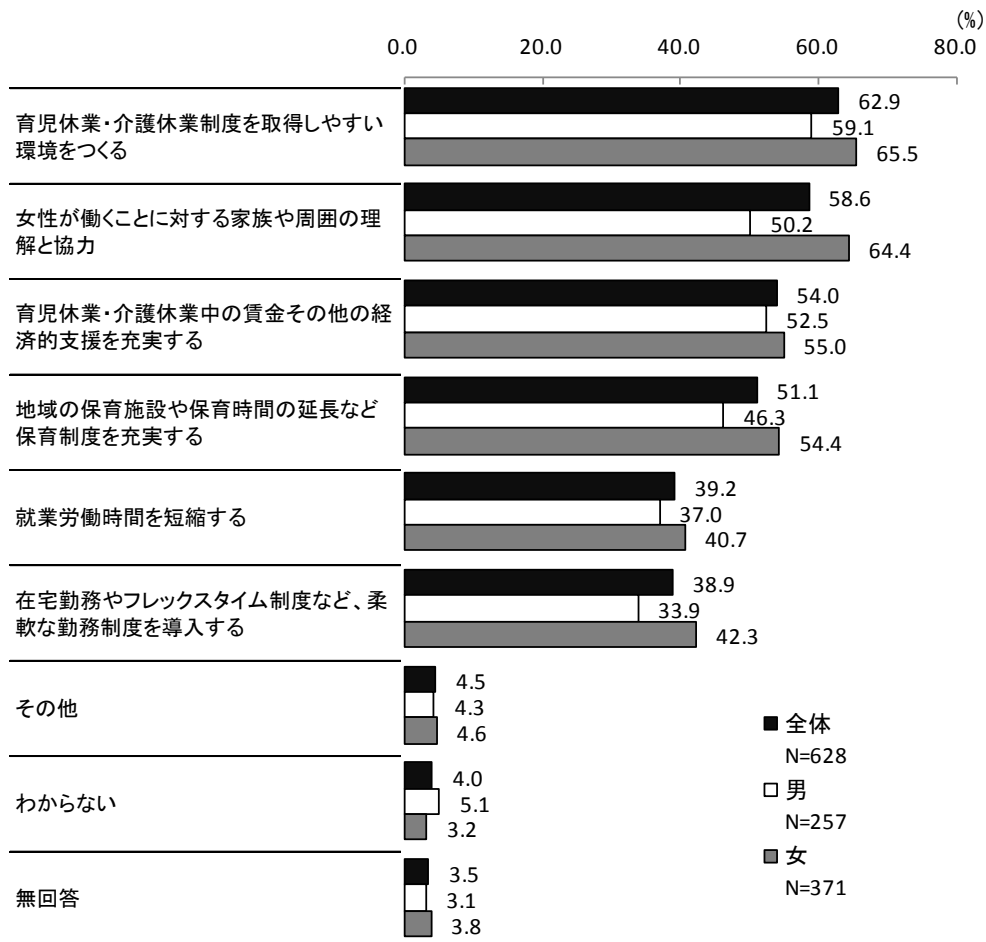
(2) 仕事と家庭の両立に必要なこと

問 14 男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも☑)

男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要だと思うことは、「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が最も多く 62.9%、次いで「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」が 58.6%、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」が 54.0%、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する」が 51.1%となっている。

男女別では、女性は「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が 65.5%、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」が 64.4%と、男性に比べそれぞれ 6.4 ポイント、14.2 ポイント多くなっている。

図 4-5 仕事と家庭の両立に必要なこと（複数回答）



性別年齢別では、女性の「20歳代」「60歳代」、男性の「60歳代」は「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」が6割を超え、特に女性の「20歳代」は68.5%となっている。また、男女とも「60歳代」では「地域の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する」が6割を超えている。男性の「20歳代」、女性の「20～30歳代」は「就業労働時間を短くする」が他の年齢層に比べて多い。また、女性の「50歳代以下」は「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」が多い。

仕事と家庭を両立するためには、男女双方の育児休業取得や多様な働き方の普及・促進を図るなど、働きやすい職場環境が整備されるよう、また家族の協力体制の確立に向けて、いっそう事業主・市民への意識啓発に取り組むことが大切と思われる。

表2 仕事と家庭の両立に必要なこと（複数回答） (%)

|             |               | 育児休業・介護休業制度を取得しやす<br>環境をつくる | 女性が働くことに対する家族や周囲<br>の理解と協力 | 育児休業・介護休業中の賃金その他<br>の経済的支援を充実する | 地域の保育施設や保育時間の延長な<br>ど保育制度を充実する | 就業労働時間を短縮する | 在宅勤務やフレックスタイム制度な<br>ど、柔軟な勤務制度を導入する | その他  | わからない | 無回答 |
|-------------|---------------|-----------------------------|----------------------------|---------------------------------|--------------------------------|-------------|------------------------------------|------|-------|-----|
| 性別<br>年齢別   | 男：20～29歳 N=43 | 67.4                        | 37.2                       | 46.5                            | 34.9                           | 55.8        | 39.5                               | 4.7  | 2.3   | 4.7 |
|             | 30～39歳 N=55   | 61.8                        | 47.3                       | 58.2                            | 45.5                           | 41.8        | 40.0                               | 3.6  | 3.6   | 1.8 |
|             | 40～49歳 N=30   | 33.3                        | 36.7                       | 56.7                            | 33.3                           | 36.7        | 36.7                               | 3.3  | 10.0  | -   |
|             | 50～59歳 N=27   | 55.6                        | 63.0                       | 55.6                            | 37.0                           | 40.7        | 48.1                               | 11.1 | 3.7   | 7.4 |
|             | 60～69歳 N=53   | 71.7                        | 58.5                       | 60.4                            | 60.4                           | 34.0        | 28.3                               | 3.8  | 1.9   | -   |
|             | 70～79歳 N=49   | 53.1                        | 57.1                       | 38.8                            | 55.1                           | 16.3        | 18.4                               | 2.0  | 10.2  | 6.1 |
|             | 女：20～29歳 N=73 | 75.3                        | 58.9                       | 68.5                            | 53.4                           | 49.3        | 43.8                               | 1.4  | 4.1   | 2.7 |
|             | 30～39歳 N=109  | 60.6                        | 62.4                       | 52.3                            | 57.8                           | 57.8        | 55.0                               | 9.2  | 1.8   | 3.7 |
|             | 40～49歳 N=47   | 68.1                        | 63.8                       | 51.1                            | 48.9                           | 23.4        | 46.8                               | 4.3  | 4.3   | -   |
|             | 50～59歳 N=44   | 68.2                        | 59.1                       | 47.7                            | 54.5                           | 29.5        | 36.4                               | 6.8  | 2.3   | 4.5 |
|             | 60～69歳 N=51   | 68.6                        | 76.5                       | 64.7                            | 60.8                           | 31.4        | 37.3                               | -    | -     | 5.9 |
| 70～79歳 N=47 | 53.2          | 70.2                        | 40.4                       | 46.8                            | 25.5                           | 17.0        | 2.1                                | 8.5  | 6.4   |     |
| 職業別         | 自営業 N=44      | 52.3                        | 70.5                       | 31.8                            | 56.8                           | 31.8        | 20.5                               | 6.8  | 6.8   | -   |
|             | フルタイム勤務 N=299 | 61.5                        | 55.2                       | 57.2                            | 50.8                           | 45.2        | 41.5                               | 5.4  | 2.0   | 3.0 |
|             | パートタイム勤務 N=96 | 65.6                        | 60.4                       | 59.4                            | 43.8                           | 44.8        | 49.0                               | 3.1  | 3.1   | 3.1 |
|             | 無職 N=189      | 66.1                        | 60.3                       | 51.3                            | 54.0                           | 28.6        | 33.9                               | 3.2  | 6.9   | 5.3 |

＝最も多い数値



## 5. セクシュアル・ハラスメントについて

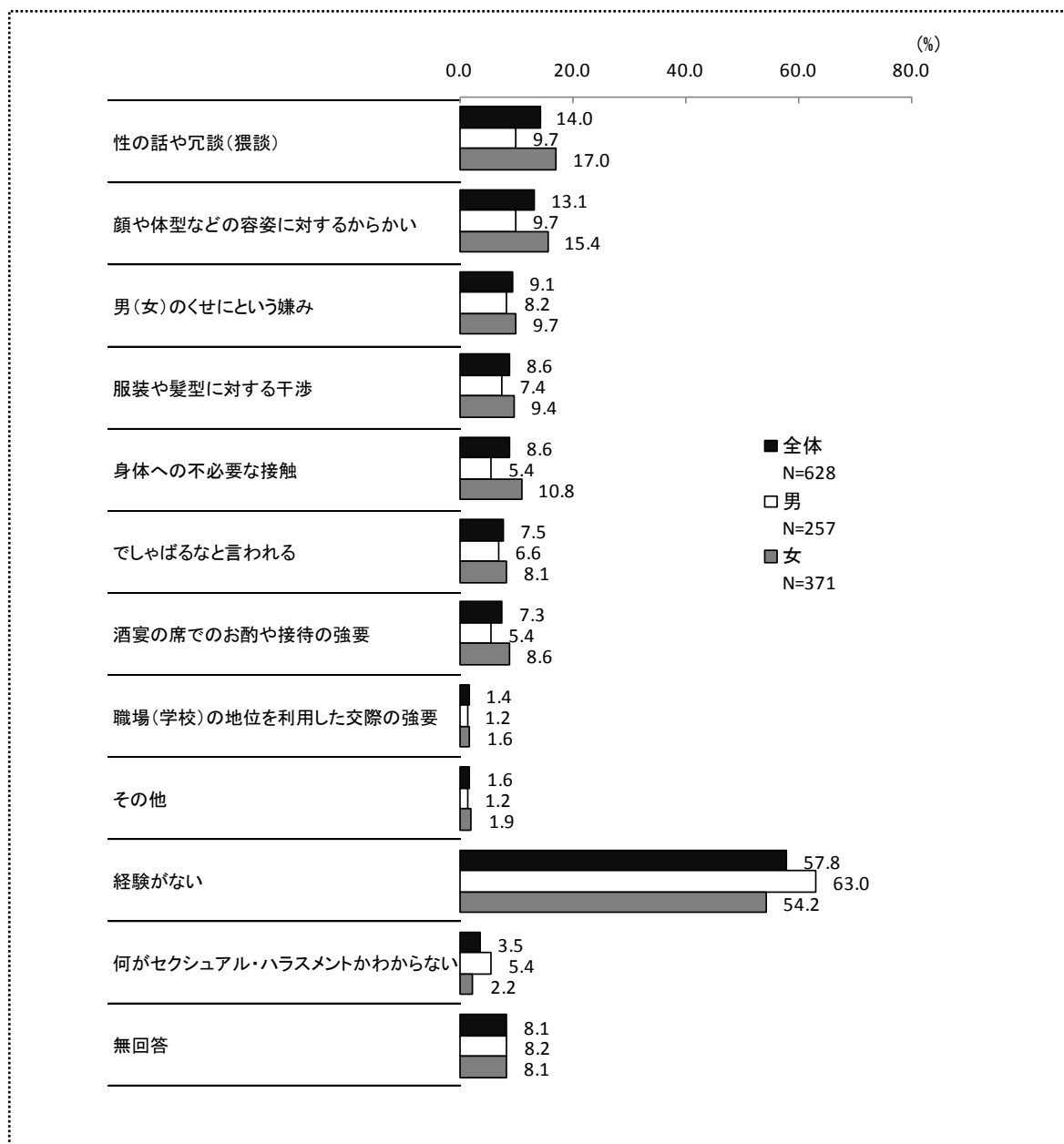
### (1) セクシュアル・ハラスメントの経験

問 15 あなたは、過去5年以内に職場（アルバイト先を含む）や学校、地域の会合などで次のようなセクシュアル・ハラスメント（性的ないやがらせ）をされたり、見たりした経験がありますか。（いくつでも☑）

セクシュアル・ハラスメントの「経験がない」は57.8%と6割近くを占める。

経験のある人のその内容は、「性的話や冗談（猥談）」「顔や体型などの容姿に対するからかい」が上位にあげられた。

図 5-1 セクシュアル・ハラスメントの経験（複数回答）



## (2) セクシュアル・ハラスメントの相談先

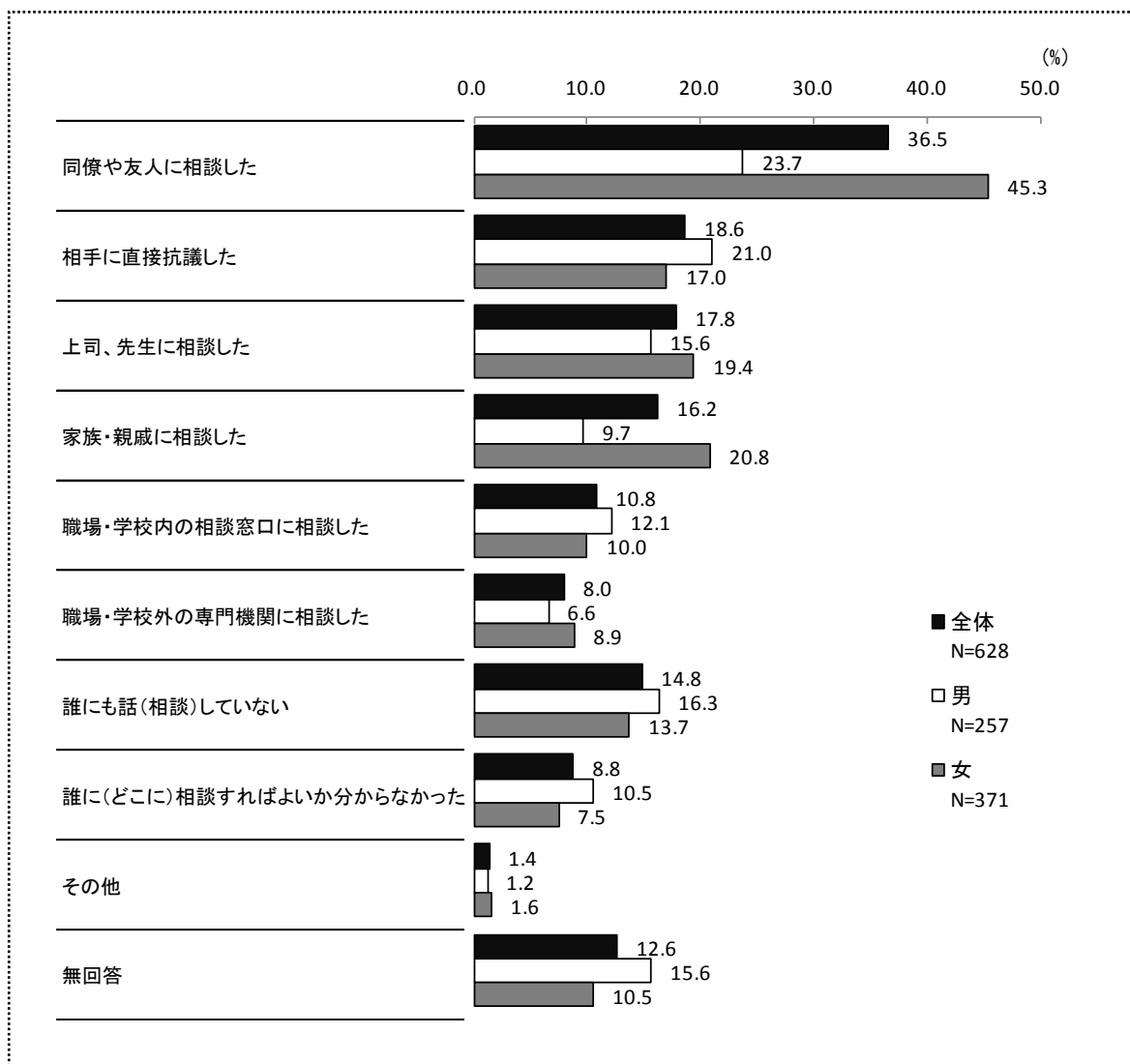
問 16 セクシュアル・ハラスメントをされたり、見たりした時、あなたはどうしましたか。  
 (経験の無い方は「どうするか」に置きかえて考えてください。)(いくつでも☑)

セクシュアル・ハラスメントをされたり、見たりした時どうするかをみると、「同僚や友人に相談した」が最も多く 36.5%、次いで「相手に直接抗議した」が 18.6%、「上司、先生に相談した」が 17.8%、「家族・親戚に相談した」が 16.2%となっている。「職場・学校内の相談窓口」や「職場・学校外の専門機関」に相談した割合は 8~10%みられる。また、「誰にも話(相談)していない」が 14.8%、「誰に(どこに)相談すればよいか分からなかった」が 8.8%となっている。

気軽に相談できる窓口を充実させ、情報発信していくことが必要と思われる。

男女別では、女性は「同僚や友人に相談した」が 45.3%と、男性を 21.6 ポイント上回っている。また、「家族・親戚に相談した」が 20.8%、「上司、先生に相談した」が 19.4%と、男性に比べてそれぞれ 11.1 ポイント、3.8 ポイント多い。男性は「相手に直接抗議した」が 21.0%と、女性を 4.0 ポイント上回っている。

図 5-2 セクシュアル・ハラスメントの相談先(複数回答)



## 6. DV（配偶者等からの暴力）について

### (1) DVの経験

問17 あなたは夫や妻、パートナー、恋人から次のような行為をされたことがありますか。

(☑はそれぞれ1つずつ)

- ①殴る、ける、物を投げるなどの身体的暴力
- ②大声で怒鳴る、脅す、交友関係や電話の監視などの精神的暴力
- ③生活費を渡さない、金銭的な自由を与えないなどの経済的暴力
- ④嫌がるのに性的な行為を強要したり、避妊に協力しないなどの性的暴力

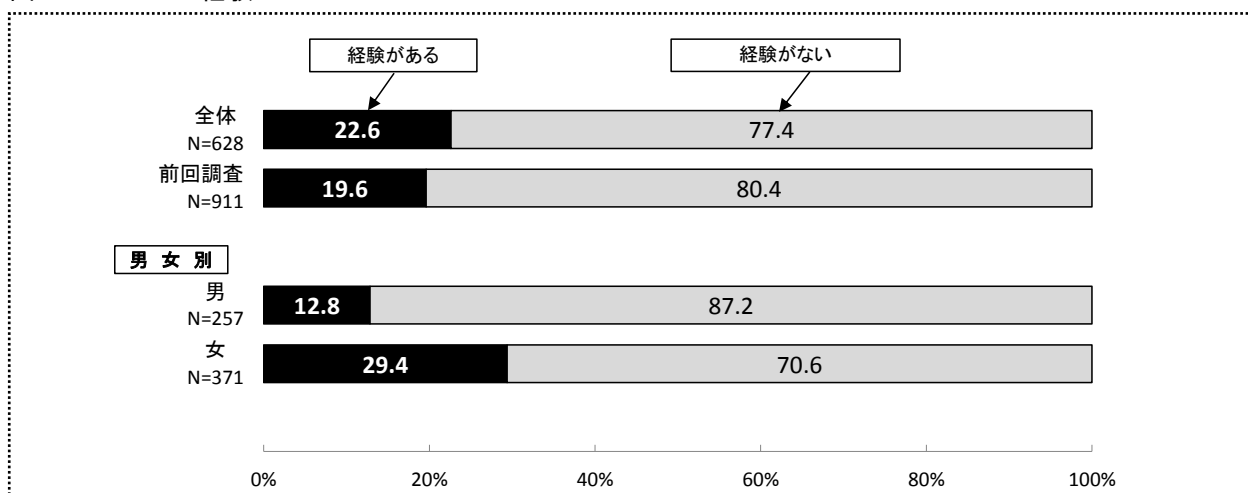
DVを受けた経験があると答えた人は全体で22.6%、男性は12.8%、女性は29.4%となっている。

前回調査と比べると、「経験がある」とした割合は3.0ポイント増加した。

富山県で平成26年度に実施した「男女間における暴力に関する調査」では、既婚者（パートナーがいる人も含む）を対象にした同様の設問があるが、傾向はほぼ変わらない。

4つの暴力行為のうち、精神的暴力の経験が一番多く17.7%（「頻繁にある」2.4%＋「数回ある」15.3%）。次いで身体的暴力は13.3%（「頻繁にある」1.0%＋「数回ある」12.3%）、性的暴力は8.1%（「頻繁にある」1.3%＋「数回ある」6.8%）、経済的暴力は5.4%（「頻繁にある」1.4%＋「数回ある」4.0%）となっている。

図 6-1 DVの経験



<参考> DVの経験（富山県：「男女間における暴力に関する調査」（H26））

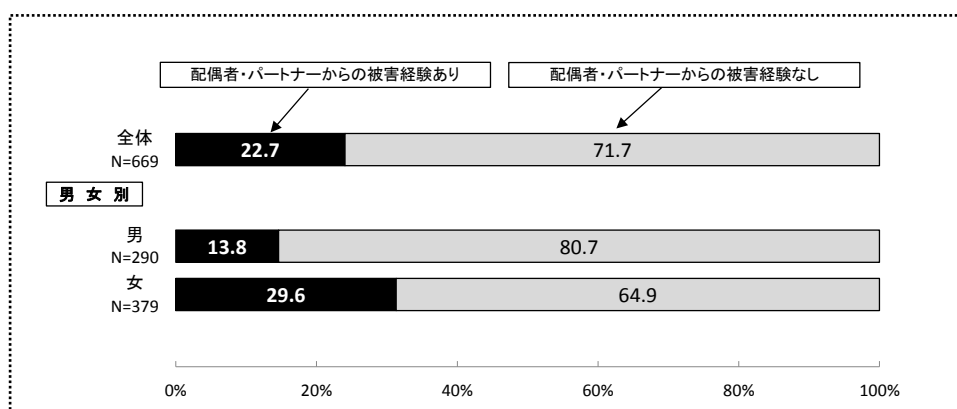
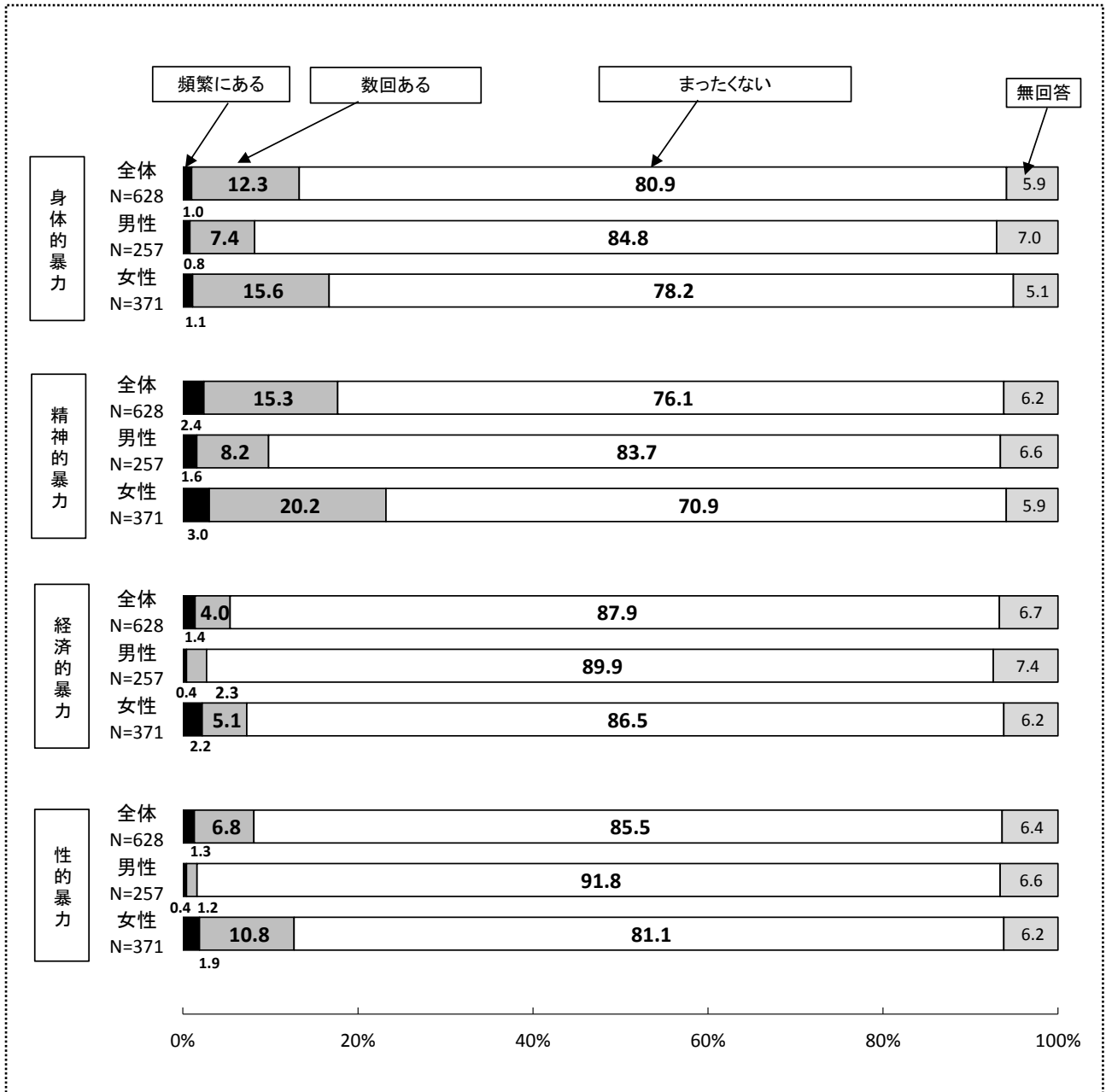


図 6-2 DVの経験

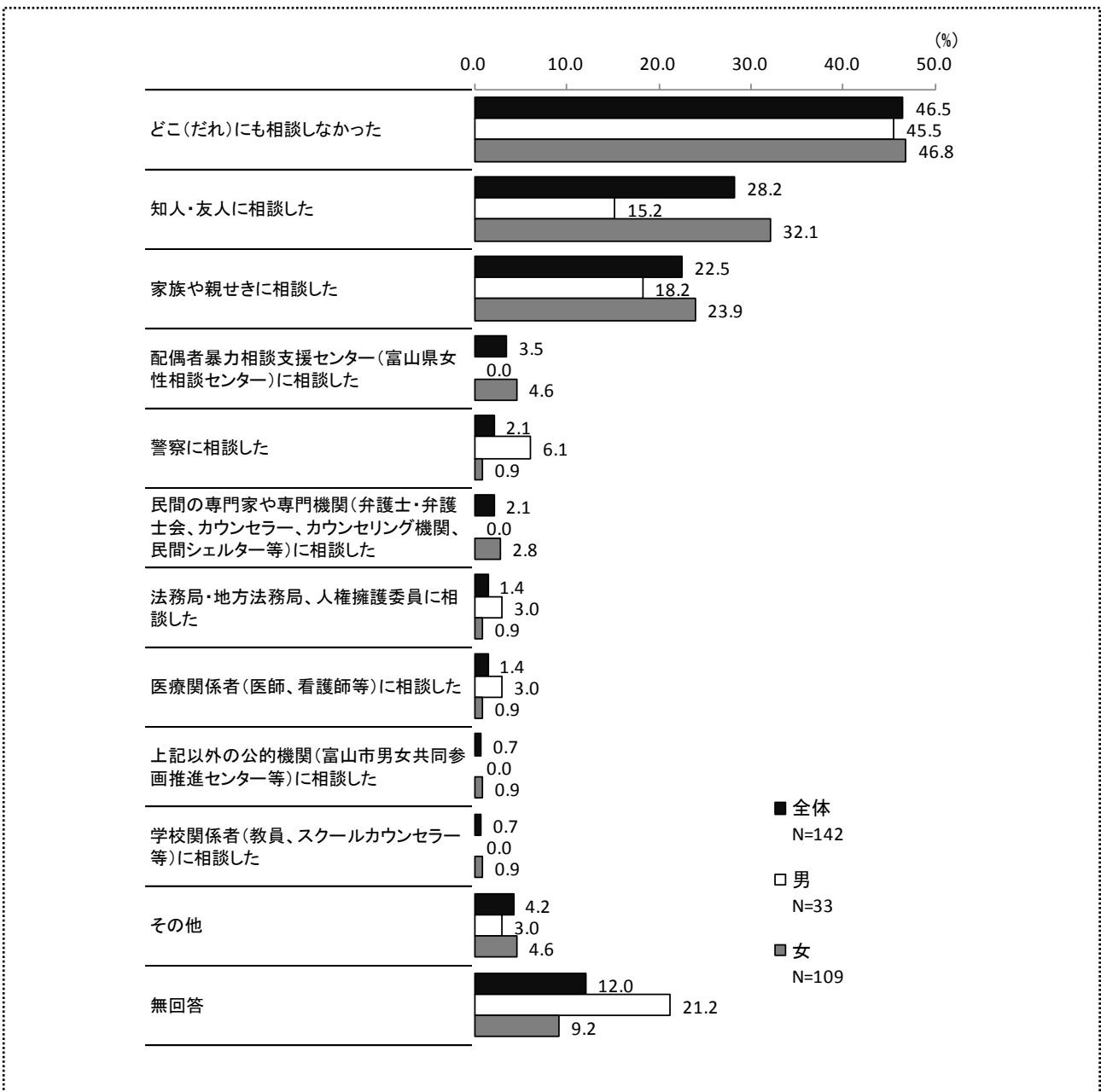


(2) DVの相談先

問 18 問 17 の①から④のうち、ひとつでも「1. 頻繁にある」か「2. 数回ある」に☑をつけた方にお聞きします。  
その後、どこか（だれか）に相談しましたか。（いくつでも☑）

前問において、1つでもDV経験があったとした人が、どこか（だれか）に相談したかをみると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が46.5%と半数近くを占める。相談した人の相談先は「友人・知人」が28.2%、「家族や親せき」が22.5%となっている。

図 6-3 DVの相談先（複数回答）



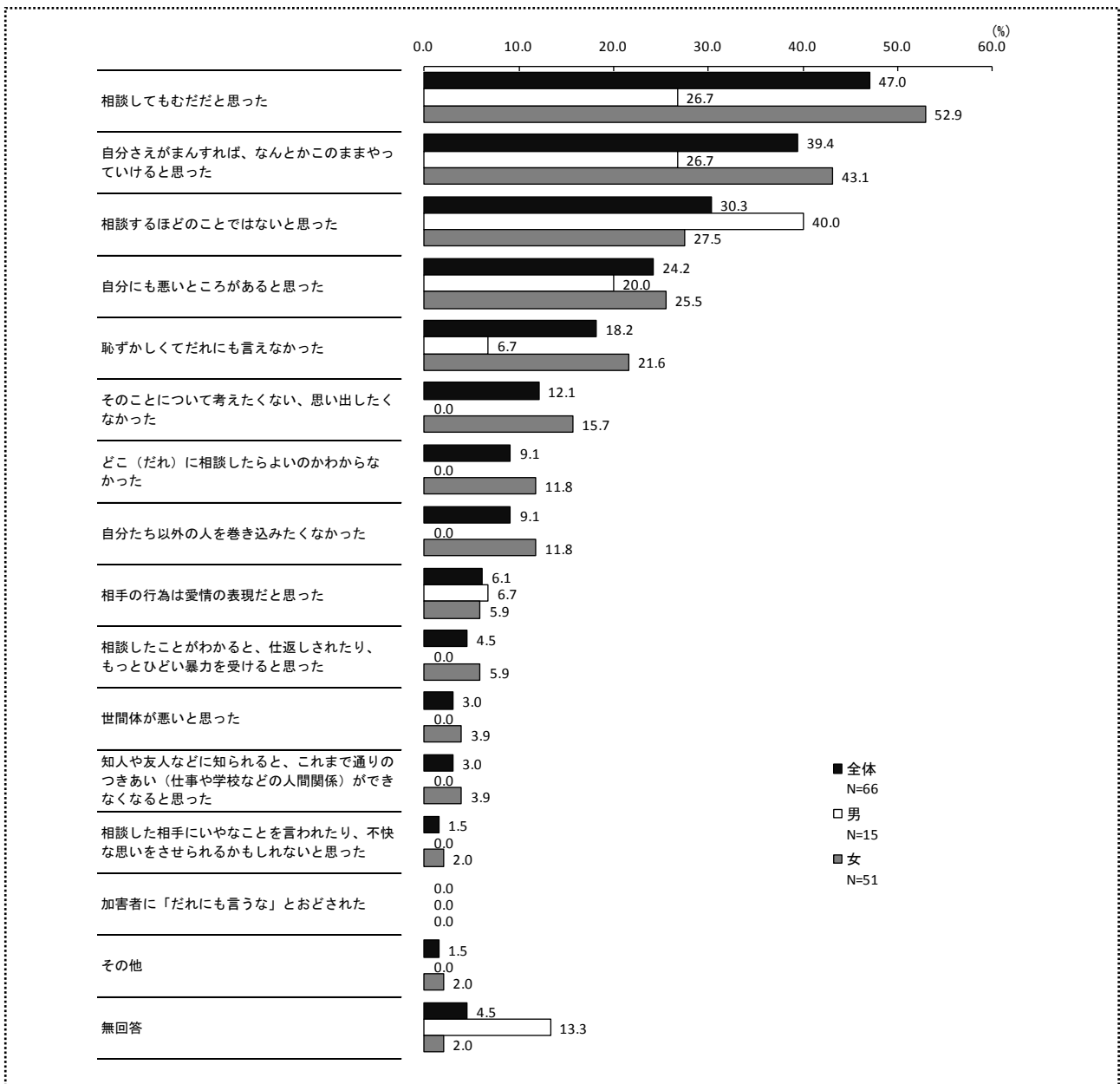
### (3) 相談できなかった（しなかった）理由

問 19 問 18 で「1. どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。  
 相談しなかった理由はどんなことですか。（いくつでも☑）

DVを受けていることを「どこ（だれ）にも相談しなかった」とした人の理由をみると、「相談してもむだだと思ったから」が47.0%、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていると  
 思ったから」39.4%、「相談するほどのことではないと思ったから」が30.3%となっている。

男女別では、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が40.0%と、女性に比べて12.5ポイント多い。女性は「相談してもむだだと思ったから」が52.9%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていると  
 思ったから」が43.1%となり、男性をそれぞれ26.2ポイント、12.8ポイント上回っている。また、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が21.6%と、男性に比べて14.9ポイント多くなっている。

図 6-4 相談できなかった（しなかった）理由（複数回答）

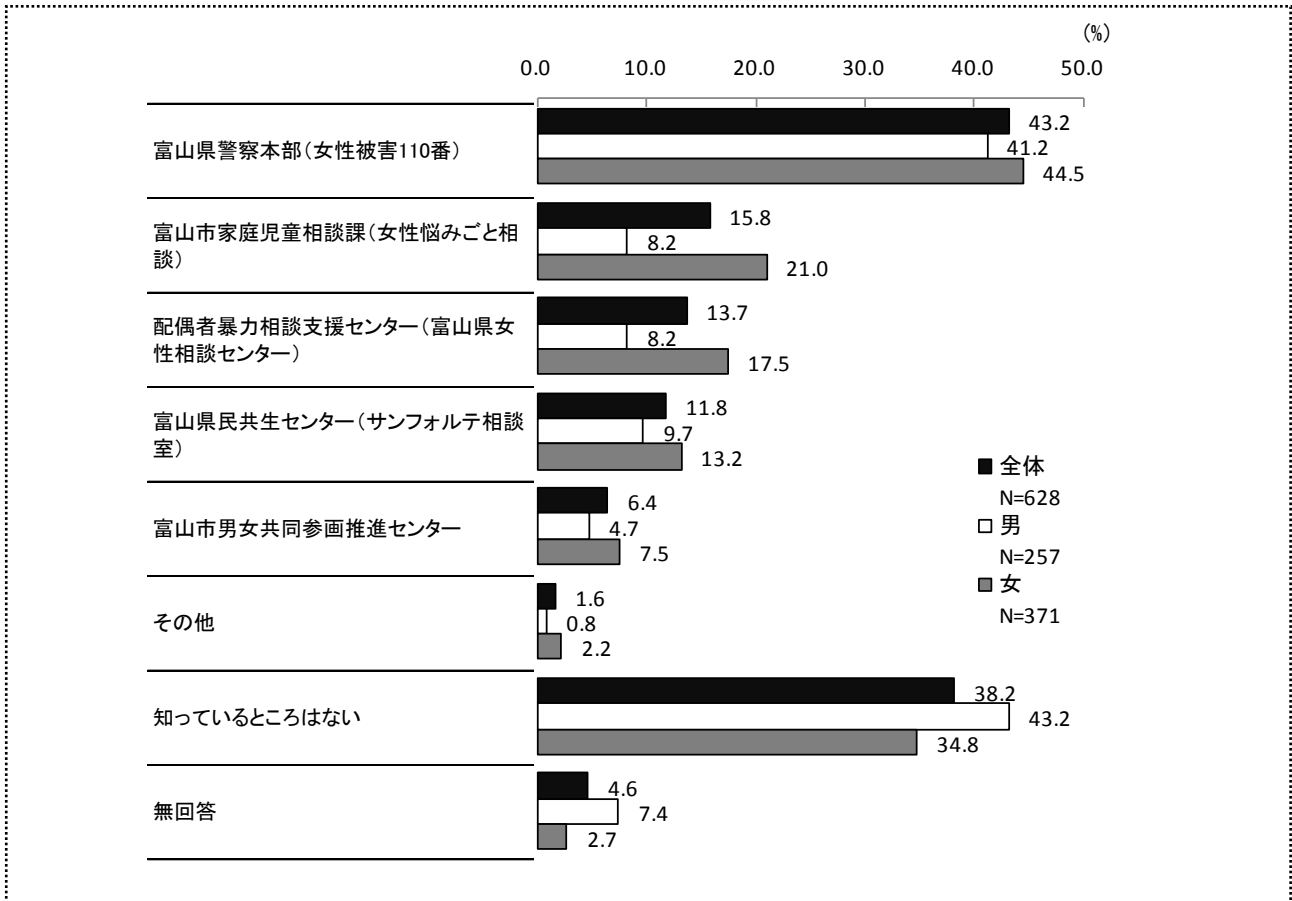


(4) 相談機関の周知状況

問 20 配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けたときに相談できる窓口としてどのよう  
なところを知っていますか。(いくつでも☑)

配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けたときに相談できる窓口として知っているところは、「富山県警察本部（女性被害110番）」が43.2%と最も多く、次いで「富山市家庭児童相談課（女性悩みごと相談）」が15.8%、「配偶者暴力相談支援センター（富山県女性相談センター）」が13.7%、「富山県民共生センター（サンフォルテ相談室）」が11.8%、「富山市男女共同参画推進センター」が6.4%となっている。「知っているところはない」が38.2%となっている。

図 6-5 相談機関の周知状況（複数回答）



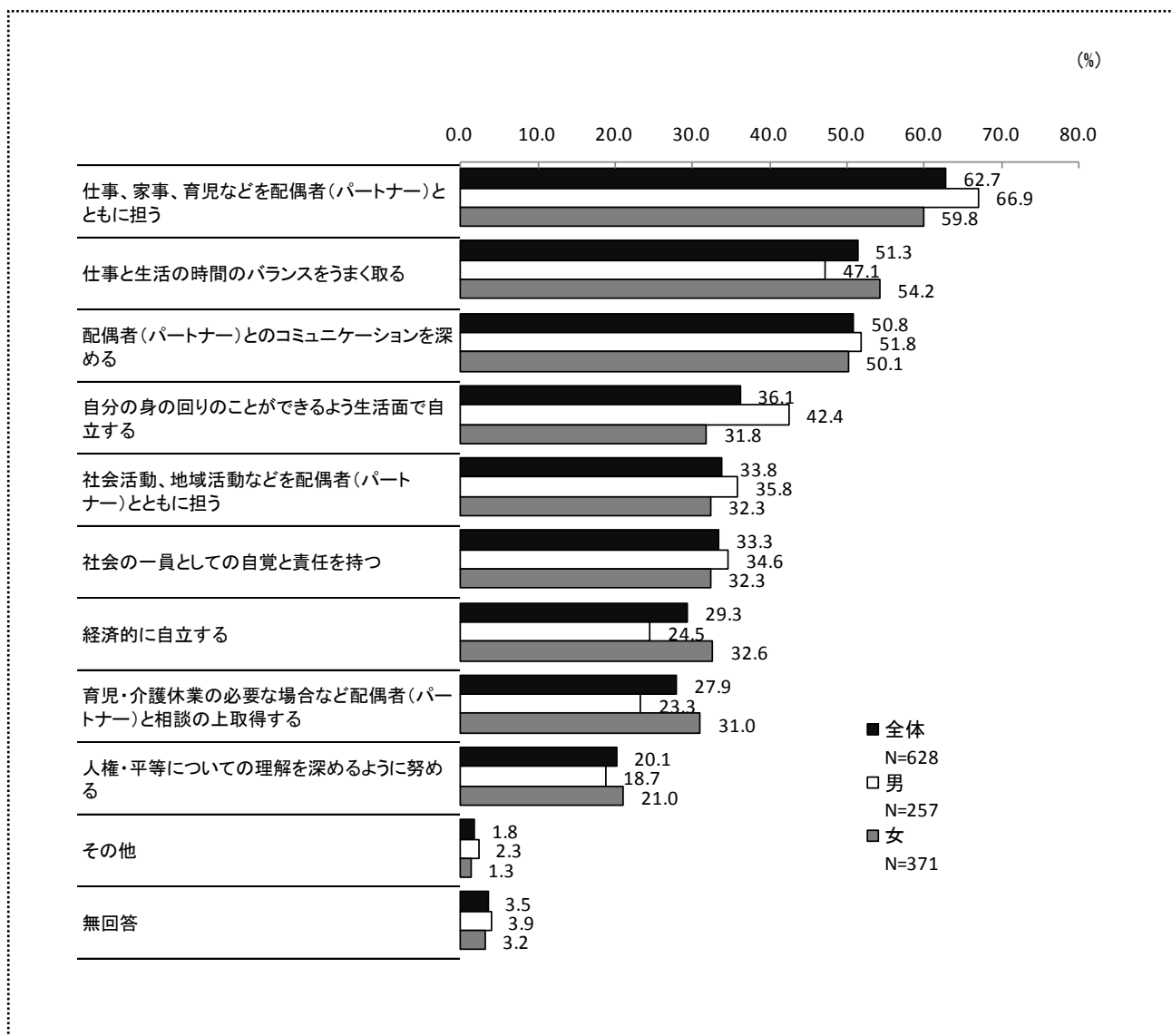
## 7. 男女共同参画社会実現に向けての取り組みについて

### (1) 男女共同参画を推進するために必要なこと

問 21 男女共同参画を推進するために、あなた自身ができること、又はしなければならないことはどのようなことと思いますか。(いくつでも☑)

男女共同参画を推進するために必要だと思うことは、「仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う」が62.7%、次いで「仕事と生活の時間のバランスをうまく取る」が51.3%、「配偶者（パートナー）とのコミュニケーションを深める」が50.8%となっている。

図 7-1 男女共同参画を推進するために必要なこと（複数回答）





性別年齢別で見ると、男性の「60歳代以上」は「配偶者（パートナー）とのコミュニケーションを深める」が最も多い。女性の「70歳代」では「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」が55.3%と、他の年齢層に比べて多くなっている。

表3 男女共同参画を推進するために必要なこと（複数回答）

(%)

|           |               | 仕事、家事、育児など<br>を配偶者（パート<br>ナー）とともに担う | 仕事と生活の時間の<br>バランスをうまく取<br>る | 配偶者（パートナー）<br>とのコミュニケーション<br>を深める | 自分の身の回りのこと<br>ができるよう生活<br>面で自立する | 社会活動、地域活動<br>などを配偶者（パ<br>ートナー）とともに担<br>う | 社会の一員としての自<br>覚と責任を持つ | 経済的に自立する | 育児・介護休業の必要<br>な場合など配偶者<br>（パートナー）と相談<br>の上取得する | 人権・平等についての<br>理解を深めるよう<br>に努める | その他  | 無回答  |
|-----------|---------------|-------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|--|-----------------------|----------|--|--------------------------------|------|------|
| 性別<br>年齢別 | 男：20～29歳 N=43 | 83.7                                | 51.2                        | 48.8                              | 53.5                             | 27.9                                     | 34.9                  | 39.5     | 39.5   | 20.9                           | 2.3  | 4.7  |
|           | 30～39歳 N=55   | 81.8                                | 54.5                        | 61.8                              | 32.7                             | 32.7                                     | 30.9                  | 27.3     | 29.1   | 18.2                           | 1.8  | 3.6  |
|           | 40～49歳 N=30   | 50.0                                | 56.7                        | 20.0                              | 23.3                             | 33.3                                     | 33.3                  | 20.0     | 3.3  | 20.0                           | -    | -    |
|           | 50～59歳 N=27   | 81.5                                | 48.1                        | 51.9                              | 37.0                             | 51.9                                     | 18.5                  | 22.2     | 22.2   | 14.8                           | 11.1 | 3.7  |
|           | 60～69歳 N=53   | 64.2                                | 56.6                        | 67.9                              | 62.3                             | 39.6                                     | 49.1                  | 30.2     | 24.5   | 18.9                           | 1.9  | -    |
|           | 70～79歳 N=49   | 40.8                                | 18.4                        | 44.9                              | 36.7                             | 34.7                                     | 32.7                  | 6.1      | 14.3   | 18.4                           | -    | 10.2 |
|           | 女：20～29歳 N=73 | 74.0                                | 71.2                        | 57.5                              | 47.9                             | 30.1                                     | 34.2                  | 46.6     | 42.5   | 35.6                           | 1.4  | 1.4  |
|           | 30～39歳 N=109  | 69.7                                | 58.7                        | 51.4                              | 19.3                             | 37.6                                     | 29.4                  | 32.1     | 36.7   | 18.3                           | -    | 1.8  |
|           | 40～49歳 N=47   | 48.9                                | 57.4                        | 38.3                              | 21.3                             | 36.2                                     | 31.9                  | 38.3     | 21.3   | 19.1                           | 2.1  | 2.1  |
|           | 50～59歳 N=44   | 56.8                                | 52.3                        | 47.7                              | 31.8                             | 27.3                                     | 25.0                  | 36.4     | 22.7   | 15.9                           | 2.3  | 2.3  |
|           | 60～69歳 N=51   | 49.0                                | 43.1                        | 47.1                              | 23.5                             | 31.4                                     | 31.4                  | 15.7     | 33.3   | 13.7                           | 2.0  | 9.8  |
|           | 70～79歳 N=47   | 40.4                                | 27.7                        | 53.2                              | 55.3                             | 25.5                                     | 44.7                  | 21.3     | 14.9   | 19.1                           | 2.1  | 4.3  |

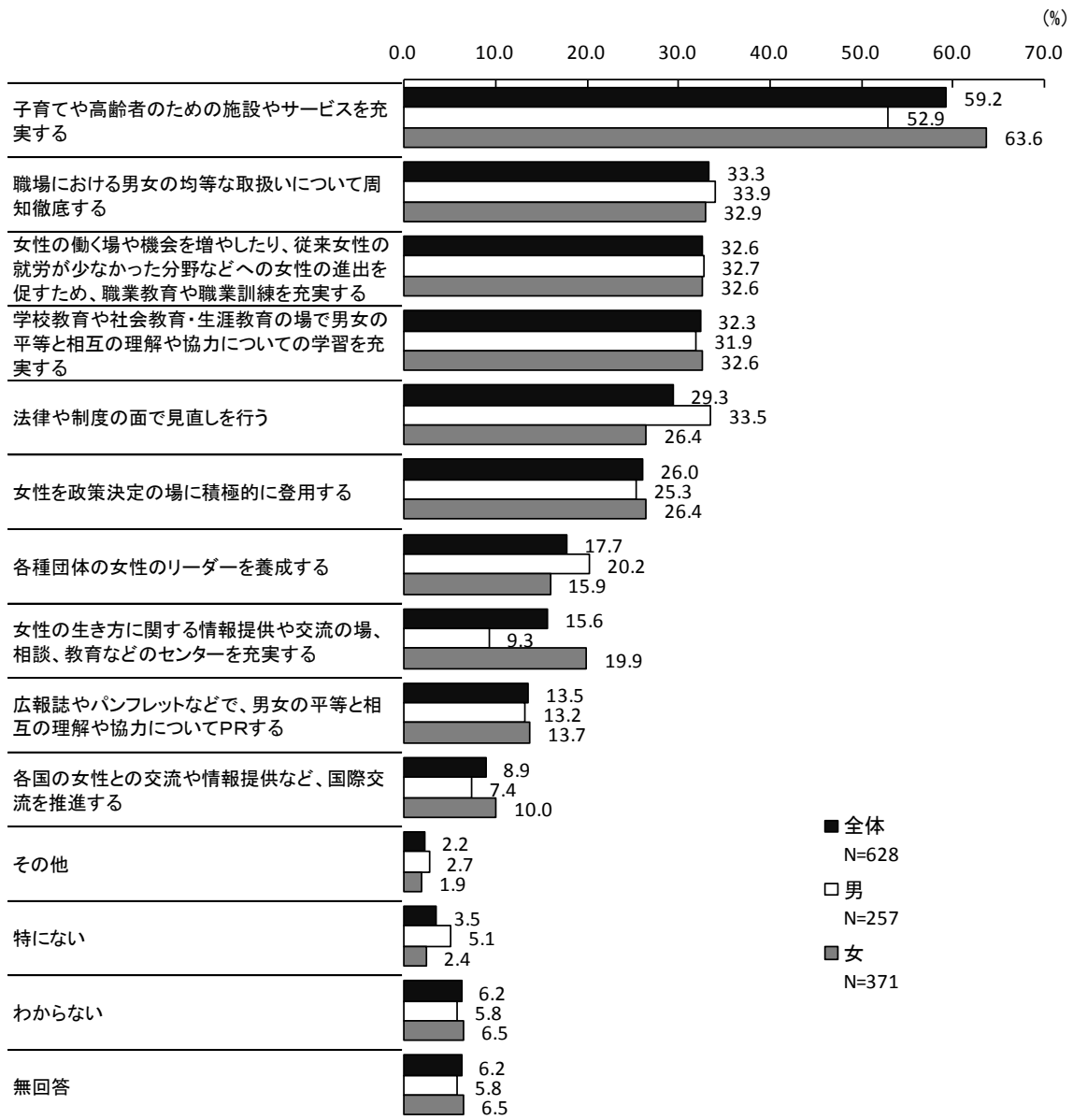
=最も多い数値

(2) 男女共同参画社会形成のために行政に望むこと

問 22 「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(いくつでも☑)

「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、行政に望むことは、「子育てや高齢者のための施設やサービスを充実する」が 59.2%と最も多い。次いで「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する」が 33.3%、「女性の働く場や機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促すため、職業教育や職業訓練を充実する」が 32.6%、「学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が 32.3%となっている。

図 7-2 男女共同参画社会形成のために行政に望むこと（複数回答）



性別年齢別では、男性の「40歳代」は「法律や制度の面で見直しを行う」が多い。

表4 男女共同参画社会形成のために行政に望むこと（複数回答） (%)

|       |               | 子育てや高齢者のための施設やサービスを充実する | 職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する | 女性の働く場や機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促すため、職業教育や職業訓練を充実する | 女性の働き方や生活環境の改善、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促すため、職業教育や職業訓練を充実する | 学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する | 法律や制度の面で見直しを行う | 女性を政策決定の場に積極的に登用する | 各種団体の女性のリーダーを養成する | 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実する | 解や協力についてPRする | 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする | 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する | わからない | 特になし | その他 | 無回答 |
|-------|---------------|-------------------------|---------------------------|--|---|---|----------------|--------------------|-------------------|---------------------------------------|--------------|--------------------------------------|----------------------------|-------|------|-----|-----|
| 性別年齢別 | 男:20~29歳 N=43 | 37.2                    | 37.2                      | 27.9   | 23.3  | 32.6  | 9.3            | 11.6               | 4.7               | 7.0                                   | 9.3          | 14.0                                 | 2.3                        | 2.3   | 2.3  |     |     |
|       | 30~39歳 N=55   | 58.2                    | 27.3                      | 21.8   | 23.6  | 41.8  | 20.0           | 14.5               | 10.9              | 9.1                                   | 3.6          | 3.6                                  | 7.3                        | -     | 7.3  |     |     |
|       | 40~49歳 N=30   | 40.0                    | 30.0                      | 36.7   | 33.3  | 43.3  | 33.3           | 13.3               | 6.7               | 10.0                                  | 10.0         | 3.3                                  | -                          | 6.7   | -    |     |     |
|       | 50~59歳 N=27   | 55.6                    | 37.0                      | 33.3   | 37.0  | 33.3  | 22.2           | 33.3               | 14.8              | 18.5                                  | 14.8         | 11.1                                 | -                          | 11.1  | 7.4  |     |     |
|       | 60~69歳 N=53   | 60.4                    | 41.5                      | 41.5   | 41.5  | 32.1  | 41.5           | 30.2               | 11.3              | 15.1                                  | 5.7          | -                                    | 7.5                        | 1.9   | 5.7  |     |     |
|       | 70~79歳 N=49   | 59.2                    | 30.6                      | 36.7   | 34.7  | 20.4  | 24.5           | 20.4               | 8.2               | 20.4                                  | 6.1          | 6.1                                  | 8.2                        | -     | 10.2 |     |     |
|       | 女:20~29歳 N=73 | 57.5                    | 37.0                      | 27.4   | 23.3  | 39.7  | 24.7           | 16.4               | 20.5              | 9.6                                   | 9.6          | 12.3                                 | -                          | 1.4   | 2.7  |     |     |
|       | 30~39歳 N=109  | 74.3                    | 27.5                      | 35.8   | 28.4  | 20.2  | 29.4           | 15.6               | 17.4              | 15.6                                  | 10.1         | 4.6                                  | 0.9                        | 4.6   | 2.8  |     |     |
|       | 40~49歳 N=47   | 66.0                    | 31.9                      | 34.0   | 38.3  | 29.8  | 27.7           | 14.9               | 21.3              | 6.4                                   | 10.6         | 6.4                                  | 2.1                        | 2.1   | 4.3  |     |     |
|       | 50~59歳 N=44   | 59.1                    | 47.7                      | 36.4   | 38.6  | 34.1  | 18.2           | 15.9               | 20.5              | 20.5                                  | 11.4         | 6.8                                  | 2.3                        | -     | 4.5  |     |     |
|       | 60~69歳 N=51   | 54.9                    | 27.5                      | 31.4   | 39.2  | 23.5  | 29.4           | 21.6               | 19.6              | 21.6                                  | 5.9          | 2.0                                  | 3.9                        | -     | 19.6 |     |     |
|       | 70~79歳 N=47   | 59.6                    | 31.9                      | 29.8   | 38.3  | 12.8  | 25.5           | 10.6               | 23.4              | 8.5                                   | 12.8         | 6.4                                  | 8.5                        | -     | 10.6 |     |     |

= 最も多い数値

## 8. アンケート回答者のご意見（自由記載）

問 23. 「男女共同参画社会」をさらに推進していくためのご意見をお聞かせください。

### 1. 男女平等に関する意識について

|      |    |  |
|------|----|--|
| 20歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分はほとんど「男女共同参画」について知らなかったのですが、今後たくさん知っていきたいと思う。</li> <li>・男女平等にするためには、個人の意識を変えなくてはいけないと思う。</li> </ul>  |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・そもそも男女の違いをしっかりと理解する必要があると思う。それを踏まえて補い合えるようになれば良い。</li> <li>・男性も女性も、一人ひとりが理解し協力しあっていく世の中になるよう働きかけることが必要であるように思う。</li> <li>・私たちの世代は、男女平等という教育の上で成長してきたが、中年層の方々はいまだに「男は仕事、女は家庭」という考え方や「給料を会社からいただいているのだからサービス残業は当たり前」という考え方が多いように感じる。もっと、女性のための相談窓口の情報を広めてほしい。</li> </ul>   |
| 30歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性は「男らしく」、女性は「女らしく」の伝統的な価値観も大切にしてほしい。</li> </ul>   |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育の場では男女は平等であると教えられてきたが、社会に出てから男女差を感じるようになった。その格差を埋めることよりも、男らしさ、女らしさを発揮できるような社会が望ましいと思う。</li> <li>・学校教育の場で責任や男女平等を考えることは必要であると思う。また「女性だから出来ない」など、一般常識では通じないわがまま（甘え）を容赦しないという厳しさも持つことが必要と考える。</li> <li>・年代によって意識の差が大きい。各年代にあった教育や施策を打ち立てて実行していかなければならないと思う。</li> <li>・富山は昔ながらの考えが定着しており、女性が働いていたとしても、家事をするのは女性という考え方が根強いように思う。女性は大変だと思う。</li> </ul> |
| 40歳代 | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・富山は働く女性がたくさんいるにも関わらず、「男性は家事をしない、協力しない」という古い考えが強く残っているように思う。女性に「輝け」「働いて稼げ」「家事をしろ」と言われても1日24時間しかないし、体力も続かない。男性が変わらない限り、女性の負担がますます多くなるのではないかと感じる。</li> </ul>  |
| 50歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・北陸は男尊女卑の考えが比較的まだ残っていると思われるので、行政などによる啓発が必要であると思う。男女だけではなく、性質の違いは現実としてある。要は個人の適性だと思う。</li> <li>・必ず平等であると力を入れすぎずに、それぞれの適性に合わせてバランス良く協力し合うべきだと考える。その人なり、家庭なりに事情や考え方も違うため画一的な制度ばかり整備するよりも、お互いのコミュニケーションを図ることが大切である。</li> </ul>  |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・60～70代の男性は「男女共同参画社会」という言葉を頭の中で理解しているふりをして、心の中ではそう思っていない方が多いと思う。</li> <li>・男女が平等でないのが当たり前で育ってきた世代の方々の意識を変えることはなかなか難しいと思う。今後、育ってくれる子どもたち、若い世代に浸透すればそれが当たり前の世の中になると思う。</li> <li>・人として思いやりの心を育て、男女の違いを理解し、お互い尊重し、その先に男女共同の社会が広がると思う。</li> <li>・昔からの男性の役割、女性の役割を守っていく方が、将来、子どもたちも人間として正しく生きていくと思う。</li> </ul>   |

|      |    |  |
|------|----|--|
| 50歳代 | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い夫婦が協力して子育てしていても、その親世代（特に男性の親）が口を出してくることがあり、世代間の考え方を埋めるのは難しいと思う。それは職場の男女間でも同じである。男女平等ではなく、共同を目指して、少しずつでもあきらめずにおかしいことはおかしい、と広めていくことが大事だと思う。</li> </ul>   |
| 60歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性は、あくまで男性の陰の力で推進していくものだと考えている。</li> <li>・男女共同参画を促す講習会の機会を設けるべきだと思う。</li> <li>・人間は、平等であることが最重要である。</li> </ul>  |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、50歳以上の夫婦の意識には、男優先の考え方が多いと思う。学校や地域、また家庭内でお互い助け合う事や大変さを学習して欲しい。</li> <li>・自分自身が働いている最近まで、法律も随分変化してきている。働きやすい環境になってきていると思う。根底には、法で守られていることが大事で、あとは人の考え方で、男だから女だからではなく、人としてどうあるべきか等を考えていくと良いのではないかと思う。</li> <li>・男性の意識改革が必要だと思う。</li> <li>・人として平等なら、男性と女性が仕事、家庭、社会で同じでなくてもいいと思う。</li> </ul> |
| 70歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育の9年間で「男女共同参画社会」をテーマとした学習を強化、充実して実行されることを希望する。</li> <li>・男女共に人格を磨いていくことと、そういう機会を行政が多く作る必要がある。</li> <li>・日本は戦後70年が過ぎても封建的の制度が続いている。これを無くさない限り一歩も進まないと思う。</li> </ul>  |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・親、子ども世帯が同居し、お互い少し我慢をしながらでも、一緒に住む事の安心感を共有し、老若男女、それぞれの立場で学校、職場、社会の繋がり役割を果たしていければいいと思う。</li> <li>・体力的、能力的に違いのある男性と女性、もっとお互いを認め合い、個の人間として尊敬し合う場を持ちあう事が必要だと思う。</li> <li>・まだまだ、男性社会が根強く残っている。若者男女の相互が理解や協力等、学習と実践の充実が必要である。</li> </ul>   |

## 2. 家庭生活、育児、介護について

|      |    |   |
|------|----|---|
| 20歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・法律で、子どもを産みやすい環境を整備した上で、育休を義務化する。そして男性も育休をとって子育てする。</li> </ul>   |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の育児に対する意見を取り込んでいく。男性も育児に積極的に参加できるようにしていく。</li> <li>・法律や制度の面で、男性が育児休業を取得しやすい環境を整えて、育児を行いやすくしてほしいと思う。将来結婚し、子育てをするとなったら、パートナーと協力して共に育児を行いたいと思う。</li> </ul> |
| 30歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特にシングルマザーなど大変な思いをされている方への負担が軽減される社会になってほしいと思う。</li> </ul>   |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・20～30代の働き盛りの女性の世代が、育児のため社会から離れて生活を送っている。仕方ないことと考えるしかないのか疑問である。</li> <li>・男女が、仕事や育児に関することで全て平等になることはないと思うが、それぞれ意見が平等に取り入れられれば良い。</li> </ul>                |
| 40歳代 | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性が、男性と社会的に同等であるためには、家庭においてまず、同等でなければならない。</li> </ul>   |

|      |    |   |
|------|----|---|
| 50歳代 | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児休業や介護休暇など企業は取り入れているが、男性の場合はまだまだ利用が低いと思う。どうしても女性の負担が大きく、仕事を持っていても辞めざるを得ない場合が多い。もっと社会・地域での受け入れ制度を見直してほしい。</li> <li>・女性のキャリアの方の「こうだったらよかった」という意見や、子ども達の見解も参考になると思う。</li> <li>・昔に比べたら、家事を手伝う男性が増えたと思うが、男性が家庭的になった分、女性がだめになったと思う。</li> </ul> |
| 60歳代 | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所（病児保育も含む）の数及び質の両面での充実が必要である。母親が安心して就業できる環境が大切である。小学校の子どもを持つ親にとっては、放課後の学童保育、夏休みの学童保育が必要である。これについても数と質の充実が大切と考える。いずれにしても女性も男性と同様、社会で活躍できるような環境を作ることが必要である。</li> </ul>  |

### 3. 仕事について

|      |    |   |
|------|----|---|
| 20歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性は都合のいい時だけ女性をアピールする。男性と同じ覚悟で仕事をするべきだ。副収入的な考えで仕事をしないほしい。</li> <li>・適性をしっかり見た上で、男女区別することなく、登用していくようにする。その結果、男女の割合が均等でなくてもかまわない。</li> <li>・労働環境内で相談しやすいカウンセラーを登用する。</li> </ul>  |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・核家族で子どもを預けられない。育児に協力してくれる人が近くにいない。会社のサービス残業が多すぎる。一日が母親と子どもだけの日々である。こういった状況を把握しないまま、どこも動こうとしない会社や国に疑問を感じる。</li> <li>・女性の就労の少ない分野で女性の登用等を進めることが推進になるとは限らない。男女には力の差がある。例えば筋肉量では男性が優れ、持久力・集中力では女性が優る。この「差」を「特徴」に変換し、どのように生かすかが大事だと思う。</li> <li>・男女共に給与が少ない。もっと安定した金額をもらえれば、共働きしなくても、どちらかが働けなくなっても安心できる。子育て、介護などで離職することになっても、男性が家に入り、女性が働き続ける事もできるようになる。そうすれば女性も働ける、という意味で男女平等になるのではないかと思う。</li> <li>・男性と女性では脳のつくり、体のつくりが違うので無理やり働く場所で等しく扱う必要はない。ただ、男性と同じように働きたいと思う女性もいるので、行政はあくまでもそのサポートをするという立場にとどまるべきだと思う。</li> </ul> |
| 30歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の考え方を变えて、行政による会社への指導を実施し、自由に社会生活に携われるよう変えてほしい。また、女性を特別視するのではなく、あくまでも同等に公平に評価した上でリーダーなどへの昇進をするべきと考える。</li> <li>・女性が社会進出していくことはすごく良いことだと思う。しかし、子どもを産める環境が悪くなっていくのではないか。企業努力は必要不可欠だと思う。</li> </ul>   |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・起業したての、肩書きのない女性に社会（銀行、不動産業）は厳しく感じる。</li> <li>・サービス業、販売業のパート・アルバイトは男女平等、もしくは女性優位だが、管理職になると女性役職は甘やかされ、現場や家庭にとっては迷惑である。女性の雇用は大切だが、組織で働けない女性を男性がフォローし、男性は家に帰れず残業、という悪循環にも目を向けてほしい。</li> <li>・時短就業を子育て中に取得している人数の割合と、推奨の数値を提示し、達成している企業の法人税を優遇すべきである。</li> <li>・子どもを保育園に預けて仕事、パートをしたいと思っても、保育料より高額な収入を得られない。夫の収入が高ければ、妻は働く必要がないのでは、ということのように思えて疎外感をしばしば感じる。</li> </ul>   |

|      |    |   |
|------|----|---|
| 30歳代 | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女が育児休暇を取得しやすいよう、どの職場も余裕をもった人材確保をすべきである。どこも人手がぎりぎりでも休めたい状況である。</li> <li>・無理やり「女性枠」を設ける必要はない。</li> <li>・やる気のある女性をリーダー職へ登用するのはいいが、とにかく女性であればいいというような、特に出世欲のない女性をリーダーへ登用しようというパフォーマンス的人事は良くないと思う。また、富山の企業は男尊女卑がまだ根強く、閉鎖的であると感じる。</li> </ul>  |
| 40歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進すればするほど少子化が進み、社会から活気が失われる。男女には性差が必ずあり、長い年月をかけて最適化してきた。女は男ほどハードに働けないし、男は子どもを産むことはできない。それを同じ土俵に上げようとしているから、負のゆがみが生じており、明らかに男のほうが下になっている。本当に男女平等にするなら男から得している部分をとるだけではなく、女からも女だから得している部分を取らないと、今のままでは「女として得している部分はそのまま、男が得している部分は女にもよこせ」でただのわがまま。この推進では取り返しがつかなくなる。</li> <li>・派遣など立場が弱い女性の支援が必要である。</li> </ul> |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・①政策決定の場や企業内での幹部役員に子育て世代や子育てした女性を少数ではなく、相当数登用しないと男性の働き方は変わらない。②学校教育の場で生命に対する学習をすべきである。（妊婦体験や乳幼児と接する教育など）</li> <li>・女性も社会の一員として、責任をもって仕事に就くという意識を女性自身が持つ世の中になればいいと思う（教育など）。</li> <li>・男性にしかできないこと、女性にしかできないことなど、それぞれの役割があると思う。平等になったがゆえに女性が逆に社会で大変な思いや、女性ということだけで、名前だけの役職とかに利用されることがないようにしてほしい。</li> </ul>      |
| 50歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・残業を含む労働時間が多すぎて、男女共同参画に協力することもできない。</li> </ul>   |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在まだ男社会のようで、女は共働きしていても家事の負担が多く、ストレス発散する機会をもっと取り入れるよう、職場などでも考慮して欲しい。</li> </ul>  |
| 60歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の適性に見合う職に就かせる。</li> </ul>   |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の地位向上ではなく、少子化対策をもっと真剣に考えるべきだと思う。ある職場では、結婚して育児休暇を取得して働いている人が一人もいないと聞いている。子どもは欲しいし、仕事を辞めたくないとも聞く。私の会社は中小企業だが、女性は大体定時に帰り、育児休暇を1年取得し、仕事に復帰している。女性が働きながら子育てできる環境が一番大切だと思う。</li> </ul>  |
| 70歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業への取り組みの強化（進んでない企業への実名公表など）が必要である。</li> </ul>  |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事を荒立てず、ある程度流れにのる安直さが女性にあるため、女性活躍を進展させない一因がある。女性が働くことについて、当人の覚悟（プロ意識）も必要である。</li> <li>・職場において男性優位、女性優位は気にせず、その分野分野で能力のある人が上に立てば良く、どんな時でもお互い、男性女性それぞれの持っている良き能力を育て、育てられることが必要と思われる。</li> <li>・女性には、子育てという最高の仕事があり、男性はその神聖な仕事を手助けする。素晴らしい才能のある女性なら社会で活躍して欲しいが、一般の女性は子育ての目途が終わったら、もう一度社会復帰してほしい。</li> </ul>       |

#### 4. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

|      |    |  |
|------|----|--|
| 20歳代 | 男性 | <p>・国の成長戦略として女性の社会進出は良いと思う。男女共に同時間働くようになり、年収も増えたが、男女とも家にいる時間、子どもという時間が減った。以前は「男性が仕事、女性は家庭」であったが、今後は男女共に家事、育児、介護に参加しなければならない。単純に考えれば、これまで男性がやっていた仕事を女性が行えば半分の時間で終わるのだから、就業時間を短縮するのが当たり前のことではないかと思う。そうすれば男女共に生活時間が増えるので助け合えるし、また子どもの教育も時間確保できればレベルアップするのではないかと考える。労働時間が減れば収入も減るが、自由に使える時間は増える。生活が厳しい場合は多くの時間仕事したり、共働きしたりして収入を増やせばいい。私は少子化の原因は経済力もあるが、1番は自由な時間がないためだと思っている。今のまま社会に進出するだけでは自由な時間が減り少子化を加速させるだろう。</p> |
| 30歳代 | 男性 | <p>・男女の差をなくし、仕事と家事を両立する人たちが仕事もしやすい環境を作ってほしい。職場も男女も働きやすくしてほしい。</p>  |
| 70歳代 | 女性 | <p>・職種によってではあるが、就労時間が長いと思う。8時間労働を2時間ほど減らし、余暇をもう少し長く取れば良いと思う。時間に余裕がもう少し出来れば地域活動や、他の活動に協力しやすくなると思う。</p>  |

#### 5. セクシュアル・ハラスメントについて

|      |    |  |
|------|----|--|
| 50歳代 | 女性 | <p>・過度なセクシュアル・ハラスメントで悩んでいる話を聞いたことがある。「女性だから」という理由で昇格させてもらえなかったり、毎日のように「結婚するな」「子どもを産むな」と言われ、会社の相談窓口伝えても対応してもらえず、退職したとのことである。そういった悩みを抱えている女性を一人でも少なくするために、公共の相談機関の周知、企業へのセクシュアル・ハラスメントに対する意識を十分にさせるべきだと思う。</p> |
| 60歳代 | 男性 | <p>・最近では、男女の付き合い方に男性がどうすればいいのかわからなくなっている。すぐセクハラやパワハラ、モラハラだと言われ付き合いにくい。すぐに離婚、財産分与など法的手段を取るといわれ、範囲がわからない。</p>  |

#### 6. DV（配偶者等からの暴力）について

|      |    |   |
|------|----|---|
| 40歳代 | 女性 | <p>・セクハラ、パワハラ、DVなど実際に被害に会っていても、声を上げられない弱者の声（本音）を拾い上げるためのシステムあるいはネットワークが必要である。</p> |
|------|----|---|

#### 7. 男女共同参画社会実現に向けての取り組みについて

|      |    |   |
|------|----|---|
| 20歳代 | 男性 | <p>・男女平等を一人一人が自覚していかなければならないと思う。また相談できる場をPRして周知していくことが大切ではないかと感じている。</p>  |
|      | 女性 | <p>・私も大学を卒業したら1人の社会人として働きたいと思っている。女性だから、男性だからという見方ではなく、男女平等に仕事や家庭生活にかかわっていききたいと思う。そのため、もっと「男女共同参画社会」という言葉を、パンフレットやテレビを使って広げていけば良いと思う。</p>   |
| 30歳代 | 男性 | <p>・国民が「男女共同参画型社会」を求めているかわからない（見えてこない）。行政が取り組みたいだけに感じることもある。本当に必要な取り組みであることをきちんと議論していただきたい。</p> <p>・女性の生き方が多様化し、子育て重視、仕事と家庭の両立、仕事重視と色々の方がいるため、多様な要望に応えていく必要がある。社会へのかかわり方も多様であるため、多くの意見を聴く機会を増やすことが必要だと思う。</p> |



|      |    |   |
|------|----|---|
| 30歳代 | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男だから女だからということではなく、いろいろな分野で制度の見直しを行っていく必要があると思う。</li> <li>・女性にしかできないこと（出産）を理解した上で、それによってどのように時間の使い方が変化するのか、独身→結婚→出産というような過程で、自分の使える時間が減り、子育てにその分時間が移行されることが、分かるようなプログラム学習が必要かと思う。</li> <li>・男性目線と女性目線では色々な面で見せ方や考え方が違ってくると思うので、両方の意見を取り入れ、男女共に納得出来るような社会を目指し、話し合いの場を設ける機会を増やしてみてもどうかと思う。</li> </ul>  |
| 40歳代 | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女ということではなく、人として、人間として、子どもたちへの手本となる、尊敬される大人の育成が大事だと思う。その中に「男女共同参画社会」があると考える。</li> </ul>   |
| 50歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性のリーダーの多くは独身であったり、子育てを祖母に頼っていたりする事が多い。結婚退職後は、子育て中心から介護中心へととなり、働く環境ではない。安心して子どもが過ごせる社会づくり、介護費の軽減、税制見直し、賃金の男女格差をなくす等様々な課題を一つひとつ解決してもらいたい。</li> <li>・男女共同参画の前に少子化対策の必要がある。女性の最高のキャリアは子どもを育て教育することと思う。</li> </ul>  |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政側が「男女共同参画型」の形成のため施策を発表するとともに、個人として男女も自ら意識改革をする必要がある。両方向からの取り組みが大切だと思う。</li> <li>・男女共同参画という言葉、活動など知らない人が多いので、広くみんなに知ってもらえる事が大事だと思う。家事全部、育児全部を女性が行う習慣を少しずつ改めていけば良いと思う。</li> <li>・富山市、行政で具体的な事例を広報などを通して紹介し、他の行政機関、民間での推進を図るよう、積極的に活動する。</li> <li>・人それぞれ考え方も違うし、目指す方向も違うのだから、間口を広く、色々な事を選択できるシステム作りが出来れば良いと思う。例えば個人事業主の会社では育児休業などは現実的ではない。皆が同じ方向を向いて社会生活を送れるわけではない。</li> </ul> |
| 60歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性が社会に参加すれば少子高齢化に繋がるとも考えられ、これからの日本は女性が働きやすい社会インフラ（保育所などの充実）の整備が求められる。</li> <li>・男女共同参画を男女同等参画と捉えていないだろうか。両性の特性を生かし助け合いながら尊重し合うことが目的であると思う。なんでも同等と位置付けると男性としてのたくましさ、女性としてのたおやかさという良い面でも否定されていくような気がする。人間皆共同参画社会を目指すべきだと思う。</li> <li>・日本会議を中心とした反ジェンダーフリー運動が全国的に行政の圧力となってきている。富山市が男女共同参画社会へと積極的に推進していく旨を宣言していくことも重要と思う。</li> </ul>  |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画は、結局女性への負担にならないか。何か案があるわけではないが、女性への負担がなくなるような企画を希望する。</li> <li>・男女共に権利と義務をもっと理解することについてセミナーなどあればいい。</li> <li>・法律や社会の風潮が変われば「男女共同参画社会」も自然に多くの人に受け入れられると思う。そのためにも学校教育をはじめ、いろんな機会に、男女平等を基本とした社会理念の定着・推進を図り、バランスのとれた日常を送れることが今、求められる姿であると思う。</li> </ul>   |
| 70歳代 | 男性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画についてもっとPRしてほしい。（PRとは広報誌やパンフレットだけではなく地域（町内）における具体的な活動）</li> <li>・法律や制度を机上で考えるのは簡単だが、周知実行させることが大事である。そのチェック制度となる方針を確立しなければならないと思う。</li> </ul>   |
|      | 女性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・少しずつ変わりつつあるが、民間の企業では育児休業が取れても復帰が難しい会社がまだまだ多い。大企業、公務員は育児休業が当たり前になっているが、働く女性の半数くらいはならない。現実には不均等社会と感じる。</li> </ul>   |

|      |    |  |
|------|----|--|
| 70歳代 | 女性 | ・子どもの数が減少している現実を男性が本当に理解しているのか疑問である。少子化により、将来、年金や税金を誰が担っていくのか、国会や、職場でのセクハラ・マタハラを目にする時、本当に腹立たしく思う。まず、男性の意識改革、教育を始める必要がある。 |
|------|----|--|